

西朋 31

西朋登高会

— 目 次 —

巻頭言	・・・・・・・・・2
山行総覧	・・・・・・・・・3
追悼：24期 渡辺容子さん	・・・・9
山行記録	
2009年度	・・・・・・・・11
2010年度	・・・・・・・・45
2011年度	・・・・・・・・83
付録	・・・・・・・・131
総会・西朋祭スナップ	・・・・134
西高WV部記録	・・・・・・・・136
西朋登高会会則	・・・・・・・・137



北アルプス 餓鬼岳より蓮華岳・鹿島槍ヶ岳

巻頭言

西朋31号を発行します。2009年から2011年の3年間の活動記録を集めました。

この3年間、皆様の活動の結果、年間60回前後の山行がありました。これ以外にも、会に届けられていない山行も多くあると思います。3年を通じて一番多く山に行かれているのは12期の橋本さんです。記録を見て頂ければわかりますが、回数だけではなく、その時間も驚異的な速さで70才の歳をまったく感じさせません。12期の小川さん、30期の岡田さんは、海外の山に精力的に行かれており、一部の記録を寄せていただきました。また、38期玉田（旧姓、笠原）さんは子育てが一段落された後の再開された山の記録を投稿いただきました。

会の山行としては、夏の東北地方の沢登り、冬山合宿などを尾崎さん中心に実施しております。私事ですが昨年5月に渋谷の宮下公園での岩登りトレーニングで痛めた肩（いわゆる五十肩です）半年、山に行けず、例年参加していた夏山、冬山にも参加できない状態でした。体のメンテナンスの大事さを感じた一年でした。

西高の方針として西高WV部の活動に西朋メンバーが参加できなくなって10年がたちました。WV部へOBが参加することで始まっていた人のつながりのきっかけがなくなってしまったことの影響は大きなものがあり、そのあと学生を中心とした活動ができなくなってしまいました。

同時に会の性質も変わってきており、会則も実情に合わないものとなってきました。会則の見直しは、今年一年の宿題として総会でも取り上げました。ご意見をお待ちしております。

会長職を遠藤さんから引き継いで早いもので4年目に入りました。私自身も含めて山の活動をさらに活発にすることを目標にしていたのですが、思ったようにいっていないのが現状です。それでも西朋の場が続くことで、新しい人との出会いがあり、初めての場所へ行く機会が生まれることもあっております。そのことに「西朋31号」が少しでもお役にたてれば幸いです。

会長 松本 哲郎

2009 年度（平成 21 年度） 山行総覧 その 1

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
0901	4/4	頸城/ST：大草連～大渚山	尾崎	
0902	4/7	奥秩父：雁坂嶺	橋本	
0903	4/18	武蔵丘陵/RCT：日和田山	松本, 尾崎, 島田	
0904	4/24	丹沢：西丹沢～檜洞丸	橋本	
0905	4/28	富士山：須走り口～本五合目	橋本	
0906	5/2-3	富士山【春山合宿】：吉田口～お鉢めぐり	小川, 山野, 中村	上野利
0907	5/2-4	飯豊/VR【春山合宿】：幸七尾根～北股岳～飯豊本山	上野午, 尾崎	上野利
0908	5/15	丹沢：西丹沢～檜洞丸	橋本	
0909	5/21	箱根：早雲山～箱根神山	橋本	
0910	5/23	北アルプス/ST：柵池～白馬乗鞍岳	尾崎	
0911	5/26	新地平～雁峠・古礼山	橋本	
0912	5/30-6/1	北アルプス：早月尾根～剣岳	松本, 尾崎, 杉坂	山野
0913	6/9	奥秩父：大弛峠～北奥千丈岳・金峰山	橋本	
0914	6/14	奥秩父/WC：笛吹川ナメラ沢～破風山～雁坂峠	中村, 島田, 中山	山野
0915	6/15	南会津：桧枝岐～会津駒ヶ岳	橋本	
0916	6/28	武蔵丘陵/RCT：日和田山	尾崎, 他4	
0917	7/5	奥多摩/WC：北秋川クドレ沢左俣～右俣下降	青谷, 尾崎, 島田, 杉坂	中山
0918	7/14	奥秩父：毛木平～甲武信岳～三宝山～十文字峠	橋本	
0919	8/2	八ヶ岳：天女山～三ッ頭	尾崎	
0920	8/3	加賀：平瀬口～白山	橋本	
0921	8/4	北アルプス南部：田の原～木曾御嶽山	橋本	
0922	8/5	中央アルプス：木曾駒ヶ岳	橋本	
0923	8/6-9	北アルプス：七倉～烏帽子岳～高天原～湯俣	加藤	
0924	8/12～17	朝日連峰【夏山合宿】：西大鳥川桁形川～東大鳥川西ノ俣沢 B沢右俣下降～水上沢右岸沢～東基六沢下降～泡滝ダム	松本, 上野午, 尾崎	上野利
0925	8/15	奥秩父/WC：笛吹川ヌク沢	山野, 中村, 渡辺喜	上野利
0926	8/26	富士山：須走り口～お鉢めぐり, 剣ヶ峰	橋本	
0927	8/29	奥多摩/WC：日原川川苔谷逆川	岡田, 他1	
0928	8/29	奥多摩/RCT：氷川屏風岩	松本, 尾崎, 島田	
0929	8/29-30	奥多摩/西朋祭：氷川キャンプ場	林, 山野, 中村, 渡辺喜, 遠藤, 松本, 青谷, 岡田, 上野, 尾崎, 島田, 杉坂	
0930	9/1	富士山：吉田口～お鉢	小川	山野
0931	9/4-5	五頭連峰/WC：安野川小倉沢～五頭山～宝珠山	尾崎, 島田	松本
0932	9/6	奥多摩/WC：北秋川シンナソー	青谷, 他1	
	9/9	南アルプス：黒戸尾根～甲斐駒ヶ岳	橋本	
0933	9/20-22	上信/WC：魚野川本流	中村, 松本, 尾崎	青谷
		(裏面へ続く)		
VR:バリエーションルート, WC:沢登り, ST:山スキー, IC:アイスクライミング, TR:トレイルランニング				
FC(T):フリークライミング(トレーニング), RC(T):ロッククライミング(トレーニング)				

2009 年度（平成 21 年度） 山行総覧 その 2

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
0934	9/25	富士山：吉田口～剣ヶ峰	小川	山野
0935	10/10-12	中央アルプス：北沢尾根～南駒ヶ岳～奥念丈岳～烏帽子岳	尾崎	
0936	10/12	富士山：吉田口～剣ヶ峰	小川	
0937	11/15	御坂/WC：東入川～鬼ヶ岳・雪頭岳	尾崎, 杉坂	山野
0938	11/15	上州：妙義山	中村, 渡辺	
0939	11/20	丹沢：西丹沢～檜洞丸	橋本	
0940	11/22-23	神室連峰：金山～台山尾根, 神室山敗退	尾崎	島田
0941	12/5	上越：天神平～谷川岳	尾崎, 島田	中山
0942	12/23-1/11	ニュージーランド/VR：アルパイアリング峰, 他	岡田	
0943	12/24	丹沢：用木沢出会～加入堂山・大室山	橋本	
0944	12/27-30	北ア/VR：釣魚尾根～餓鬼岳	松本, 尾崎	遠藤
0945	1/2	丹沢：書策新道～塔ノ岳・丹沢山	橋本	
0946	1/3	越後：櫛形山 雪訓	尾崎, 杉坂	
0947	1/9-10	八ヶ岳：杣添尾根～横岳～赤岳～美濃戸口	尾崎, 杉坂	松本
0948	1/9-10	八ヶ岳：夏沢鉱泉～硫黄岳～美濃戸口	中村	松本
0949	1/24	道志：山伏峠～御正体山	橋本	
0950	1/30	湘南/RCT：鷹取山	松本, 他	
0951	1/31	安倍奥：羽衣～七面山	橋本	
0952	2/13-14	信越/ST：根子岳～四阿山～パルコール孺恋	尾崎	松本
0953	2/17	丹沢：西丹沢～檜洞丸	橋本	
0954	2/20	秩父：矢岳	青谷, 他1	
0955	2/24	奥多摩：鴨沢～雲取山	橋本	
0956	3/12	南アルプス深南部：寸又峡～沢口山	上野午	
0957	3/17	奥秩父：広瀬～雁坂嶺	橋本	
0958	3/20-21	堂津山塊/VR：奉納温泉～奥西山	尾崎, 中山	松本
0959	3/27-28	堂津山塊/VR：日道沢右岸尾根～中西山～奥西山～ ～奉納温泉	尾崎, 杉坂	松本
0960	3/31	丹沢：西丹沢～檜洞丸	橋本	

VR:バリエーションルート, WC:沢登り, ST:山スキー, IC:アイスクライミング, TR:トレイルランニング
 FC(T):フリークライミング(トレーニング), RC(T):ロッククライミング(トレーニング)

2010年度（平成22年度）山行総覧 その1

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
1001	4/3	頸城/ST：大草連～大渚山	尾崎	
1002	4/10	奥多摩/RCT：つづら岩	松本, 青谷, 尾崎, 島田	
1003	4/25	北アルプス/ST：船越の頭～金山沢	尾崎	
1004	5/1-3	和賀：【春山合宿】貝沢～羽後朝日岳～和賀岳 ～白岩山～小滝山	松本, 青谷, 上野, 尾崎, 杉坂	山野
1005	5/8	尾瀬/ST：御池～燧ヶ岳	山田, 他1	松本
1006	5/12	奥秩父：三ノ瀬～唐松尾山	橋本	
1007	5/17	丹沢：鍋割山	橋本	
1008	5/28	丹沢：檜洞丸	橋本	
1009	5/29-30	真昼山地：川口溪谷～真昼岳～女神山	尾崎	島田
1010	6/2	奥秩父：大弛峠～金峰山, 北奥千丈岳	橋本	
1011	6/6	大菩薩/WC：泉水谷小室川谷	松本, 尾崎, 島田	中山
1012	6/17	南アルプス：老平～檜横手山	橋本	
1013	6/24	奥秩父：西沢溪谷入口～甲武信岳	橋本	
1014	7/19	富士山：須走り口～山頂	橋本	
1015	7/16-25	ピレネー：アネト山 他	岡田	
1016	7/19	富士山：須走口～お鉢	橋本	
1017	7/30-31	南アルプス/WC：岳沢越～三峰川～仙丈岳	尾崎, 島田, 中山	上野
1018	8/1	奥多摩/WC：梅沢下部瀑流帯	小川, 山野	
1019	8/4	鳳凰三山	橋本	
1020	8/14-17	会越国境/WC：【夏山合宿】室谷～御神楽岳, 駒形沢～駒形山	松本, 上野, 尾崎	遠藤
1021	8/21-22	奥多摩：【西朋祭】西朋祭		
1022	8/24	南アルプス：甲斐駒ヶ岳	橋本	
1023	9/4	弁慶山地：梅ヶ沢～相沢川上流 偵察	尾崎, 杉坂	
1024	9/11	西上州/WC：赤岩沢悪谷～大ナゲシ～赤岩峠	松本, 青谷	山野
1025	9/13	南アルプス：田代～転付峠	橋本	
1026	9/18-19	北アルプス：クリヤ谷～笠ヶ岳～鏡平, 笠谷偵察	尾崎	松本
1027	9/26-27	南アルプス：白鳳三山	橋本	
1028	10/18	丹沢：檜洞丸	橋本	
1029	10/23-24	信越：秋山郷～裏岩菅山～志賀高原	尾崎	
1030	10/27	富士山：吉田口～山頂	橋本	
1031	11/13-14	太平山地：旭又、敗退	尾崎, 杉坂	松本
1032	11/15	箱根：神山	橋本	

VR:バリエーションルート, WC:沢登り, ST:山スキー, IC:アイスクライミング, TR:トレイルランニング
FC(T):フリークライミング(トレーニング), RC(T):ロッククライミング(トレーニング)

2010年度（平成22年度）山行総覧 その2

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
1033	11/29	安倍奥：十枚山	橋本	
1034	12/11	矢代山地：青田南葉山～籠町南葉山	尾崎	
1035	12/26-30	中央アルプス：【冬山合宿】伊奈川ダム～空木岳～池山尾根	松本, 尾崎	遠藤
1036	1/2	丹沢：書策新道～塔ノ岳・丹沢山	橋本	
1037	1/3	葡萄山地：今川～無名峰	尾崎, 中山, 杉坂	松本
1038	1/19	安倍奥：羽衣～七面山	橋本	
1039	1/23	奥武蔵/RCT：日和田山	松本, 尾崎, 島田, 中山	
1040	1/31	丹沢：西丹沢～檜洞丸	橋本	
1041	2/8	丹沢：用木沢出合～大室山・加入道山	橋本	
1042	2/11-12	八ヶ岳：御小屋尾根～阿弥陀岳	尾崎, 島田	松本
1043	2/22	奥秩父：鴨沢～雲取山	橋本	
1044	2/23	丹沢：檜岳・雨山	橋本, 黒澤	
1045	3/3	奥道志：山伏峠～御正体山	橋本	
1046	3/26	堂津山塊：日道沢左岸尾根末端偵察	尾崎	
1047	3/29	丹沢：宮ヶ瀬～丹沢山～塔ノ岳～大倉	橋本	
VR:バリエーションルート, WC:沢登り, ST:山スキー, IC:アイスクライミング, TR:トレイルランニング FC(T):フリークライミング(トレーニング), RC(T):ロッククライミング(トレーニング)				

2011年度(平成23年度)山行総覧 その1

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
1101	4/5	丹沢：檜岳	橋本，他	
1102	4/16	上越：天神尾根～谷川岳～西黒尾根	尾崎，杉坂	島田
1103	4/22	奥秩父：雁坂嶺	橋本	
1104	5/2-4	上越/VR：銅倉尾根～下津川山～巻機山	尾崎，杉坂	島田
1105	5/	中信：太郎山	玉田	
1106	5/6	富士山/ST：須走口～剣ヶ峰	山田，他1	松本
1107	5/20	富士五湖：三国山、大洞山	橋本，他	
1108	5/21	上越/ST：清水～巻機山	尾崎	松本
1109	5/21	渋谷/FCT：宮下公園ボルダリング	山野，松本	
1110	6/3	丹沢：西丹沢～石棚山稜～檜洞丸	橋本	
1111	6/4	北アルプス/ST：白馬大雪渓	尾崎	山野
1112	6/4-5	那須：	小川，松本，他	山野
1113	6/8	奥多摩：丹波～飛龍山	橋本	
1114	6/15	奥秩父：大弛峠～北奥千丈岳・金峰山	橋本	
1115	6/25	奥多摩/WC：巳ノ戸谷～鷹ノ巣山～峰谷	尾崎，島田，中山，保延，他	上野利
1116	6/28	上越：天神平～谷川岳	玉田	
1117	7/3	北八ヶ岳：大河原峠～蓼科山	玉田	
1118	7/6	奥秩父：西沢溪谷～甲武信ヶ岳	橋本	
1119	7/	北八ヶ岳：蓼科山	玉田	
1120	7/8	富士山：須走口～七合目	橋本，他	
1121	7/19	上越：天神尾根～谷川岳	玉田	
1122	7/24	信越：湯の丸山	玉田	
1123	7/25	富士山：吉田口～八合目	橋本	
1124	8/2-6	北アルプス：室堂～五色ヶ原～薬師岳	山野，他4	
1125	8/3	北アルプス：蝶ヶ岳	橋本，他	
1126	8/3-14	インド：ゴシェップ・カンリ，ストック・カンリ	小川，他4	
1127	8/5-7	トルコ：アララット山	岡田，他1	
1128	8/10	中央アルプス：木曾御嶽山	橋本	
1129	8/11	中央アルプス：木曾駒ヶ岳	橋本	
1130	8/11-14	上越/WC：清津川本流～白砂山～獺師ノ沢～黒渋沢	上野午，尾崎	松本
1131	8/16	北アルプス：一ノ沢～常念岳	玉田	
1132	8/21-22	北アルプス：白馬鍾温泉～白馬岳～蓮華温泉	尾崎，他	
1133	8/27	奥多摩：鋸尾根，御前山	関谷	
1134	8/27-28	奥多摩/西朋祭：氷川キャンプ場		
1135	8/29	南アルプス：青木鉱泉～鳳凰三山	橋本	
1136	8/28	奥多摩：御岳山，御岳沢～上養沢	青谷	
1137	9/22	南アルプス：黒戸尾根～甲斐駒ヶ岳	橋本	

VR:バリエーションルート，WC:沢登り，ST:山スキー，IC:アイスクライミング，TR:トレイルランニング
FC(T):フリークライミング(トレーニング)，RC(T):ロッククライミング(トレーニング)

2011年度(平成23年度)山行総覧 その2

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
1138	9/23-25	中央アルプス/WC: 与田切川～奥念丈岳～空木岳	尾崎, 中山	松本
1139	9/30	丹沢: 雨山、檜山	橋本, 他	
1140	10/9-10	頸城: 天狗原山～焼山～妙高山	尾崎	松本
1141	10/11	富士山: 吉田口～本八合目白雲荘	橋本	
1142	10/20	八ヶ岳: 県界尾根	玉田	
1143	10/25	奥秩父: 増富～金峰山	橋本	
1144	11/1	箱根: 明神ヶ岳	橋本, 他	
1145	11/8	富士山: 御殿場口～赤岩八合館	橋本	
1146	11/3-5	太平山地: 大倉又沢～馬場目岳～奥岳～前岳	尾崎	
1147	11/16	丹沢: 雨山、檜山	橋本, 他	
1148	11/26-27	下田: 八木鼻～粟ヶ岳～水源池	尾崎	松本
1149	11/29	丹沢: 西丹沢～檜洞丸	橋本	
1150	12/13	丹沢: 用木沢出合～大室山	橋本	
1151	12/27	丹沢: 山伏トンネル～御正体山	橋本	
1152	12/30-1/1	中央アルプス: 小八郎岳～池平山～奥念丈岳	尾崎	松本
1153	1/2	丹沢: 戸沢山荘～蛭ヶ岳	橋本	
1154	1/18	奥多摩: 鴨沢～雲取山	橋本	
1155	1/25	丹沢: 西丹沢～檜洞丸	橋本	
1156	1/31	身延: 羽衣～七面山	橋本	
1157	1/	奥武蔵: 破風山	玉田, 他	
1158	2/4-5	上越: 美佐島～坂戸山～583m峰	尾崎, 保延, 杉坂	松本
1159	2/13	富士山: 吉田口～五合目	橋本	
1160	2/22	奥秩父: 雁坂嶺	橋本	
1161	2/	奥武蔵: 芦ヶ久保～丸山	玉田	
1162	2/25-26	奥秩父: 瑞牆山荘～金峰山	小川, 山野, 松本	上野
1163	2/28	丹沢: 西丹沢～檜洞丸	橋本	
1164	3/3	安達太良山地/ST: 岳温泉～安達太良山	山田	
1165	3/7	奥秩父: 里宮平～瑞牆山	橋本	
1166	3/16	富士五湖: 麓～毛無山	橋本	
1167	3/19-20	五頭山地: 山葵山～松平山～五頭山	尾崎, 杉坂	山野
1168	3/22	御坂: 黒岳	橋本	
1169	3/28	富士山: 吉田口～六合目	橋本	
1170	3/	信越: 上田太郎山	玉田	
1171	3/	西上州: 下仁田～物語山	玉田	

VR: バリエーションルート, WC: 沢登り, ST: 山スキー, IC: アイスクライミング, TR: トレイルランニング
 FC(T): フリークライミング (トレーニング), RC(T): ロッククライミング (トレーニング)

追悼：24期・渡辺 容子さん

会員・渡辺 容子さん（24期）のこと

会員の渡辺容子さんが3月30日、亡くられました。享年58歳。前日に誕生日を迎えたばかりでした。

渡辺さんが2010年6月に自身で発行した生前追悼文集「ようこがたり」には「高校では児童文化研究部とワンダーフォーゲル部に所属し、教室にいる時間よりも部室にいる時間のほうが長かったです」と記しています。

卒業後の1972年、早大に進学と同時に、西朋登高会に入会し、秋山（入戸野）まゆみさん（21期）、佐々木（宮崎）あや子さん（21期）、安在（山田）清美さん（25期）らと西朋女子部として、夏季の裏銀座縦走、北海道トムラウシ、東北の山々のみならず、冬季の燕～大天井岳～蝶が岳縦走、八ヶ岳合宿、会津や尾瀬での山スキー合宿などを行い、女子部の黄金時代を築きました。

大学卒業後は杉並区の学童クラブ指導員として働くかたわら、「書くことが本当に好き」という渡辺さんは、個人通信「暗川（くらごう）」（現在はブログに移行）などで教育の荒廃や、貧困・養育放棄などに悩む子供達の姿、子供達の可能性などに対して思いのたけを書き続け、学童クラブでの体験を「負けるな子どもたち！ースーパーガキ大将ここにあり」（径書房刊）として出版しました。

40歳の時に乳がんが見つかりますが、渡辺さんは手術などの治療を拒否し、がんと向き合う日々を選択しました。そして「暗川」でなぜ無治療を選んだのか、現代の医療への疑問などを精力的に発信していきます。その後、がんはリンパ節や骨に転移し、一昨年春、主治医から余命1年を告げられると、これまでの病状を綴った「後悔しない治療 よりよく生きるための選択」（径書房）を出版し、「自分で考え、選択する生き方」の大切さを訴え、反響を呼びました。

がんとともに生きる日々の中でも、第二の故郷・小笠原を始め、各地に旅行し、歴史教科書採択撤回裁判や教育基本法違憲訴訟、違法和田中裁判に参加し、2011年の福島原発事故の後には反原発デモにも参加しました。

何事にも真正面から取り組む姿は、今秋公開予定のドキュメンタリー映画「がん 容子の選択」（ビデオプレス制作）に収められています。映画の中には西朋の山行の際に撮影された満面の笑みを浮かべた写真も登場します。

山行、学童クラブ、教育問題の集会など、40年以上、様々な場面で出会う機会がありましたが、昨年12月23日に山野さん、安在さん、井口さん（19期）と映画の試写会でお目にかかったのが最後となりました。車椅子の上から「またね」と言って笑顔で元気に手を振ってくれた姿が目には焼きついています。「自分で考える大切さ」を教えてくれてありがとうございます。ご冥福をお祈りいたします。

滝口（山田）優子（21期）

渡辺容子さんの情報



渡辺容子さんは、2012年3月30日に亡くなりました。58歳でした。渡辺さんは、乳がん患者として、ご自分の体験・考え方を積極的に発信してきました。今後も径書房から最後の本が出版される予定です。またビデオプレスは、ドキュメンタリー映画「がん容子の選択」を今秋に発表する予定です。有志による「偲ぶ会」も計画されています。このページでは、こうした渡辺容子さんに関する情報を提供してきますので、宜しくお願いします。お問い合わせメールは[こちら](#)へ。(2012年4月15日)

夢で聞いたよ、この音楽！～渡辺容子さん追悼コンサート

とき 7月29日(日) 15:00～18:00

ところ 久我山ギャラリー(渡辺さん別宅) 井の頭線「久我山」10分

主催 容子さん「遺言」実行委員会

* 詳細は後日発表します。ぜひご参加ください。

2012/4/16 「朝日新聞」(夕刊)に記事

朝日 2012.4.16

「自分で考える」貫き逝く
乳がん記出版 渡辺容子さん

2010年6月にこの面で紹介した「乳がん 後悔しない治療」(径書房)の著者渡辺容子さんが3月30日、死去した。58歳だった。

東京都の学童クラブ職員だった40歳の時、乳がんが分かった渡辺さんは、自分の病状と治療、医療への疑問、患者の心理をブログなどで発信し続けた。一昨年春、主治医から余命1年を告げられると本を出版し、がんと向き合い、自分で考えることの大切さを訴えた。「がんになってから会いたい人に会い、好きなよ

うに生きられた。人生の贈り物だった」と話していた。

1年が過ぎても病状をうまくコントロールして、亡き父親が残した絵の個展を開き、旅をし、反原発デモに参加し、母親をみとった。その姿はドキュメンタリー映画「がん容子の選択」(ビデオプレス制作)として今秋、公開される予定だ。

年明けから、痛みで体の自由が利かなくなり、自分で探しておいたホスピスに移って4日目の未明、妹越子さんに見とられて息を引き取った。

葬儀はしないと遺言していたが、自宅に戻った容子さんの元には、長年の友人や患者仲間が集まり、子どもと猫と山を愛した彼女の思い出を語りあった。

(伊佐蒔子)

<http://vpress.la.coocan.jp/yoko.html>

2009 年度

2009 年度役員

会長	松本 哲郎
チーフリーダー	上野 午良
サブリーダー	尾崎 宏和
学生リーダー	島田 悠彦
会計	上野 利之
記録・会報	山野 裕 尾崎 宏和 灘吉 聡 島田 悠彦
装備	灘吉 聡
西高係	山野 裕 福村 任生 小澤 晃平
都岳連関係	上野 午良
ホームページ係	灘吉 聡
超 OB 係	林 武志

0905 富士山：須走り口～本五合目

【期日】 2009. 4. 28(火) 【参加者】 橋本

連休の混雑をさけて、昨日、須走り口から7合目まで往復の計画で出かけました。富士アザミラインは通行可。標高1200m位まで名残のサクラが咲いている。1500m以上はまだ木々は冬眠中。須走口新5合目Pは車が1台のみ。雪はなし、気温-2℃。6:28 出発。

今日は体が重い。出発してすぐ、古御岳神社でアイゼン着用。トレールはあるが、落枝などで歩き難い。樹林帯の中のルートは凍結している。樹林帯をぬけ、ダケカンバなどの低木帯では積雪でルートに雪がかぶり、これも歩き難い。少し風がでてきた。夏ルートには所々ロープがはってあるが、次第に見えなくなる。殆どトレールもないので、直登気味に登る。斜面の雪はクラストしており、アイゼンがよく効く。南東方面の箱根外輪山付近に急に大きな黒雲が発生し、太陽を覆ってしまったため、急激に気温が下がってきた。風が強くなり、歩行が困難になってくる。また、小規模な竜巻が発生し始めた。約400mの高度差を登り、本5合目の林館に到着7:46。この山小屋と鳥居は半分雪に埋もれている。6合目まではと思っていたが、雪片交じりの強風が吹き荒れ、小規模な竜巻などが発生したので、残念ながら引き返すことにする。新5合目帰着8:20。

春の富士山は想像以上に厳しい。この時期、単独で、ザイル・ピッケル・ツェルト・完全防寒具を持たずに登ること自体大変危険であることがイヤというほど判った。

0906 富士山：吉田口～お鉢めぐり

【期日】2009. 5. 2～3 【参加者】小川, 山野, 中村

上野利之君、連絡先ありがとうございます。

今回の富士山は天気もよく、素晴らしい雪景色の中を登り下りできたこと、頂上でテントでとまれたことなど素晴らしかったですが、荷物を担いで登って本当に疲れたなという感じでした。

5月2日は途中仮眠して小川さんの車で5時20分に五合目につき6時35分から歩き始めました。佐藤小屋に登山届を出して雪の斜面を登り続けました。途中スニーカーの若者が2組八合目付近から登れなくなって引き返してました。登山者は思ったほど多くなく、30人位でした。17時15分に頂上のお鉢めぐりに着きました。小屋の裏にテントを張りましたが、風が結構強く夜中じゅうバタバタしてました。疲れていたのに気にしないで寝てましたが、フライがかぎ裂きになりました。

3日はゆっくり起きて、小川さんと山野で9時15分から1時間半でお鉢めぐりをしました。高曇りでしたが南アルプスも見えてよかったです。時々突風がきましたが歩けないほどではありませんでした。12時半から下り始め17時過ぎに五合目につきました。今まで3回日帰りで富士山に登りましたが今回ほど疲れたことはありませんでした。荷物があるとこんなにもちがうものか。小川さんは昨年5回も高所順応のために富士山に登られたそうですが、今回は足がつったりしたそうです。中村正俊君は上で食事がとれずお疲れさんでした。中央高速は往復小仏トンネル付近で渋滞でした。

0907 飯豊/VR：幸七尾根～北股岳～飯豊本山

【期日】2009. 5. 2～4 【参加者】上野午，尾崎

5/2 梅花皮荘 917-1022 飯豊山荘 梶川尾根登り口 1035-1135 R 1154-1300 ごろ R-1359 石転び
門内沢出合幕営、門内沢偵察

小国駅 8 時の町営バスで去年の下山地・梅花皮荘に入る。積雪は山の上はたっぷりあるが、下の方はやや少ないかなという感じである。9 時過ぎに歩き始め、温身平を過ぎると道に雪が出てくる。確かに、去年は手前の飯豊山荘でもだいぶ雪があった。石転び沢に沿う道は所々微妙なトラバースがあってスキーをつけていたりすると気を使いそうな場所もある。12 時過ぎ、沢が左に回りこんだ後右に曲がる標高 600m 付近でいったん雪渓に下りる。右岸から滝沢を合わせるあたりは谷筋は一面雪に覆われているが、左岸から梶川を合わせたあと、雪渓が割れて飛び石沿いに渡渉する。側壁からの流水を汲み、石転び雪渓と門内沢の出合に 14 時に到着する。ここは目指す幸七尾根の取付台地、格好の幕営地だ。

幸七尾根末端は超ヤブなので門内沢側から取り付くこととし、30 分ほど偵察に行く。990m 付近で合流する右岸 3 本目の窪を、右上に生える 2 本の木を目指して詰める方針とし台地に戻る。連休だというのにスキーヤーは 1 人通過したのみ、幕営は後からもう 1 パーティ 6 人だけ。山の景色はまるで白馬雪渓だが、あの喧騒はまったくなく、静かなテントを楽しんだ。



石転び雪渓と幸七尾根

5/3 発 505-625 1170m 641-753 1400m-912 1680m-1050 北股岳 1115-1227 烏帽子岳-1350 R
1408-1506 R-1600 御西小屋

5時出発。昨日の方針通り門内沢に入る。昨日目をつけた“3本目”の窪は標高差があり上部まで時間がかかりそうなことから、そのすぐ手前に新たに気付いた本物の3本目の窪状に行くこととする。こちらは上部まで標高差は小さく30分ほどで登れそうである。最上部に立つ1本の木を目指して登る。窪の左のヤブの中にかすかに踏み跡があるように感じたが気のせいかな。登りついた尾根も基本的にヤブであるが、こちらは確実に通行跡がある。尾根右側の残雪も拾いながら、それなりに急な尾根を詰めていく。

1400m付近からは完全に雪尾根となって、傾斜もほどよい。1550m付近で“にせ3本目の窪”が突き上げる。この窪は上部は急であり、新雪が積もりもぐりそう。雪崩のリスクも高かろう。今回のルート取りは大正解だった。その上で支稜が合わさると、尾根が収斂するためか、数日前と思われる先行トレースに合流する。その後しばらくトレース跡が続いたが、やがて消えた。左には石転び沢最上部が本当に急である。梅花皮小屋と門内小屋がほとんど同標高となって、北股岳頂上の大雪庇がすぐ目の上に迫ってくる。北股岳山頂まで6時間弱、稜線まで快適な尾根の登高が続く。結局、下端を巻いたためかザイルは出なかった。



北股岳で核心部が終了すると、2人とも気が抜けてしまう。烏帽子岳と御西小屋がはるか遠くに見通せる。梅花皮岳の登り返しはきつかったが、行動食で回復した。それでも御西小屋までは長かったが、見た目ほどでなく歩けたと思う。御西小屋は新しく清潔で、暖かな小屋だった。5パーティ15人ほどが宿泊。トマの風メンバーは水晶尾根から大日岳そして二王子岳までとのこと、そのバイタリティに唖ってしまう。

5/4 発 620-735 飯豊本山 752-900 草履塚 925-1040 七森-1110 ごろ三国小屋-1215 地藏岳三国山コル-1342 下十五里-1450 川入民宿

今日はゆっくり出発。早朝のうち濃かった霧もやがて晴れ、最高峰大日岳が右手に望める。本山を経てメインルートを通入へ。本山まで来ると意外にも、夏山にいそうな中高年夫婦も多く、雪山で大丈夫なのかなあと感じてしまう。切合小屋手前の大斜面はスキーで滑ると本当に気持ちよさそうだ。切合から三国小屋までは同じくらいの標高の小ピークの登り下りがあり、見えている割に遠い。七森の岩場の下降は西側に夏道があるようだが、それが使えず岩場と雪のコンタクトラインをブッシュ頼りに強引に下降する。左下が切れていてちょっといやらしい。そのすぐ後で出会った2人パーティには夏道を勧めたが、そちらも登れなかったようで、試行錯誤の上東側

を登っていった。ちょっと悪いことを言ってしまったが、振り返って見ていると、我々が通った所以上に雪庇の末端を歩いている。見ている方が恐ろしい。2月の那須の救助体験がよみがえり、この命知らずめ、と思ってしまう。ここで落ちたら助けようがない。



飯豊最高峰大日岳を望む

三国岳からの下降は岩場が続く。見た目ほど急ではないのだが、高度感があって下りはそこそこ恐い部分もある。下り終えた雪尾根で、真中におばあさんをはさみ、先頭はザイルを肩に掛けたガイドと思しき3人パーティとすれ違う。その方の足どりはしっかりしていて、経験者だろうか。すごいと思う反面いろいろ考えてしまう。地蔵山を巻き、長坂の下降に入るが、中十五里くらいまでは雪があり予想より楽に下山した。2000年夏の合宿で、とにかくこの下りが辛かった記憶ばかりだったから。

川入では地元の方のぜんまい揉みを初めて見る。赤いのがぜんまい、青い(緑)のがごみとのこと。私はゼンマイ系はまったく苦手(見るのも、当然触れるのも食べるのも)なのだが、怖いもの見たさか敵を知るべしなのか興味津々、しっかり写真に収めて帰途に就いた。

下界の生活で、自分はこれでいいのか、もっとしっかりしなくてはと思うことが最近多い。そのためなのか、個人的には昨年以上に疲れを感じた。それでも、山はいいなと思いが募る家路であった。

0908 丹沢：西丹沢～檜洞丸

【期日】2009. 5. 15 【参加者】橋本

湿度が低く、天気は快晴。無風。8:08 西丹沢県民の森出発。9:35 ヤブ沢の頭分岐着。10:28 テシロの頭着。シロヤシオが満開ですばらしい。トウゴクミツバツツジ、アカヤシオはまだ開花していない。テシロの頭手前のブナ巨木林の新緑は見事である。10:53 ツツジ尾根分岐着。11:10 檜洞丸着、昼食。12:28 展望園地着。13:52 西丹沢着。 所要5時間44分。

0912 北アルプス：早月尾根～剣岳

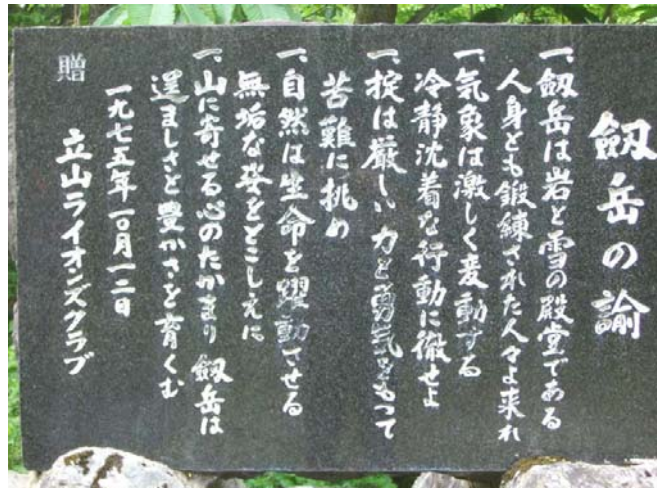
【期日】2009. 5. 30～6. 1 【参加者】松本, 尾崎, 杉坂

5/30 馬場島 745-8:30 1000m8:45-9:35 1200m-10:34 1430m-11:40 R 12:00-12:39 1920m-13:46
R-14:18 伝蔵小屋

29日夜, 上野から急行能登で出発。

30日, 滑川より富山地铁で上市へ, タクシーで馬場島へ入る。今日明日の天気予報は思わしくないが, 高曇りで頂上も見えている。雪は予想以上に無い。登り口にあるいくつかの遭難石碑を見送って, 早月尾根末端に取り付く。松尾平手前で竹の子を収穫する。雲で陽射しがささげられのので, 暑さも無く急登もさほど苦にならない。標高差 200m ごとにある表示に助けられながら登る。1700m くらいから雪が出てくる。1900m を過ぎると完全な雪尾根になってくる。順調な歩調と言うこともあり, この頃には休憩も多めにとっていく。早月小屋手前の急登付近で本格的な雨になるが, 小ピークを越えて小屋までは長くない。14時半, 小屋前の広場砂地に幕営する。

水は幸い小屋の玄関前にペットボトルが残されており, 雨水も集めてじゅうぶん足りてしまう。竹の子はゆでてそれだけで食べてもうまい。今夜のタイ風味カレーと明日夜の炊き込みご飯のおかずとしても山の恵みをいただいた。



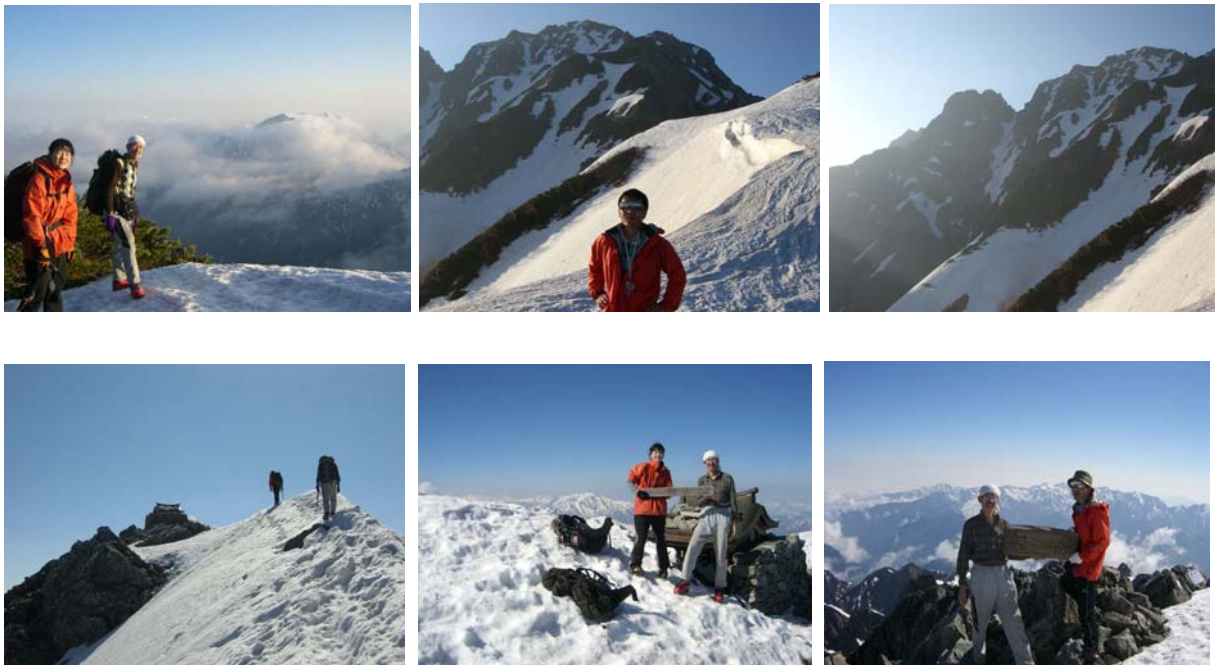
5/31 4:30 起床 終日停滞

雨は昼過ぎまで断続的に強く降った。四国沖に寒気を伴った低気圧がここ数日停滞し, 影響を食らっている。西日本方面は日曜朝から回復傾向だが, 北陸方面は遅れている。全体傾向として回復基調にあるので, アタックは明日月曜日へと順延を決める。登頂祝いに用意したはずのゼリーを作ったりしてゆっくり過ごしているに, 夕方には気持ちよく晴れてきた。

6/1 発 3:56-4:55 R- 5:44R- 6:34 R- 8:01 剣岳 8:35-9:20 R -10:45 早月伝蔵小屋 11:25-12:07 R-
13:20 R- 14:05 松尾平ベンチ-14:40 馬場島

まだ暗い中ヘッドランプで出発する。時折星空が見えるが, すぐまた濃いガスに覆われてしまう。早月小屋を出て 10 分ほどの急な雪壁で夏道を失い, ハイマツに突入する。厳冬期には登られていそうだが, ここはもっと左に夏道があったようで, 合流すると 1900m 緩傾斜部分に出る。冬

毛から夏毛に生え変わり中の雷鳥が数羽いる。標高 2000m を過ぎるあたりから急速にガスが切れ、快晴となり、雪に覆われた頂上へのルートが見渡せた。麓から見たときの黒々とした印象とはやはり違う。大部分は急雪壁の連続登高やトラバースが続き、滑ったらおしまい斜面である。基本的に池ノ谷側を進むが、一部尾根上や東大谷側に行く所は夏道の出た部分もある。いずれにしても、微妙な傾斜の違いで難易度は大きく異なるし、岩場や雪壁のどの部位に到達するか、ルートファインディングが問われる登高が続く。2800m 地点の小平地に達すると頂上が覆い被さるよう迫ってくる。別山尾根への分岐点標識がかすかに見えている。そこからも池ノ谷側を基本的に緊張した登高が続く。獅子頭やカニのハサミがどれだったかは判別できなかったが、6 月とはいえこのあたりは氷点下。雪壁から一部は氷壁となっている。ただ、鎖は完全に埋もれているとはいえ、岩が露出していない分簡単かもしれない。別山尾根を合わせ一投足で頂上へ。山はまだまだ銀世界。停滞後の大快晴に喜びを噛み締めた。



下山は締めてかかる。ハーネスを装着して、松本さん先頭に下り始める。だが下降時は雪も先ほどより緩んでおり、トレースもあるため思ったよりも楽であり、とくに危険も感じず 11 時前に帰幕した。すぐさま荷物をまとめ下山する。早月小屋直下はまだ雪もあり、急な下降なので気は抜けない。馬場島までは初夏の風に登頂の満足が増してくる。馬場島荘では杉坂さんのおかげでお風呂は無料では入ることができた。

早月の登りも下りバテバテになるのでは…頂上アタックもシビアだろう…と緊張して望んだ山行だった。それが逆に、想像よりもはるかにスムーズといえる山行だったかもしれない。山の神様が微笑んでくれたのだろうか。

0914 奥秩父：ナメラ沢

【期日】2009. 6. 14 【参加者】中村、島田、中山

駐車場 6:05 仕切り直し 6:20~7:10 ナメラ沢出合 7:20~中ノ沢出合通過 7:40~8:40[1520m]8:50
~10:10 奥の二俣 10:30~12:10 破風山稜線 13:00~雁坂嶺(R)~14:40 雁坂峠 14:50~16:20 駐車
場

雁坂峠への道へは料金所の右手にある駐車場の奥にゲートがある。前夜発なのでゲートすぐ近くにテントを張って中村さんからビールなどをいただき山の話をしてから寝る。星が見えていたのだが、起床時間には近くに落雷があり通り雨となった。皆で雨男は自分ではないなどと言いつつ合ったりしていた。舗装道路を行き、沓切沢橋から5分ほど登った「ナメラ沢入口」看板から久渡沢におりたち下流へ100mほどでナメラ出合に着く。中ノ沢手前の5m滝は左の強い水流を倦厭し、右手から登るがテラス状があり易しい。10X20m ナメ滝は中央は上部が滑りそうなので左端に行く。ナメは繰り返す現れるが側壁からのちょっとした倒木が少々煩わしい。それでも時折日が差すと木々の明るい緑が美しい。奥の二俣からは中山君に先頭を良いペースで歩いてもらい、根の張った土と苔岩の沢筋を快適に稜線に至る。ガスのなか山頂を往復して枯笹の雁坂峠へ。稜線ではなく九十九折りの後で漸く晴れたので残念ではあった。レンゲツツジが満開でブナがまた明るかった。沓切沢橋に戻り再び雷鳴を聞いて初夏の沢を概ね終了した。天気が微妙で渋めの沢登りではあったが、個人的には霧のなかの奥秩父も悪くないと思う。(島田)

島田さんの記録にもあるとおり、明け方の落雷で起こされた感じでした。登りの間は時折雨がぱらつくもすぐに上がり、不快になるほどではありませんでした。三人ともが「自分はあまり雨に降られたことがない」と主張していましたが…実は三人とも雨男で、それぞれの同行者のおかげで晴れて勘違いしていたのかもしれない。

自分は油断してナメで一度コケましたが、特に難所というところはなく、ザイルは使用しませんでした。水が溜れてからもヤブは現れず、視界は開けていました。遡行記録には「地獄の急登」などと書かれていましたが、以前行った葛根田に比べればだいぶ楽な(快適な)印象でした。下りの後半やや疲れましたが、近場で手軽に(?)ナメの雰囲気を楽しめたことで満足です。お疲れさまでした。またご協力いただいた方々、ありがとうございました。(中山)

0917 奥多摩:クドレ沢左俣～大岳山～クドレ沢右俣

【期日】2009. 7. 5 【参加者】青谷, 尾崎, 島田, 杉坂

神戸岩トンネル出口 8:45-8:50 出合の橋-二俣-9:50 左岸に岩壁(R)10:00-10:30 徳兵衛滝下-12:40 稜線-12:50 巻道分岐-頂上往復 13:30-右俣下降-17:00 出合橋

面白い沢に無理なく行くことができ充実した。出合で中年おばさんを主体とする右俣遡行パーティーと遭遇。我々は仕事道を行かず沢に入り小滝などを越えていく。二俣は埋まっており確かにはっきりしない。左俣に入り左岸に岩壁が現れてくるところで休む。門番滝 7m は気にかけていたのだが左手から登ると易しかった。ここからはしっかりしたホールドが多くて快適である。徳兵衛滝 25m が見えてくるゴルジュは異様な空間で面白い。今回は青谷さんが要所要所で地質解説をしてくださったがチャートはよく削られて残り急斜面(神戸岩壁も)ができるそうだ。しばし滝を鑑賞しているが、いよいよ get down to 沢登り。左の中岩沢の滝を一段登ると大滝の左の尾根をからんでいくルートがはっきりしてくる。中間支点もとりやすくトップを行って練習させていただくが 50m ロープの中間点以上を使ってしまう。しかし 2 本目のロープがあったのでそれほど効率を落とさず済んだ。右沢に入り枯れ葉に埋まった急斜面を時折泥にキックステップしながら登り切って稜線にでた。息をきらして大岳山山頂を往復してくると先のパーティーと再会した。

巻き道分岐から直接下ると登ってきた左俣に入ってしまう気もして巻き道を 3 分ほど行った次の沢筋から下降を開始。急斜面で躊躇しがちだが軍手をして苺などの藪をつかんで下ればあまり滑らずに下れるようだった。やがて空中から水が打ちつけている五郎滝 35m が左手に合わさるところの 2 段 20m 滝に着く。尾崎さんが右岸側から 2 本のロープを分けて使って懸垂した。中段に蜂の巣があつて杉坂さんが刺されてしまい気の毒だった。この滝の下では鋭角な褶曲模様が特に顕著であり数億年前や(ついでに)6500 万年前の深海底に思いを馳せる。その後も右俣遡行は大変そうだなと思わせるような滝で懸垂を 2, 3 回ほど繰り返して二俣上部の石滝群帯へ着く。ここに生えていたマタタビの実を自宅に持って帰り半野良三毛猫に与えると興味を示して匂いをかいでいたが、割ったときに汁がとびだして逃げ出してしまった。(島田)



左俣大滝で一回ザイル使用。島田君リード。右俣の下降は滑りそうな滝も多く、空中懸垂を含む懸垂下降は4回ほどがあり、こちらのほうが大変だった。チャートの褶曲地形などが随所に見られ、青谷さんの地質解説が興味深い。個人的には地図忘れ、コースタイムとらず、気合が足りないなど反省が多かった。夏に向けて装備の点検、気合の入れなおしによい機会となった。(尾崎)

クドレ沢の2つの大滝が見られて満足。地質見学の意味でも収穫ありました。何十年かぶりに大岳山の山頂が踏めました昔は山頂にあんなに木は茂ってなかったような・・・。(青谷)



クドレ沢の滝場はチャートの岩帯にかかるものだ。層状チャートの褶曲模様が面白い。

0925 奥多摩: 笛吹川ヌク沢

【期日】2009. 8. 15 【参加者】山野 裕、渡辺喜仁、中村正俊

天気はほとんど曇っていて暑くはなかったのですがシャワータイムの後は少し寒いくらいでした。沢は堰堤が8つもあったのは興ざめですが小滝とナメ滝も多く、大滝もすばらしかったです。20時に無事下山しました。時間が遅かったのはヌク沢橋遡行開始が7時15分と遅かったのとザイルを出し始めてから時間がかかった事、下りがばてた事などです。

0924 朝日連峰/WC:西大鳥川柘形川～東大鳥川西ノ俣沢 B 沢右俣下降 ～水上沢～東甚六沢下降～泡滝ダム

【期日】2009. 8. 12-17 【参加者】松本, 上野, 尾崎

8/12 雨のち曇。

西大鳥バス停から1時間強で西大鳥ダム。ほとんど車の通らないと思われる林道に入り、終点からゼンマイ道をたどる。一方こちらはよく踏まれており、釣り人の往来は多いのか。マーキングに従い下方へ分岐し、林道終点から30分ほどで柘形川の屈曲部へ降り立つ。このころ急速に天候が回復する。所々ゴルジュ状はあるが難は無い。鉋毒の沢は末広がり的美滝である。たしかにその青白さは幽玄である。岩魚沢出合は右岸のヤブを払えば幕営は出来そう。ここから3回の泳ぎをまじえ、西俣沢出合下のハング滝は右を巻く(残置ロープあり)。出合上流の川原で幕営。夕にはアブ、朝にはヤブ蚊の襲来がものすごい。

8/13 雲のち大雨。

約1時間溯行すると標高480m地点で右岸に山抜けを見る。水流は滝を成し右から越すと巨大な自然湖にぶち当たる。湖面は標高500mほどか。ガイド本に載っていないこの湖も、インターネットでは知られていた。だがいざ目にすると、その光景には驚愕する。右岸沿いに水に入るとメタン発酵のあぶくに襲われ岸へ。この辺りで過去遠からずと思われる踏み跡を見る。1時間半強のトラバースの後、最後の右屈曲は岩壁に阻まれ15mほど泳ぎ湖上に達する。この頃より雨が降り出す。フスベ沢を分けるが、3段18m滝は増水で勢いすさまじい。左岸のスラブを3ピッチ100mほど登り、トラバースして藪に沿って下降する頃、大雨はさらにひどくなり、水勢はますます強い。次の滝は左を巻いてそのまま行くと、途中で幕営にはじゅうぶんな平地をみつける。とりあ



自然湖末端で。この後の巻きに苦勞する。



左岸を巻き終って下りた時の沢の様子。この滝を右岸から巻き進むと平地を発見した。

えずの休憩だが、大雨で先が見えないため、まだ13時半だが幕営とする。雨はますます太く、見下ろす沢は増水激しい。テント入口に張ったタープから、水はいくらでも補給される。それにしても、この平地を見つけなかったらどうしていただろう。

8/14 雨のち晴。

雨は弱まり、沢も水は多めながら溯行に支障はない。奥の川原を経て枳形川本流を詰めるが、距離は長く時間を要する。1150m 地点の滝は右岸のルンゼから高巻く。ルンゼの泥壁は悪く、その後の巻きもルートファインディングに注意を要する。右下の沢筋は滝上で左岸より窪が入っているようだ。懸垂で降りて左俣を詰めるが、左か右かは判断である。空はようやくすっきり晴れる。しかし時刻は14時半。枳形山北方の尾根乗越点に15時半、残念だが枳形山はカット。反対側へほんのわずかで西大鳥川西ノ俣沢 B 沢右俣源頭部の明確な窪に出る。4回ほどの懸垂下降をまじえて下ると、右のカールに大きな雪渓が残り、白い冷気が沢沿いに降りているのが見える。1100m でこれを合わせさらに下り、左岸より小沢を合わせる1080m 地点に17時半。羊歯の茂る河岸台地に夏とは思えぬ寒い一夜を過ごす。

8/15 快晴。

歩き始めて程なく6段60m 滝上に出る。ザイル2本をつなぎ2Pの懸垂下降。すぐ続く滝2つもいっきに懸垂下降する。穏やかな川原を過ぎると、標高890mよりゴルジュとなり、念のためザイルをつけて泳ぎ下る。この部分はしばらく続き、幅2mほどのゴルジュ内で泳ぎを繰り返す。増水してたら突っ込めない。今日は好天で落差も無いので技術的に問題なく楽しめる範囲といえる。しかし、屈曲の先が見えない限り先頭は怖い。水温も枳形川とはうって変わって厳しいため体が冷える。B 沢左俣を合わせる直前の釜も深い。左俣を合わせすぐに西ノ俣沢本流の水上沢。水は澄み花崗岩が明るい。岩魚も走る魅力的な沢である。しかし水はますます冷たく、意を決し釜に浸かって進んでいく。ここまでで時間を取ったため、化穴山はカットし水上沢右岸の沢(2万5000 匁の「水」と「上」の間に入る沢)から東甚六沢へ入るルートをとる。出合のスノーブリッジをくぐりショートカット沢に入るが、エスケープというには厳しい沢だ。下部は逆層の滝が続き、直登や巻きに時間を要する。この日最後は深そうな釜に逆層の滝であり、右壁の巻き登攀は非常に悪い。戻って大きく巻くべきだった。穏やかになって1030m 付近で幕営。あっという間の一日だった。昨夜できなかった焚き火を楽しむ。

8/16 快晴。

沢の分岐に気をつけて進む。12m ほどの階段状の滝に続く二俣を右に入ると、すぐに本流は左から滝となって合わさるが、直登は難しく正面のルンゼから左岸を巻く。その上にも滝が続くようで、これらを一気に巻いて懸垂下降で沢に戻る。化穴山から北に続く密ヤブ稜線(1375m)に9時10分着。化穴山、以東岳が雄大であり、遠く大朝日岳と思われる鋭鋒も見えている。大鳥池

は森の中の鏡のようだ。ここから反対側の草付き急斜面を下る。草付き内部で懸垂 2 回、大滝の懸垂 2 回で歩いて下降できるようになる。この頃 3 人とも疲れが出てくる。崩壊堆積地と見られる緩傾斜地帯の後、さらに函状 25m への懸垂下降を強いられた。

源太沢出合の好適地が最後の夜を過ごす場所だ。星空を焦がす焚き火にて、この会心の山行を振り返る。まさに至福の時であろう。ただ、焚き火跡はビール缶など多く残されていた。焚き火は跡を残さずに、ゴミは持ち帰るべきである。山屋・釣り師諸兄のマナーに期したい。

8/17 快晴。

大鳥池からの本流に出、上流の吊り橋脇から登山道を経て、泡滝ダムに下山する。

コースタイム：

8/12 西大鳥 9:15-10:20 西大鳥ダム 10:30-11:15 林道終点ゼンマイ道へ 11:28-11:53 沢へ降り
つく-12:15 R 12:30-13:42 小滝大釜-14:50 岩魚沢出合-16:35 西俣沢出合-16:50 幕

8/13 発 6:10-6:55 山抜け巨大湖末端-7:40 R-8:35 湖上-9:10 3 段 18m 滝下-右側壁巻き-
12:15 滝上-次の滝右岸巻きそのまま 13:28 右岸小平地 幕

8/14 発 6:46-7:30 三俣沢-8:15 奥の川原直前-9:48 770m-14:30 1150m 滝上-15:30 枡形山北
乗越 15:45-17:30 B 沢右俣 1080m 地点幕

8/15 発 6:20-7:55 6 段 60m 滝下-9:54 900m 二俣-ゴルジュ帯-11:15B 沢左俣出合-三俣 11:30
-11:40 水上沢・三俣上の川原 11:58-12:45 右岸のショートカット沢出合(SB)-15:30 二俣
-15:40 R 15:55-16:40 幕 1030m

8/16 発 6:12-7:38 1265m-8:58 化穴山北稜線乗越 9:20-懸垂 2 回ヤブ内 2 回滝-11:00 1280m
11:22-12:10 R-13:40 R-14:25 源太沢出合-登山道の川原まで行って戻る-源太沢出合幕
15:24

8/17 発 6:06-6:30 橋-7:00 冷水沢-8:07 R-8:50 泡滝ダム

参考文献：宗像兵一・逍遙溪稜会 編「朝日連峰 水源の沢」

豊野則夫編「朝日・飯豊連峰の沢」白山書房

本山行は「岳人」2009年12月号（通巻 No. 750）にも掲載されました。付録を参照。

0928 奥多摩/RCT: 氷川屏風岩

【期日】 2009. 8. 29 【参加者】 松本, 尾崎, 島田

屏風岩、はじめて行ったのですが、思ったより大きな岩場で、今回は、ほんの偵察程度になりました。キャンプ場から見上げても一部が見えますが、それ以外にもいくつも岩場が林のなかに隠れています。規模が大きく、トップロープのセッティングが難しいため、よく知っている人がいないと、ちょっと取り付きにくいです。それが人が少ない理由のひとつでしょう。今回はだれもいませんでした。

取り付きは急斜面を 30 分ぐらい登らされますが、ABC 峰からの眺めはなかなか素晴らしいものがありました。

今回は、夏山沢登りの後遺症もあり、あまり気合いが入っておらず、とりあえず、どんなところか見てみた程度で終わってしまいました。今後、できることを少しずつ、増やしていけば、西朋祭の前のトレーニングには使えそうです。周辺の短いルートの中にも手頃なルートがありそうです。(松本)

氷川屏風岩は、全体的にはレベルの高いルートが多いのですが、私たちが楽しめるグレードのものもあり、今回以外にもまだ残っているので、また行きたいです。でも恐かった。奥多摩駅集合 10 時、岩場登り初めは 11 時で、次の順に行動しました。

- ・ B・C 峰「コンタクトライン」(Ⅲ級)リード島田
 - ・ B 峰「Fix スラブルート」(仮称・Ⅲ?) リード尾崎: 高度感万点
 - ・ B 峰「チキンナゲット」(5.9)など各自トップロープ
 - ・ チムニー懸垂下降
 - ・ A 峰「フェイスルート」(5.7)リード尾崎: 高度感万点
 - ・ B 峰「第二苔ハング」(5.9)トップロープとセルフレスキュー
- でした。(尾崎)

屏風岩は日和田よりも昇降回数は稼げないでしょうが、長めのルートが組めるので実戦向きである気がしました。

■BC コンタクトライン→今回はクライミングシューズを導入したこともあり、以前なら躊躇していたであろう所で思い切った動きができて楽しんだ。チムニー的になる上部は越えにくかったが体を反転させたらスタンスを発見できた。

■5.7 フェイスルート→セカンドで登ったが、まず最初の一手が難しい。ルートが右に曲がったら廻り込むべきところをロープの張られた方向にまっすぐ行ってしまい、かぶり気味の壁に苦しんで仕方なくロープを掴んで越えようとするが落ちる。最後まで少しスタンスが細かいところを選んでしまった。こういうルートを危なげなくリードできるとよいのですが。(島田)

0931 五頭/WC: 小倉沢～五頭山～宝珠山

【期日】 2009. 9. 4～5 【参加者】 尾崎, 島田

今回は、尾崎先輩には風邪気味にもかかわらずご一緒してくださいましたがありがとうございました。また、緊急連絡先を松本さんありがとうございました。おかげさまで自分にとって新しい興味深い山域に楽しく行てくることができました。おっしゃるとおり良い雰囲気縦走路でしたね。トップについては沢歩きの細かい足場のとりかたはともかくとしても、高巻き中のルート取りかたは視野を広く保ちその都度よく考えることで修行する必要を感じました。以下、不確定性を含むコースタイムと主観的すぎる記録文です。

9/4 村杉 840-どんぐりの森 1000-5m 斜瀑 1200-1315 二俣 1:1(600m)-水場(≒登山道)-1520?三ノ峰避難小屋

どんぐりの森キャンプ場から不動の滝看板のある道から金山沢に降り下流へ行くとすぐ左から小倉沢が入る。早速現れる堰堤を左岸の細い尾根末端に上って(裏の南側にも沢が並行していた)巻いて懸垂。夜行で眠い頭のため記憶がイマイチだが金剛の滝と思われる滝や別の大滝などを、右岸左岸と高巻きながら行く。しかし(滝が実は少なめに書いてある)遡行図との対応がとれなかったため、11:30頃にもなって違う沢に入った可能性も考えさせられる。漸く布引滝を左から巻きクサリと梯子で降りるところで現在位置に自信を持つ。5m斜瀑は水量が多く滑りやすく残置ロープを掴んで越える。あとは支流も期待通り現れて遡行図に文句はつけない。小滝を快適に越えていける。しかし二俣600mからすぐ先の6m直滝は途中まで登ってから上部のヌメリに嫌な気配を直感して引き返し左から巻く。ほぼ最後のハゲ滝10mは上部に枝垂れているヤブを掴めるので問題なかった。この後、頭が目の前にある小滝を越えて行くための本能的単純作業モードに入っており、登山道から水場に降りてくる道を見逃しそうになったところで尾崎先輩が指摘してくださいました。実際視野が狭くなっていたと思うので反省。避難小屋は改装したばかりで広すぎず快適で、尾崎先輩実家製の梅酒などいただいているとやがて気分が良くなり寝る。

9/5 出発 500-615 分岐 630-650 菱ヶ岳 720-800 野須張(902m)815-900(R)920-1000 宝珠山-石間-1145 東下条駅

翌日の縦走は、東北の山に雰囲気が近くて道が足にやさしく天気も次第によくなって快適だった。船が走る阿賀野川を見下ろしたり Au や $1/3=0.333\dots$ の話などしたりして (Au は Latin Aurum

で“shining dawn”だそうです) さらに遥かに SL の汽笛を聞く。良い道だが例えば 902m 分岐では縦走路の方がヤブが濃くなっているなど多少わかりにくいところもあり、最後まで草水でなく石間への方へと素早く下ることになった。昼発の磐越西線に、西朋祭で上野先輩より譲ってもらった 18 きっぷを持って乗り、会津若松経由で新宿へは接続よく 7 時過ぎに帰ることができた。(島田)

沢全体の規模は大きくなく、余裕を持って登れました。でも、入渓する沢はどれが正しいかとか、巻きとか釜の突破とか、前半部に山椒がきいたルートでした。天気は 2 日ともよかったです。

泊まった避難小屋は改装直後で木の香りがして快適でした。縦走路は木々の間からの展望が気持ちよかったですね。大学生や高校生が楽しめる山域だと思います。今回の山行の趣旨でした。最後は下山先を間違えて風呂に入れずごめんなさい。

最近、山(登山道)登りが少し若い世代に認知されているようですが、ロープが出たり雪があったり藪をこいだりする山行はやっぱり人少ないですね。(尾崎)

0933 上信/WC:魚野川本流

【期日】2009. 9. 20~22 【参加者】中村, 松本, 尾崎

9/20 野反湖 6:50-7:25 R-8:40 R-R-11:00 渋沢手前-11:10 渋沢出合入溪-12:00 千沢-12:41 R
13:01-13:56 R 14:25 高沢出合-14:55 R-15:25 幕営(黒沢出合屈曲点の下流)

台風が逸れてくれたおかげで、当初の予想に反して良い天候に恵まれた3日間だった。難しいところは無く技術的に問題ないのだが、とくに初日は風が寒く、水に浸からないように行くのはそれなりのものが求められた。上部ではすでに紅葉も始まっていて、季節の移ろいを改めて感じる山行だった。

前夜中村さんの車で野反湖に着いた時、台風の吹き返しの風は冷たくこの先どうなるのだろうと不安すら覚えた。翌朝、基本的には秋山郷方面に下るのだが、初めはトラバースになるまで登りが多い。途中浅間山や岩菅山の眺めが良い。岩菅山は中腹の岩壁がみごとであり、志賀高原の観光の山、長野オリンピックでの破壊を免れた山とのイメージとは違う厳しい一面を知る。4時間の歩行でようやく渋沢ダムに降りつくが、すでに下山してきた気分になってしまう。

気を取り直して渋沢ダムから溯行を開始。天気もすっかり晴れてきた。と言っても風が寒く、水も冷たい。ダムのバックウォーターはいきなり腰まで水に浸かることとなりそうだった。ここは道に戻ってヤブを乗り越し、無事入溪を果たす。

沢登りというより川歩きの世界だが、時おり釜や淵が現れアクセントとなる。岩魚はまったく逃げていかない。釣り師との思わぬトラブルも体験したが、詳細はまったく話にならないので割愛する。とにかく溪谷美はそれ以上だから。幕場にも事欠かないばかりか、どこに泊まっても気持ちよさそうな所ばかり。登攀要素は期待できないが秋の旅にはもってこいと言えるだろう。初日は黒沢出合手前にある本流屈曲点の少し下流で行動を終了。松本さんの竿を借りて釣りに挑戦してみたが失敗し、焚き木集めに切り替えて、よく暖まってから就寝した。



9/21 発 7:10-8:05 黒沢 8:20-9:40 魚止ゼン-10:50 平ナメ地帯奥ゼン手前-12:24 大滝上-14:05

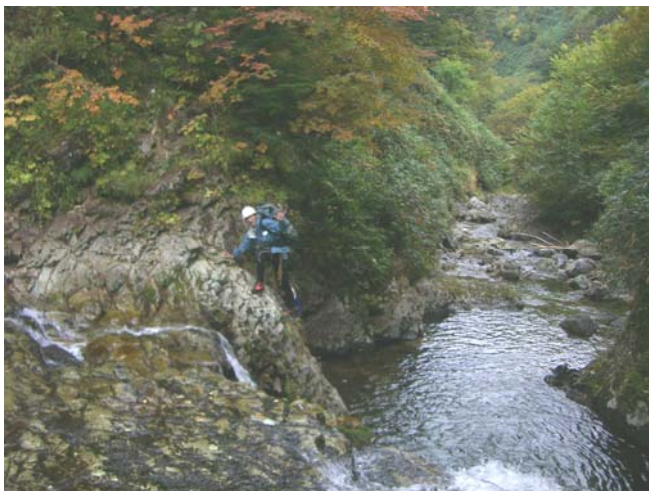
R-15:30 南俣・北俣出合幕営

2 日目も好天のもと旅が始まる。平ナメ地帯は本当に美しい。案外と深い釜もあって 2 名はヘツリに成功、1 名が冷水にどぼんしてお助けロープを使って泳ぐ。15m 大滝は左岸のレンゼを詰めると明瞭な踏み跡で巻くことができる。1600m 前後の巨岩帯は沢自身の屈曲も大きく、地図の感じ以上に時間と体力を消費する。余裕と思っていた行程も、所詮は甘い見通しだった。それだけ、魚野川は奥深く長いのである。それでも、ガイド記録とは違って誘惑たっぷりの幕場が散見され、体力的にもそろそろ泊まりたい気分を押えて進む。2 日目は南俣と北俣の出合右岸に整地を見つける。さすがにこの辺りまで来るとテン場は限られてきて、薪集めはちょっと苦勞した。途中抜かしたパーティは場所がなくて引き返していった。一息入れてから、松本さんが岩魚を釣って、焚き火で焼いて食べた。

9/22 発 6:20-7:13 R-8:25 1860m R-9:57 稜線-赤石山-大沼池-大沼池入口バス停

3 日目、雲が多く少し雨が心配な天気である。そのため早めに登山道まで上がる方針で歩き始める。穏やかな地形で地図を読み進む。1 時間後に水が枯れる。ヤブ漕ぎは最初余裕だったが、やはり最後は伝えられているように、濃い笹藪に苦しんだ。

尾根道は少しずつ紅葉が始まっていた。赤石山を経由して、大沼池より蓮池へと下山した。距離が長く、決して甘くはなかった山行だった。



0935 中央アルプス：北沢尾根～南駒ヶ岳～奥念丈岳～烏帽子岳

【期日】2009.10.10(土)～12(月) 【参加者】尾崎

10/10 須原駅 8:07-10:36 伊奈川ダム 10:54-11:59 越百登山口-12:29 ニワトリ小屋橋 12:45-13:15 雨量小屋-13:33 R 13:48-15:00 2000m 地点幕営

中央西線須原駅から17キロあるという林道は、やはり長かった。ゲートのある伊奈川ダム上流まで3時間。これはまだ順調だったが、そこからの1時間半が辛い。登山口手前で2泊3日分の水をくむと荷は重い。

この連休は冬型の気圧配置で北信・越後方面は雪模様であるらしい。中ア方面も、ニワトリ小屋橋から登山道に入るころから、その片雲が去来しはじめた。時雨や霰に見舞われつつの急登である。昨夜の夜行はいつまでたっても宴をやめないグループがいて寝不足であり、あと2時間ちょいと自分に言い聞かせる。無人雨量計小屋近辺の平地を過ぎると、5合目付近で十二丁登りといわれる急登がある。1850mで尾根に乗り、疎林になると西日を受けて気持ちよい。左には御岳山が見える。2000m付近で樹林に入ったところにスペースを見つけて泊まる。

10/11 発 5:55-6:30 北沢尾根-7:55 2591m ピーク 8:15-9:20 南駒ヶ岳-9:40 R 9:50-10:40 仙涯嶺 10:55-11:50 越百山-12:05 中小川下降点-12:15 南越百山 12:30-13:17 ガレ上部-13:56 奥念丈岳 14:10-14:45 与田切越 15:00-15:37 念丈岳

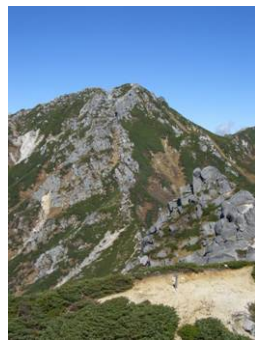
ガレを右に見て、北沢尾根に合流する。積雪期には下降時の左折が要注意かもしれない。このあたりは冬は幕営できそうだ。2500m付近まで樹林内であり、2411m付近も平である。右のガレのふちを行くあたりで森林限界となり、正面の2591mピークは右に回りこんで頂上に立つ。冬にテントは張れるだろうがふきっさらかもしれない。左に空木岳、正面に南駒ヶ岳が迫る好展望の尾根を進み、2712mピークは夏道は右を巻く。次の登りに出てくる岩場は基部のバンドを右にトラバースする。冬も適度に楽しめる尾根だろう。

南駒ヶ岳から仙涯嶺方面に少し下ったところに岩陰となる幕営可能地あり。次のピークからの下降は夏道は伊那側を巻いており、冬は積雪しだいで稜線通しとなろう。仙涯峰の岩場は迫力があるが、道はその右下方についており、冬季も登りなら、これを伝えればおそらく問題ない。下降の場合は緊張するかもしれない。仙涯峰を越えれば稜線散歩で越百山に着き、シオジ平に下る道を過ぎるとヤブっぽくなる。だだっ広い南越百山の砂礫地を越えるといよいよヤブ道だが、踏み跡があるので足の抵抗の少ない所に行く感じとなる。ピークを越えて左に下りついたところが、

西斜面崩壊の広場。ここで安平路より来た単独行者とすれ違い、情報を交換する。ほとんど標高差のない稜線を、わかりにくい踏み跡を追って奥念丈岳に達する。14時。視界が無いとこの下りが核心となりそうだったが、幸い天気はばっちりであり、向こうの斜面の紅葉が美しい。思ったよりはっきりした踏み跡に加え、この辺りは営林署のマーキングらしき赤白の目印を追って、小ピークを越える。突然小池が現れたあたりがヤブが深いが、好天のせいほとんど問題ない。ここからの下りでいったん右（南）に逸れてしまうが、トラバース気味に修正し、踏み跡に合わさる。笹を漕いで降りついた所が与田切乗越。ここはちょうど一張り分の切り開きがあって、日当たりも良い。少し下れば水も得られそうであり、幕営は悪くない。しかし、翌朝露で濡れるのがためらわれ、重い腰を上げる。ヤブ斜面を急登するが、この辺りもなんら問題ない程度のヤブ密度である。再度別の単独行者とすれちがう。「与田切越はなかなかいい所でしょ」「ああ、明るくて、切り開きがあって、よほど泊まっちゃおうかと思ってましたよ。」「ははは、あれ俺が先月刈ったんだよ、今日はそこに泊まるつもりだったんだけどね」「え、そりゃ、よかったかも」。念丈岳頂上まで登り、伊那の町と南駒ヶ岳を眺めながら幕営とした。



南駒ヶ岳から見る仙涯嶺



仙涯嶺から南駒ヶ岳



与田切乗越



念丈岳から振り返り見る南駒・仙涯嶺

10/12 発6:00—7:08池ノ平山7:30—8:11烏帽子岳—9:45小八郎岳下9:58—10:30鳩打峠—11:50上片桐駅

快晴だが水不足の朝で、ほとんど水を飲み果たす。池の平山まで、好展望の歩きを楽しむ。ここからの下りは長い。烏帽子山を登り返して急降下すると、左へと中小川方面への道が分かれた。鳩打峠にある看板で、念丈岳から南に延びる尾根にも道があることを確認した。伊那盆地のりんご園を抜けて、上片桐駅に昼前に到着した。

0937 御坂/WC: 東入川～鬼ヶ岳・雪頭ヶ岳

【期日】2009. 11. 15 【参加者】尾崎, 杉坂

西湖魚眠荘 8:00～入溪 8:45～10:30 三俣～11:30 源頭チョックストーン～12:30 鬼ヶ岳・雪頭ヶ岳
往復 13:30～13:54 鍵掛峠 14:20～15:30 根場

河口湖周辺は紅葉の盛り。晩秋の沢で寒いと危惧したが、日和暖かく水も冷たくなく、癒し系の沢登りを楽しんだ。記録によれば盛夏に水は一滴流れていなかったそうだが、今回は昨日の雨のせい、下部は水量があって F1・10m などなかなか見ごたえのある風景となっている。右の滝をシャワークライムで登る。ぜんぜん快適で、ぜんぜん冷たくない。

その後突然伏流になったが、溯行図の三俣付近で再び流れが現れて、最上部は易しいスラブ状の登りが楽しい。南アルプス南部が意外と近くに見える。鬼ヶ岳と雪頭ヶ岳の鞍部に詰め上ると、北風と陽だまりの稜線が待っていた。富士山は真っ白で、冬がきたことを実感する。名前に惹かれる雪頭ヶ岳を往復し、鬼ヶ岳から鍵掛峠経由で観光客あふれる根場へ下山。

河口湖フリーきっぷを使うと、行きに乗った路線バスには無効だったが、帰りはレトロバスが無料となってお得だった。ただ我々は観光レトロバスには似つかない山屋だったようで、路線バスの運転士は好意で声を掛けてくれた。準備が間に合わなかったので、結局レトロバスに乗り、渋滞にはまるが、富士急行とホリデー快速にすぐ乗り継いでスムーズに帰宅した。

0940 新庄神室連峰：蒲沢口～台山尾根・敗退

【期日】2009. 11. 22-23 【参加者】尾崎

2年前の中ア空木岳などのように、雪を踏む+ α 程度の積雪を想定していましたが、実際はまったく違って、11月下旬に神室とは考えが甘すぎたと思っています。道はわかる程度の積雪だと予想していましたが、21日もだいぶ降ったようで、標高900mくらいから上はワカンを使って膝程度の湿雪ラッセルになってしまいました。まだ藪が埋まりきらないので、夏道にヤブがかぶさり、すぐに道がわからなくなってしまいます。

22日ははじめ良く晴れていましたが、14時半ごろから曇ってきて、道もわからなくなり、一人では気力がもたず、15時ごろ、台山尾根に乗ったところで幕営。この尾根の向こう側が、2008年夏の神室合宿で最初にたどって神室山に登った沢です。

歩き始めは、良くて頂上から最短の有屋に下山と思っていましたが、この時点で頂上もあきらめ、明日、雨量計小屋跡までと考え早々寝ました。10時間も寝てしまい、7時半過ぎ、雨がちなが風がなくトレースが消える心配はないので出発しました。時折晴れ間が見えたのですが、やはり天気は回復せず、雨量計小屋（積雪でよく確認できなかったが倒壊しているようであり、避難小屋としての使用はできないと思われる）のある1094mピークから少し進んだ鞍部から、9時45分ごろ、往路を引き返し、14時の金山町発のバスに乗って新庄に戻ってきました。雪山はよほど条件がよくないと、1人だと無理ですね。

頂上に遠く及ばず帰ってきましたが、麓の表示だと、神室山頂上の避難小屋は現在立て替え中。工期は平成22年10月31日まで。来年秋の積雪直前に使えるかな？登山ポストに今年11月8日登山の方が居ましたので、今度はその頃に。

0941 上越：天神平～谷川岳

【期日】2009. 12. 5(土) 【参加者】尾崎, 島田

830 土合-900 谷川ロープウェイ駅-天神平 930-1000 リフト上 1502m, 1015-1100 避難小屋 1110-1230
トマの耳山頂-1405 天神平 1530

中山君、緊急連絡先をありがとうございました。条件的に厳しめの冬山に久しぶりに行くことができ尾崎先輩にはお世話になりました。どうもありがとうございました。

天神平の建物をでてすぐ外は冬山だった。ごちなく歩き始めるが真っ白で視界が悪い。地図読みよりも体を雪山に早く慣らしたいことがあって、リフトにそって 1502m ピークへの急坂を登る。日本海の低気圧のせいで天気が下り坂であるのは間違いなく、良くて避難小屋までという見込み。冬山だから一回で登頂できないのは仕方ないが行けるところまでなどと話す。

実際に行ってみると稜線の東側をトラバースする歩きやすい夏道の上にトレースを見だし（尾崎先輩によると最近整備されたのではないかとのこと）快適に避難小屋に着く。ここにあった赤旗を借りて積極的に使う予備として持ち先を急ぐ。さらに森林限界を越える前、下りてきた二人パーティーから山頂付近の情報をもらうことができた。よいことが重なり（精神的に）先も見えて行けるぞという気になる。

視界は良くて数十メートル。高度を稼ぎ行く斜面を見上げると地面の雪と空がただ白く境界がわからなくなる。尾根が広がり両側のブッシュも見えなくなってくるが、赤旗を差して進む。吹きつける南風が強くなってくるのは目出帽をかぶれば問題ない…余裕だろうと思っていたら今度は眼鏡に飛ばされた雪がはりつき足下のトレースが見えなくなる。そしてつけたゴーグルの安定感は素晴らしい。短い時間ではあるが事態の急展開へ対応しなければならぬ冬山の厳しさを味わい、ケルンがうっすら見えるとトマの耳はすぐだった。肩の小屋は発見できず。赤旗を回収しながらカカトからのキックステップでさっさと下る。湿雪が降り始めたが天神平には早くついた。アイゼンやワカンの着脱等、基本から検討した。ロープウェイ駅からバスで水上へ出て日本酒など頂きながら、悪天下に登頂できた満足感に浸って帰った。（島田）

0942 NZ : アルパイアリング峰、他

【期日】 2009. 12. 23~2010. 1. 11 【参加者】 岡田

12/23~1/11、永年勤続休暇を利用してニュージーランドへ行ってきました。全体的には天候不順という感じでしたが、念願のアルパイアリング峰(3027m)登頂は幸運なことに天候に恵まれ、ガイド同行で無事登頂を果たしました。簡単に速報します。

12/23-24

クアラルンプール経由で北島の中心都市オークランドへ飛ぶ。City Of Sails といわれる真夏の太陽と青い海に輝いた街を見物。

12/25

国内線で南島のクイーンズタウンへ。湖畔の市街地を見てから、天気も良いので夕方4時半からクイーンズタウンヒル(907m)へ3時間のハイキング。10時近くまで明るいので、この時間もハイカーを多く見かける。

12/26

アスパイアリング登山のベースとなる町、ワナカへバスで移動。お気軽ハイキングのマウント・アイアン(545m)へ登るが、下山中激しい雨に見舞われる。パズリングワールドへ立ち寄り、錯覚を利用した重力の逆転など不思議感覚を体感。

12/27-30

アスパイアリングガイド社の1:1ガイド登山で、写真のようなアスパイアリング峰(3027m)へ登頂。天候予備含め5日間の日程に1日出発遅らせるオプションもあったが、最初の2日間ヘリ入山と登頂日に好天に恵まれ、順調に登頂を果たしラッキーでした。登頂日はダブルアックスでの雪壁登攀を含む12時間行動で体力的には限界に近かったか...でもマウント・クックも見えて感動の山頂でした。翌日から天気は悪くなったが、2日間かけて歩いて下山するのは支障なし。

12/31

下山後の休養日、マリンレジャーも盛んな湖畔の散策などで過ごす。夜は町全体が新年を迎えるお祭りムード、ガイドやアスパイアリングで一緒した各国のクライマーと祝杯をあげた。



アスパイアリング峰に立つ

1/1

登山予備日のためのワナカ滞在最終日。マウンテンバイク併用でマウント・ロイ(1581m)へ登る。山は展望良かったが、この日は強風が吹き荒れマウンテンバイクを漕ぐのは大変だった。

1/2

クイーンズタウンへ戻って、後半はレンタカーを借り、ホリデーパーク（キャンプ場）などをベースとした南島めぐりだ。今日は天気良く湖の色が素晴らしい。有名なミルフォード・トラックなどがあるフィヨルドランド国立公園の拠点テアナウの町へ。天気が良いのでミルフォード道路を走りマリアン湖の3時間のハイキングへ、氷河の山々の景観が凄い。買い物のためテアナウにもどる。

1/3-5

一転して大雨の朝、再びミルフォード道路を走り終点のミルフォードサウンドへ。途中氷河で削られた壁に雨で無数の滝が落ちている景観は圧巻。観光客は次々にクルーズ船に乗車していくが、この悪天候では乗る気にならない。計画してなかったが、この後デバイド岬からホーデン小屋に2泊して、ルートバーントラック最高点のハリス・サドルとコニカル・ヒル(1515m)を往復した。普通ルートバーントラックは2泊3日で反対のグレノーキー側に抜けるのだが、事前に小屋や交通機関を手配してなかったのでピストンで行くことにした。天候は雨が多く不順であったが、4日夕方から5日朝は多少晴れ間があり雲の間から周辺の山が望めた。

1/6

ホリフォードのキャンプ場にもう一泊して最後にミルフォードサウンドのクルーズをと粘るが、この日も雨。あきらめてマウント・クックへ移動。途中、ゴールドラッシュの歴史を持つアロータウン、バンジージャンプの名所カワラウ橋を見物。

1/7-9

マウント・クック村に滞在。ここでも天候に恵まれず、強風・雨・山は季節はずれの降雪、なだれや洪水の注意報も発令。それにもめげず毎日、フッカー谷, セバストポール・ピーク(1468m), ミューラー小屋とオリビエ山(1933m)、と日帰り山歩きを行った。8日には晴れ間もあって、時々雲が切れてマウント・クック(3754m)が山頂まで顔を出した。クック村ではヒラリー卿記念博物館など、登山関係の興味深い展示や映像を多数見られるので飽きることはない。

1/9-10

クライストチャーチまでのどかなニュージーランドらしい風景を見ながらドライブ。最後にゴシック様式建築やエイボン川沿いの公園が美しいクライストチャーチ市内を見てから帰路についた。

0944 北アルプス／冬山合宿：釣魚尾根～餓鬼岳

【期日】2009. 12. 23～2010. 1. 11 【参加者】岡田

12/27 大町 5:35=6:28 タクシー下車（堰堤付近）-7:14 R -8:45 林道末端の橋-10:20 1300m
10:35-11:23 1400m 11:30-12:05 ワカン付け 12:25-13:30 R 13:43-14:36 2007 年末のテン
場-15:50 幕営

2 年前に敗退した釣魚尾根～餓鬼岳に再挑戦する。直前には強い寒気が南下して、八方尾根ではドカ雪が報告され、緊張しながら入山した。それでも今度は、前回の経験から様子がわかり、稜線部分も偵察済みであることや、天候サイクルもますます期待できるので、希望をもって山に向かう。大町からすぐに乗ったタクシーも、前回よりも奥まで入ってくれ、歩き始めも1時間以上早い。

林道の積雪は問題なく、ほぼ順調に取り付き点に到達する。2 年の間に最後の橋は崩落していたが、つながっている部分で対岸に渡る。尾根末端の急登も、先週の雪でかえってヤブが隠され歩きやすい。ところによって密なヤブはあるものの、一昨年の記憶も手伝って予想に反して登高は順調である。前回の幕場から丸1時間ほど、緩やかな尾根を進んだところで幕営する。



釣魚尾根途中から。頂上はまだ遠い。

12/28 発 7:30-8:26 1825m-9:45 R 10:00-11:20 R 11:42-13:21 夏道のある尾根-14:00 幕
営

朝から本降りの雪である。しかしその分明日は回復しそうであり、今日は登頂のためにひたすら頑張ることである。2 人でのラッセルははかどらず、2 時間かけても地図ではほんのわずかしかな進んでいない。幸い、積雪は場所によってはさほどでもない。夏道の尾根手前の急登地帯に到達する。地図上では侮れない斜面に思えたが、幸いガスのなかに見える右奥の尾根は遠くなく、予

想よりも早く、区界標(?)の横に登り詰めた。少し進んで見つけた適地で今日は幕営。明日の登頂へと鋭気を養う。

夕方より天候は回復し、明日の期待と不安が入り混じる。百曲がりの急斜面が星明かりに照らされる。緊張感がみなぎって、畏怖を感じずにはられない。

12/29 発 6:24-7:46 百曲がり 2300m -8:55 2435m -10:41 餓鬼岳 11:15-12:45 ケンヅリ引き返し-15:56 テン場帰着

ついに頂上アタックの朝が来た。無風快晴の朝である。明るくなるのを待って行動を開始。光の屈折のせい、富士山は中腹部分が横伸びして見え、気味が悪い。

百曲がりの急登は尾根が窪状に吸い込まれる地形図なので、雪崩れないかずっと心配であった。この点は無雪期の現地偵察でもおそらくそれは無かろうと思っはいるのだが。急なラッセルは大変ではあったがやはり地形図が実態とは異なっているようだ。急斜面のラッセルを越えると、いよいよ肩のピークへ到達する。最終ピッチは頂上は間近に見えたが、ラッセルが続き、思いのほか斜面も急。ウサギに追い越されながら、まる1時間を要し、ついに登頂した。2年前の敗退が今実を結び、2人とも充実感に浸った。当初もくろんだ唐沢岳はやはり遠いが、その向こうに針ノ木、剣、立山も良く見渡せ、鹿島槍も優美な姿が望まれた。

時間があるのでケンヅリの途中まで行ってみた。ケンヅリ全体を踏破するにはまだ先は長かった。今回歩いた部分は稜線の雪は予想より少なく、時間さえかければ行けそうだったが、引き返しの先の部分で雪のつき方が少々悪いかもしい所があった。

再度の頂上で安曇野バックに記念写真を撮影し、慎重にテント場まで下降した。



頂上肩よりピークを望む



後方は針ノ木・蓮華



左・唐沢岳、遠景・剣立山

12/30 発 6:24-7:21 R 7:35-8:32 R 8:44-9:35 JP-10:55 R-12:05 林道-13:30 R-14:32 アルプス公園-15:15 北細野駅

今日から天気はまた下り坂基調である。鉛色がかかった空に北アルプスの山々が望める。登ってきたトレースはほとんど残っていたことから、予想以上にどんどん下れた。尾根末端は雪が少なかえっていやらしい。昼ごろに林道に降り立ち、そのまま歩いて歩いて15時過ぎに駅に着いた。

0952 信越/ST：根子岳～四阿山～パルコール嬬恋

【期日】2010. 2. 13～2. 14 【参加者】尾崎

2/13 菅平 10:13-12:00 R 12:13-13:30 ダボス道合流-14:00 根子岳-14:40 幕営

菅平では上空は快晴になるが、山の上はまだ雲がかかっている。別荘地内を少し迷いながら歩き、夏のゴルフ場が今は雪原でクロスカントリー場になっているところを横切って、牧場のようなところをフリートレックスキーで進んでいく。今回は菅平スキー場トップから取り付く尾根を避け、その一本東の尾根を登る。ちょうど、下山のシュプールが1本だけあって静かで良い。しかし期待した天気は、登るにつれてどんどん悪くなっていく。避難小屋のある尾根が左側に見えてくると、この天気でも多くの軽装スキーヤーが滑っているのが見えて少し安心した。しばらくして、エンジンの音がしたかと思うと、ダボスからの主尾根を雪上車が登っていく。それで、さっきのスキーヤーはほとんど手ぶらだったのか。再び手ぶらスキーヤーが大挙して下ってきて、その後は装備を持った数人に会うだけの静かな山に戻った。14時、ほとんど視界の利かない根子岳に到着。もう少し進むことにする。下りは部分的にクラストしており、ここから尾根も狭くなるので、板を外してツボ足キックステップとする。トレースは無いが赤布が部分的にあり尾根もはっきりしているし、以前来たことがあるので、迷わず東へ進む。大岩を巻いたりする部分が数箇所あり、その岩陰は幕営に良さそうだ。岩地帯が終了すると尾根は広がる。視界も無く少々吹雪気味の下降になったので、無理につっこむことなく引き返して14:40に先ほどの岩陰で幕営。夕刻から急速に天気が回復して、安心と期待とそして不安も混じりながら、早々とシュラフに入る。明朝は冷え込みそうだ。

2/14 発 7:30-9:47 四阿山 9:55-R-11:50 パルコール嬬恋スキー場トップ-12:30 スキー場

11時間半も寝てしまって、7時半に歩き始める。昨日の斜面は途中からスキーを履いてみたものの、すぐにカリカリのクラストに変わり、危険きわまりない。ツボ足でも歯が立たないので即アイゼンに変える。先週半ばに暖かかったので、目論見とおりに樹林の登り返しもラッセル皆無である。菅平から直接登ってくる尾根に合流し、トレースやスキー跡に導かれ四阿山に9時半過ぎに到着する。だいぶ前に西高生と登った鳥居峠からの道には人の入った様子は見られなかった。北尾根の下降はトレースはまったくなく、左右切れ落ちている。天気が悪いと1人ではとてもつっこめないが、今日は超快晴だ。ラッセルのない分が全部展望にまわったとあってよく、上信越、南北アルプスの山々大集合の展望である。昨夜のラジオで世はバレンタインデーと話題にしてい

たが、なにやらギャップ感もあり。尾根が広がってきたのでフリートレックを装着。数箇所緩い登り返しはあるものの、クラシクルートの良さを味わいつつ滑る。パルコールトップの手前でシュプールが現れた。スキー場を下るのもつまらないので、とりあえずそのシュプールを追ってスキー場の南側を下った。先行者はずいぶんと右に逸れて降りているので途中から左にルートを取り、いくぶんかのヤブスキーでスキー場に合流した。下山後時間があつたので、トップから2回滑ってきた。帰りはパルコールリゾートホテルの無料送迎バスで万座鹿沢口駅に出る。本来宿泊者用なのだろう、しかしあらかじめ電話で確認したらそれ以外でもOKとのこと。リフト代払ったので気兼ねはない。電車賃は2日で5500円の割引券だったし、ちょっとお得な気分の山行であった。

0958 堂津山塊/VR：日道沢右岸尾根～中西山～奥西山～奉納温泉

【期日】2010. 3. 27～3. 28 【参加者】尾崎, 杉坂

3/27 7:45 中央橋バス停～7:56 集落への道～10:03 林道 830m～12:45 R1164m～14:17 R1330m ～
16:05 1419m ハーネス付け～17:43 1630m 幕営

懸案の「ルート」というだけではなく、懸案の「山域」というのが二つあって、そのひとつは鳥海山南の弁慶山地。他方がこの堂津山塊である。今回は先週の3連休が春の嵐で偵察で終わってしまったことをバネとして、杉坂さんに同行いただく。昨年3月の堂津山から今後も続くシリーズ山行であり、いわば地域研究といっては僭越だが、その心積もりでの入山である。いつものごとくムーンライトで南小谷に来て、雨飾行のバスに数分待つて下里瀬温泉の所で下車し、踏み切りを渡って「番場」より山上の「日道」集落へ続く道へ入る。日道集落からの尾根取り付きがいまいち分かりにくい、集落手前の591mより雪に埋もれた道形が、上部へ続いているのを発見する。834m手前の林道へショートカットで登ってしまい、後は尾根上を行く。まだ雪は少ないが、この後ルートがどうなるか不安がある。

1078m、1119m、1164mの標石があるように、雪のない所は人が通ったと思えるようにそこだけヤブが薄い。1340m付近で北から上がってくる尾根に乗る。地図上では尾根は細くないのだが、程なくハング状の岩場が現れ、特に右は切れているため、ルート判断に難儀する。左側のスカ雪をラッセルして、急峻なルンゼ状から木にお助けスリングを駆使して切り抜ける。結果的にここが技術的核心部といえるのだが、この時点では1500m付近から約100m続く急傾斜帯に何が待ち受けているかが最大の不安だった。いよいよその急傾斜となる手前、1450m付近ですでに16時を回っている。突っ込むか否かの躊躇を抱えながらもハーネスを付ける。非常に急で下りには使いたくなくとも思えたが、難しい場面に会うことなく傾斜が緩んできた。ほっとして見上げると、数十メートル先でダケカンバが幾本か生えており、きっとそこは部分的に傾斜が緩いと見た。これまでの感覚で、ダケカンバが生えるのは、尾根の傾斜が緩んだ場所であると思っている。やはりそこは多少傾斜が緩く、時間も17時半を回っているので雪で何とか整地して幕営する。

3/28 発7:20～7:52 1720m ピーク～8:51 稜線～10:15 中西山～12:00 奥西山手前下降点～13:00 R
わかん付け～14:00 先週の幕営地～15:00R～16:01 末端台地～16:50 奉納温泉からの道路＝
17:10 下里瀬温泉

とりあえずどうにかなりそうだとの希望を持って出発。1752m 地点は南北の堂津山塊や北アルプスの展望もよく幕営は快適そうだ。しかし、すぐ向こうに待ち受ける主稜線は、登り上げる地

点の南で雪庇がキノコ状に発達していることもあり、傾斜が強そうに見えた。しかし取り付いてみれば問題なく稜線に到達。会心の到達であった。北にそびえる堂津稜線は太く大きく、南へは難しそうな雪稜と東山はナイフリッジ状の尾根を落としている。

中西山 1740.8m をへて下山地点の 1611m まではラッセルだが、戸隠や乙妻など向こう側の展望も楽しむ。1611m からの下りは先週偵察したので、降り口も迷わない。本山域に共通して言えることとして、稜線西側直下の標高 1450m から 1600m 付近の急傾斜帯があり、その下りに少々神経を使う。先ほどまで晴れていたのが急に雪が降り風が強まる。すでに 13 時を過ぎている。この辺りは先週の後また降ったようでワカンをつけたりで手間取る。1491m ピークへの登り返しも意外と大きくきつい。1491m を過ぎれば全体に緩やかな尾根となる。先週のマーキングも一部残っているし、偵察の効果あって微妙な分岐も問題なく下る。下部ではしっかりトレースも残っていた。それでも尾根末端に着いたのは 16 時、さらに対岸の道まで登り返して 17 時前。下里瀬温泉に入ったら長岡回りの夜行で帰京となってしまう、そのままどたばた出勤する。なかなか充実。またぜひこういう山行をやりたいものだ。

2010 年度

2010 年度役員

会長	松本 哲郎
チーフリーダー	上野 午良
サブリーダー	尾崎 宏和
学生リーダー	島田 悠彦
会計	上野 利之
記録・会報	尾崎 宏和 灘吉 聡 島田 悠彦
装備	灘吉 聡
西高係	山野 裕 小澤 晃平 保延 陽太
都岳連関係	上野 午良
ホームページ係	灘吉 聡
超OB係	林 武志

1003 北アルプス/ST：梅池高原～船越ノ頭～金山沢

【期日】2010. 4. 25 【参加者】尾崎

昨日 (4/25)、白馬山スキー：船越の頭～金山沢行ってきました。超快晴、極楽状態のザラメ雪でした。

登りは、梅池ゴンドラ終点から8時半歩き始め。ケチって、ロープウェイは乗りません。50分ほどでロープウェイ終点で、梅池自然園を横切り、13時に小蓮華岳手前の稜線（船越の頭）。滑りは最初かなり急斜面でしたが一度も転ばず猿倉まで行けました。登り4時間半かかったのに、稜線から白馬雪渓出合い（金山沢自体）までは20分弱で通過してしまいました。あっけない。。金山沢末端はまだ雪に覆われ、渡渉等の問題はありませんでした。

人出は、それなりに居ましたが、大混雑という感じでなく、むしろこの時期の割に少ないという印象でした。金山沢は古いシュプールがあり、後続パーティがいくつか、でした。結局猿倉から白馬駅まで兼用靴で2時間ちょいの歩きでした。二股ゲートは29日に開くようです。

1004 和賀山塊：大荒沢岳～羽後朝日岳～和賀岳～白岩岳

【期日】2010. 5.1～3 【参加者】青谷，松本，上野午，尾崎，杉坂

5/1 北上 7:13=ゆだ=貝沢 9:30=水くみ R-11:50 R-13:16 1091m-14:38 1260m 14:55-15:40 大荒沢岳

夜行バスが混雑と渋滞で遅れ，途中 3 時間遅延。先が危ぶまれた。が，北上で 2 時間遅に回復し，幸い後続の北上線に乗り継げる。タクシーで貝沢に入る。

貝沢から適当に尾根に取り付いて登る。登るにつれガスに巻かれ風も強まる。1 パーティ停滞中に出会う。風は強かったが，大荒沢岳まで登り，ブロックを作って幕営。テント内でくつろいでいたらブロックが大風で崩壊し，再度頑強なものに作り替える。高気圧に覆われているのは甲信越まで。南高北低の狭間で等圧線が東西に混んでいる天気図をみて，強風とガスを予想しておくべきだったと反省。



1 日目 大荒沢山・羽後朝日岳を望む。この日は手前の山頂にテントを張る。

5/2 発 5:25-6:15 羽後朝日岳 6:20-6:56 テン場 7:35-8:35 高下岳分岐 8:46-9:25 鞍部-10:40 R 11:00-11:55 和賀岳 12:15 13:06 小杉岳-14:04 鞍部 14:25-16:15 1078P

2 日目，期待した晴天どころでなく，朝からホワイトアウト。羽後朝日岳へアタックにでるがまず下降方向を失いそうになる。と，突然霧が晴れ先が見えた。少し標高を下げるとガスに巻かれていないようだ。強風と視界のまったくない羽後朝日岳では，生保内川源頭地点の道標を頂上だと思わず，最初通り過ぎてしまう。帰りは，取り付けてきた赤布を頼りに幕営地に戻る。撒収し縦走へ入るころは，視界はほどほど利き，ルートに困るほどではない。和賀岳への最低鞍部を

すぎる頃から本格回復して、雄大な景色を楽しむ。和賀岳までくるとトレースがあった。青谷さんの双眼鏡をつかうと昨夜のテントのブロックが見えた。ここまで来ると終わったような気になってしまったが完全に甘かった。小杉岳を過ぎて大きく下降し、錫杖の森のアップダウンで岩場を稜線通しに通過する。そう簡単に問屋はおろさなかった。今日も4時過ぎまでの行動となる。1078mまでの登り返しは辛かったが、そこには夕日に染まる和賀主稜線を一望する絶好のテント場が待っていた。上野先輩のビールで乾杯し、青谷さんの生野菜サラダと、感動の一夜を過ごす。



2日目のテント場、和賀山塊が一望のもと

5/3 発 5:40-6:40 白岩岳 7:08-7:43 R-8:35 小滝山 9:00-9:40 700m-10:35 林道-11:36 小滝ダム

翌朝も快晴。羽後朝日岳の名の通り、日の出方向に朝日岳の三角ピークが目立った。白岩山、小滝山と展望の縦走。角館に下って満開の桜と武家屋敷の町並みを見物し、今回の山行を締めくくった。



白岩岳の山頂 遠く和賀岳を背に

和賀を満喫（青谷）

主稜線は雪も多く3月頃の装いでしたが、さすがに5月で気温は高く、充実した楽しい縦走でした。初日は風も強く不安定な天気でしたが、2,3日は天気も回復し、連日の16時までの行動が、1日の短縮につながりました。下山後は、角館で満開の桜を楽しんで、夜には帰京しました。写真をアルバムに載せます。

和賀、楽しんできました。（松本）

今回は、5名と参加が多く、装備に余裕があったため、食料、飲料ともに豊富で、楽しい山行でした。入山でつんだフキノトウもおいしくいただきました。人も朝日で3名、和賀で単独の1名とおもったより少なく、トレースもほとんどなく、自分達だけの山を満喫できました。降りてきた角館はシダレザクラとソメイヨシノがちょうど満開で、観光客の多さにはびっくりしましたが、屋台も沢山でており、おまけでお花見までできました。

1005 尾瀬/ST : 御池～燧ヶ岳

【期日】2010. 5. 8 【参加者】山田, 他 1 名

GWは思ったほどではないにしろ好天に恵まれて和賀岳を楽しんできたようですね。和賀岳には学生の頃、夏に藪を漕いで行くはずだったのですが、肩を脱臼して途中で下山したためその後行くチャンスがありませんでした。

予定を合わせられずに参加できませんでしたが、この週末に大学 WV の仲間と燧ヶ岳の山スキーに行ってきました。2 人とも 1984 年の 5 月に同じコースを滑っていますが、あれから 26 年、天気に恵まれ、久しぶりの山スキーを堪能してきました。登り 3 時間、下り 30 分といかにも山スキーらしいコースタイムでした。ちなみに、26 年前は登り 2.5 時間、降り 1 時間。登りは健闘の結果で、降りはスキー技術向上の結果と思いたいところですが、登りはともかく降りは当時は山靴スキーですから比較すべきではないですね。

1006 奥秩父：三ノ瀬～唐松尾山、他

【期日】2010. 5. 12 【参加者】橋本

4月は他用が多く、山に行けなかったが、低山のハイキングなどは数回行っている。今年の春はいつもの春とどこか違うように感じられる。寒暖の差が激しかったり、そのせいか木々の芽吹きや開花が狂っていたりする。

奥秩父のこの山には以前から登ってみたいと思っていたが、交通が不便でなかなか実現できなかった。5月12日、登山口の三ノ瀬の朝、気温6℃、曇り。8:05 三ノ瀬出発。登山口の林道は幅が広く結構急坂だがカラマツの落葉があり歩きやすい。牛王院下で道標が見難く、将監峠のほうに誤って進んでしまった。引き返し、七つ石尾根に入る。この辺はカラマツの新芽が美しい。急坂のコースをほぼ直線で登ってゆく。牛王院平(9:24着)に入るとカラマツ・ミズナラ林となり平坦となる。東京の水源林の標識がある。少し先の山の神土に着く(9:30着)。右は和名倉山、左は唐松尾・笠取山方面の巻き道である。中ほどの縦走路をとる。コースはやや荒れているところもあるが歩きやすく、稜線に向けすこしずつ高度を上げてゆく。途中、御殿岩方面への道を右に分け、山頂に向かう。急に気温が下がり、雹が降りだした。同時に雷鳴があったが遠いので、歩行を続ける。唐松尾山10:10着。山頂はアズマシャクナゲの群落である(未開花)。軽食をとり下山開始。山の神土10:46、牛王院平10:52、三ノ瀬11:35帰着。登り2ピッチ2時間05分、降り1ピッチ1時間25分、合計3時間30分。

また、5月17日(月)は鍋割山・鍋割山稜～小丸のブナの新緑を、5月28日(金)は西丹沢県民の森～石棚尾根～檜洞丸～ツツジ尾根～西丹沢自然教室。石棚尾根とツツジ尾根のシロヤシオ・トウゴクミツバツツジ、それにブナの新緑を、知人とともに見に行った。

1009 真昼山地：川口溪谷～真昼岳～女神山

【期日】2010. 5. 29～30 【参加者】尾崎

5/29

大曲＝川口バス停～9:00 奥羽山荘～10:45 林道終点～12:36 稜線～13:28R～14:05 峰越峠

当初神室も考えたが、山が大きく、事前の心構えもじゅうぶんでないので躊躇した。それでも、31日の仕事休みは生かしたい。真昼岳に行くことにした。いずれにしても目的は、テントの中で長く寝ることだ。

大曲 8 時の路線バスに乗り込み、川口バス停から奥羽山荘の前を通過して林道へ進む。川口溪谷沿いの林道は全面通行止めというゲートがあった。とりあえず進んだが、法面の崩落、土砂崩れ、落石などでやばいかもという感じだった。かすかに見られた踏み跡と自転車のタイヤ跡も土砂崩れ手前で終わっていた。それでも、溪谷美がすばらしかった。支流に数多くの滝があり、新緑とあいまって本当に見事だ。林道へアピン部手前の登り口はマーキングがないと見落としそう。川口バス停からここまで3時間ほど。

登りはわずかのマークとかすかな踏み跡をたどる。どちらもきわめて不明瞭で、数度踏み跡を失うが、地形と道のつき方を考えながら進む。マークが完全に無くなると、古いナタ目と超薄い通行跡を感で追うが、進む方向は沢沿いのはずが山腹に左上してしまう。霧雨の半ヤブ漕ぎ状態にこんなつもりじゃなかったと思っても始まらない。上がるべきコルまでの地形を見渡し、引き返す場合も考えているうちに、踏み跡？がトラバースに入ったのでそれに沿ってコルに達する。

コルは道標だけはしっかりしていた。稜線はところどころ残雪を踏んで進むうちに、道ははっきりした。峰越峠手前で14時過ぎ早めにテントを張る。この時点でまだガス状態、時折ぱらぱら雨が降る。食事の最中から眠くなり、17時半には寝てしまう。0時半に一度目が覚める。明るいので外を見たら快晴で、月明かりでじゅうぶん歩けそう。でも一人だとテントを開ける瞬間が怖い。

5/30

発 5:07～6:50 真昼岳 7:12～8:08 兔平分岐～10:00 女神山～10:50 白糸の滝～13:50 湯本温泉

日曜は快晴で、真昼岳の稜線歩きを楽しむ。仙北平野は田んぼに水が張られ湖のよう（というより水没しているみたい）。和賀岳がすぐ背後に見え、GW よりだいぶ雪が減っている。鳥海山は真っ白、秀麗そのもの。かなり南西には月山らしき山が白く茫洋としている。あんな所にあんな山はあったっけという印象だ。神室と虎毛は栗駒山の西側ということくらいで判然としない。和賀のほうに森が発達している印象で、真昼は側壁スラブが多いように思えた。



真昼岳。頂上避難小屋の中には祠があった。

善知鳥への下山路分岐から兔平に立ち寄る。女神山からは当初予定した秋田県側への道がはっきりしない。岩手県側のしっかりした道に行くことにする。この辺りでハイキングや山菜取りのグループや家族連れ数組に出会う。林道が奥までできていて、湯本温泉までまた林道 3 時間。数年前の和賀山行で泊まった大正館だったかの前から、ほっとゆだ行きバスにちょうど乗る。地図見と所要時間はピッタシだった。また、ほっとゆだ駅に来てしまった。GW 山行を 2 度やった気分。温泉など入らず、着替えだけして、新庄経由新幹線ですぐ帰った。

1010 奥秩父：大弛峠～北奥千丈岳・金峰山

【期日】2010. 6. 2 【参加者】橋本

焼山林道は例年 6 月 1 日に開通する。オオダルミ峠の朝、気温 2℃で寒い。北奥千丈への道は残雪があり、すぐにアイゼン着用。7:09 出発、前国師岳 7:34、北奥千丈岳 (2601m) 7:50、オオダルミ 8:11、朝日峠 8:34 着。周辺はトウヒとシラビソで極くわずかに新芽が出ている。オオダルミではマメザクラが新芽を出し始めていた。朝日峠近辺では南面の陽光が当たる斜面では、白い 5 弁花のヒメイチゲ? が咲いていた。朝日岳 9:04、鉄山の北側の巻き道は雪があるが特にアイゼン不要。金峰山 (2599m) 9:55 着。小休後下山開始。朝日岳 11:13、オオダルミ 11:35 帰着。所要 4 時間 26 分。朝の焼山林道では、シカやリスがしばしば出現した。

1011 大菩薩/WC：泉水谷小室川谷～大菩薩嶺

【期日】2009. 6. 6 【参加者】松本, 尾崎, 島田

泉水谷林道入口発 5:28-林道下降点 5:51-6:00 入溪-7:35S 字峡-9:04 石門-10:35 R-10:50 深い釜 10m滝-12:10 ジャヌケ沢出合直前-13:25 1700m-14:36 稜線 14:50-15:20 大菩薩嶺 15:35-16:15 丸川峠-16:40 泉水十字路-17:45 林道-18:40 青梅街道手前ゲート

行程が長く、思ったより時間がかかってしまいました。きれいな滝や淵も見ごたえがあり、楽しめました。要所要所には、お助け紐がかかっており、S 字峡の懸垂下降でザイルを使っただけで、あとはノーザイルで登れました。

後半は、枯れ木でふさがれたゴロが長く、ちょっとうんざり気味だったのが、残念ですが、なかなかいい沢です。倒木が多いのは、表土が薄い大菩薩の特徴のようで、大きな木が根こそぎ倒れていたのが目についたのですが、特に最近の自然破壊のためではないように思われます。

時間がなく、今回下降できなかった大黒茂谷もちょっと行くにはいい谷だと思われま。下山道もきれいにされており、いい山域ですが、昔の資料では良い沢として紹介されていた、小金沢が電源開発で、最近では登攀対象でなくなっているのは残念です。中山さん、今度はいっしょに行きましょう。(松本)

松本さん、尾崎先輩、いろいろお世話になりましたがありがとうございました。予備電池もありがとうございました。今回は使わなくて済みましたが重要なところでした（山道具の一式を分解したままになっていて反省）。以下記録です。

泉水谷林道は工事期間のためか青梅街道から入ってすぐでゲート止めになる。幕営してビールや梅酒をおいしくいただき、計画の現実化法など諸々について話してから3時間くらい寝る。

明るくなってから林道をしばらく行くと「小室向」の杭があり降りていくとすぐ小室川谷出合にいたる。谷は深くなったり広くなったりを繰り返す。明るい緑のなか側壁には赤紫のミツバツツジがちらほら咲いている。

S字峡最初の滝は水勢と倒木があり左から巻く。上部から下の峡谷にある続きの滝を覗くとまたかなりの水量に見えて登れるのか確信できない。まとめて巻いてしまっても良いのだが、残置カラビナを利用して多少ハングした壁を尾崎先輩に懸垂下降で偵察してもらいOKがでる（宙吊りになるので軍手が必要）。状況によっては懸垂した壁を登り返すなどの艱難辛苦も想像されるが、

今回はその滝には水の通り道にならない壁があって問題なく登れたので時間の節約になった。

その後は滝が続く。石門少し手前の滝は左の垂壁を残置ロープで巻く。途中安定したところでロープに頼りたくないが届かない岩がありショルダーで越える(尾崎先輩に肩を貸してもらった)。小室の淵では右岸に行く。その高さや深さに気をとられていて中ノ沢出合を見逃す。深い釜がある10m滝を右から巻くと4段30mナメ滝が立て続けに現れるので、写真を撮ってやろうなんて方は気持ちの準備が必要である。最上段のナメはかなり滑りやすく右の残置を利用する。水が冷たく体温が下がってエネルギー消費が多いのか、このあたりから急速に腹が減ってきて心拍数が上昇し登攀意欲は低下し、レストごとの行動食が待ち遠しくなる。当然2段20mも右から巻く。昼頃ジャヌケ沢出合を通過すると、倒木が多くなって荒れた溪相となる。最後はコケの絨毯的な斜面からコルの少し東にでる。稜線の道はすっきりとして見晴らしがよく、ハイカーが結構いる。大菩薩嶺では空腹と眠気もピークとなり眩暈がした。丸川峠からしばらくは歩きやすい仕事道を行き、なんやかんやで大木のある大黒茂谷出合付近から林道へ戻った。今回は谷の変化をじっくり味わうよりも先へ先へと足を運んだ。難しいところはないが魚影、焚き火などを求めて一泊して行くのが適当な長さであろう。小室川谷を提案し誘ってくださった松本さんと、もともと参加が厳しかったなかで来てくださった尾崎先輩に感謝いたします。(島田)

1012 南アルプス：雨畑～老平～檜横手山

【期日】2010. 6. 17 【参加者】橋本

南アの笹ヶ岳偵察が目的。笹ヶ岳へは、登山口の老平から往復 17 時間を要す。標高差も約 2100m あり、タフなコースで、通常は途中でテント泊である。

雨畑への県道の土砂崩れ箇所は片側通行可。老平には数台の駐車スペースがある。老平 6:17 出発。左方をはるか下に流れる奥沢谷に沿って林道を歩く。林道終点の少し上に廃屋の一軒家（6:49 着）がある。暫く歩くと、奥沢の渡渉点にでる。数日来の豪雨で奥沢は水量が多く、傾斜がきつい沢であり、流れが速く、渡渉には注意が必要。渡渉地点を探すため約 40 分をロス。対岸の広河原 8:03 着。

ここから山の神までジグザグの急傾斜で高度差 680m、山の神（9:29 着）には古い石の社がある。広河原から始まる千挺木尾根は急登の連続であり、山の神からも急傾斜が続く。造林小屋跡の少し上で樹林帯が切れるガレ場があり、左後方に富士山が望める。高度差 500m を上りきるとコースはやや緩やかになり、幅広い尾根となる。付近はコメツガとシラビソ林である。広河原で水を補給しておけばこの辺でテントが張れる。林床にはマイヅルソウ。暫くダラダラ坂を登ると檜横手山（2021m、11:54 着）である。ここは展望も無く、縦走コースの一部のようである。

予定では布引山までであったが、予想以上に広河原の渡渉で時間をロスし、また、急坂の連続で体力を消耗したため、ここで引き返すことにする。山の神 12:58、広河原 13:20、再度奥沢の渡渉にかかる。まだ危険である。簡易アイゼンを着用してコケの生えた水中の岩にケアする。一軒家 14:02、老平 14:29 帰着。登り 3 ピッチ 5 時間 37 分、降り 2 ピッチ 2 時間 35 分、合計 8 時間 12 分。老平を今少し早く出発し、広河原の渡渉に問題が無ければ布引山まで往復可能であろう。笹ヶ岳はやはり途中 1 泊が妥当。この山域は野生のサルが多い。

1013 奥秩父：西沢溪谷入口～甲武信岳、他

【期日】2010. 6. 24 【参加者】橋本

西沢溪谷入口 7:01 出発。新緑が美しい。徳ちゃん新道沿いはレンゲツツジやヤマツツジが咲いている。戸渡尾根分岐点 8:40 着。サラサドウダンが満開。アズマシャクナゲの花弁が落ちている。破風山からの尾根稜線 10:11 着。木賊山 10:16 着、一帯は冬季は積雪が多いところだが、今はアズマシャクナゲのトンネルである。木賊山からの下降点からは南ア、北アが望める。甲武信小屋 10:27、甲武信岳(2475m) 10:40 着。山頂からは、湿度が低かったためか、浅間山、北ア、八ヶ岳、南ア、金峰山、富士山がくっきり見える。木賊山付近の南斜面では、コイワカガミ、オオサクラソウ、キバナノコマノツメの群落が美しく、多数の写真を撮った。甲武信岳山頂では軽食をとってすぐに下山開始。木賊山 11:15、稜線 11:19、戸渡尾根分岐 11:59 (昼食)、西沢溪谷入口 13:17 帰着。登り 3 ピッチ 3 時間 39 分、降り 2 ピッチ 2 時間 37 分。所要 6 時間 16 分。

=====

6月の末には、大半が60歳台の友人たちと、約50年ぶりに白馬岳近辺に行ってきた。後立山連峰は初恋の人に再会するような気持であり、他方で感傷が入り混じったものであった。遠見尾根、八方尾根、白馬乗鞍岳にそれぞれリフトを使ってトレッキングしたが、長野オリンピックを境に、この地域は様変わりが激しい。変わらないのは、山々の姿のみであった。

1014 富士山：須走り口～大日岳

【期日】2010. 7. 19 【参加者】橋本

連休最後の日で、須走り口の新5合目Pは満杯。アザミラインを標高1700mまで下ったところに駐車。須走り口新5合目 6:55 出発。快晴・無風、カンカン照りで暑い。瀬戸館 8:16、太陽館 9:04 着、今朝の日の出を見た人達が多数下山道を降っている。見晴館 9:40、トモエ館 10:24。登山者が急に多くなる。金明水 11:23 着。昼食休憩。お鉢めぐりを計画していたが、大日岳には多数の高校生が陣取り、その他の登山者も多かったのもので、ここで下山することにした。下山開始 11:45、新5合目着 12:53。登り 4 時間 28 分、降り 1 時間 30 分、合計 5 時間 58 分。

1015 フランス・スペイン国境 ピレネー山脈：アネト山 他

【期日】2010. 7. 16～25 【参加者】岡田

ピレネー山脈の旅へ行ってきました。滞在期間は7/16～25、晴天の日が多くて、一時寒気が入って崩れた時もありましたが、全体的に天候に大変恵まれたと思います。少々のトラブルは別として、概ね考えていたように旅程が進み、写真のアネト山 Aneto(3404m)登頂を達成しました（単独で早朝発日帰り）。

スペイン国内を中心に結構多くのパーティが来ていました。ガレ道とピッケル・アイゼン使用の雪渓歩きがほとんどですが、頂上直下にヤセ尾根の短い岩場(穂高の縦走路程度)があって、鎖等が無いのでパーティの半数ぐらいはガイドに確保されて通過してました。私はフリーで問題なく通過できました。

その他レンタカーで、スペイン側のベネスケ、トルラ、ボイの谷、およびフランス側のコトゥレ、ガバルニーの山間のリゾート村を訪れ、キャンプ場泊でトレッキングをほぼ毎日楽しむことができました。ガバルニーの大峡谷円形劇場など、珍しい氷河地形の迫力と美しさは感動もの！花も特にスペイン側は非常にたくさん咲いていました。

バルセロナ市内観光も1日だけしましたが、暑くてしんどかった！バルセロナでは日本人がたくさん居ましたが、ピレネーでは日本人には1人も会わず、スケールが大きい広大なエリアで、野性味のあるトレッキングができる点も魅力だと思います。今後私のホームページへレポートを載せる予定です。

なお、ピレネー山脈の地図・ガイドなどは日本では入手困難です。ピレネーに詳しい知人（GR11という峠越えを繰り返して山脈を走破するロングトレールを歩いた）がいて、資料を事前に貸してもらえたので、大変助かりました。

追伸

年末年始のニュージーランドは以下にレポート作成しました。

<http://www.geocities.jp/yukidoril/world/newzealand/index.htm>

1017 南アルプス/WC：岳沢越～三峰川源流～仙丈岳

【期日】2010. 7. 30～31 【参加者】尾崎，島田，中山

高遠からのタクシーは、通行止めで杉島までしか入ることができず林道を歩く。左から明確な沢が入る二俣で、地形図の1409mの分岐までまだ来てないと判断。いまいちはっきりしないが、マーキングもあることだしと思ってそのまま右の沢に入り、その先で二本ほど試行錯誤。どちらも方角がどうしても合わなくなってくるので、二俣にもどりほぼ唯一の可能性である左の沢へ。案の定こちらにもマーキングあり。長時間行動なので注意深くロープも使って滝を越えて明白な分岐で幕営。降り出した雨のため焚火はできなかったが、尾崎先輩による梅酒をいただきながら楽しく過ごした。二日目は、幕営地～岳沢越（急傾斜の滝群を右岸の踏跡から高巻き時間をかせいだ）、三峰川におり源流をつめ、地蔵尾根から仙丈ヶ岳に登り、北沢峠に下った。源流は苔の清流でかなり美しい。4時20分発、詰めた時点で11時前、軽い一日分の行動に相当し疲れていたが、地蔵尾根からは中山君先頭でのがんばりにより仙丈ヶ岳にも行けて充実し、1530のバスにぎりぎり間に合った。

失くしたかと思ったテントの袋ですが、ザックにしまっていた山シャツの胸ポケットからでてきました。設営時の雨やドタバタで忘れていました。全く初歩的なことでご心配をかけすみませんでした。スケジュール・仕事の状況から直前の参加決定になりましたが、尾崎先輩と中山君のおかげで有意義な山行になりました。（島田）



島田さんも書かれている 1409m の分岐では、地形図を見てお二人の判断に納得していましたが、現在地やルート の推定にはより慎重に、厳密にならなければ、という教訓になりました。また、自分には歩きながら進む方角に気を配る余裕がまだなく、この点も今後意識すべきだと感じました。ここでのロスやロープを出す場面の影響で一日目の終盤はかなり疲れを感じましたが、夜は酒も入って盛り上がりました（睡眠不足？）。

二日目は三峰川の詰めでのトラバースからペースが落ち出し、地蔵尾根の上りでは歩幅が足の大きさ位になっていました。仙丈岳へのアタックで空身になったことで一時的に足も回復しましたが、二日目はお二人に励まされながら何とか歩ききったという印象です。それでも予定の頂上を踏み、予定のバスに間に合ったことで大きな達成感（と安堵感）を得ることができました。自分にとって初の南アルプスでした。次は山頂からの眺望を期待したいと思います。下りは無意識に相当飛ばしたようで（本人比）、早速甲府駅の階段で手すりに頼らざるを得なくなりました。尾崎さん、島田さん、さまざまな場面で助けていただきありがとうございました。（中山）

1018 奥多摩/WC : 梅沢下部瀑流帯

【期日】 2010. 8. 1 【参加者】 山野、小川、他

8月1日(日)の海沢の報告です。視覚障害者の山の会「六つ星山の会」の定例山行です。参加者は18名、内視覚障害者は3名。女性も3名でした。沢登りは年に1回程度です。海沢の三段の釜滝から上に行く予定でしたが、殆ど巻く予定であり沢を歩かないようだったので行きの電車の中で急きょ海沢の下部瀑流帯を行きことにしました。淵や大きな釜を持つ小滝が連続しています。

7時32分の立川発の電車で白丸着8時48分。多摩川の対岸に渡りアメリカ村(キャンプ場)を過ぎて10時半、天千沢の出会いから入渓。すぐに大きな淵を持った滝があり泳ぐか高巻きで右から高巻いたが相当高く、下が滑りやすい感じで時間がかかった。その後は泳ぐことにした。泳ぐ時もザイルを出して泳いだので結構時間がかかった。13時過ぎに昼食のあと、泳いで挑戦する大きい釜になったが高巻いて左の林道に逃げることにした。急なのと足場が崩れやすくザイルを出してここでも時間をくった。16時になったのでそのまま下ることにした。数名で上まで見に行ったが井戸沢出会いがすっきりしたきれいな滝であった。下部瀑流帯の半分くらいしか沢にいなかったようだ。この沢は最初から泳ぐつもりでないとだめなようだ。

もえぎの湯に入ろうとしたが30分待ちと言われてやめた。18時5分の奥多摩発の電車で帰った。結構面白かったが視覚障害者と行く場合は事前に下部瀑流帯を下見すべきであったし、泳ぐためには防水をきちんとする必要がある。(山野裕)

1019 南アルプス：青木鉱泉～鳳凰三山

【期日】2010. 8. 4 【参加者】橋本

8月は事情により昨年ほどの山行ができなかった。今夏の異常な暑さや年齢も、その一因である。体力の衰えを感じ、寂しい限りである。

8月4日、青木鉱泉6:43出発、ドンドコ沢の沢沿いコースをとる。マルバダケブキ、カニコウモリ、ヤマジノホトトギスが咲いている。南精進の滝7:52着、鳳凰の滝8:15着、白糸の滝9:03着、急登が続く。五色の滝上部9:27着、付近にはジュウモンジソウが咲いており、季節的には違うかもしれないが、キタダケソウ類似の花が見つかった。鳳凰小屋10:08着、ガスが晴れない。付近はタカネビランジ、ミヤマコゴメグサの群落が美しい。小屋から賽の河原へのつらい急坂を登り、10:51賽の河原着。地蔵岳には行かず、小休後、ガスの中を南下開始する。以前には余り経験が無かったシカの声が聞かれ、一部で高山植物のシカによる食害が見られる。赤抜の頭は縦走路とは逆のところに有り、引き返してコースに戻る。鳳凰小屋への分岐点はやや広いコルで11:32着。観音岳(2840m)11:59着、昼食休憩。薬師岳(2780m)12:31着。山頂で放送関係者？数名が大声で話し合っているのので、すぐに退散、中道を下降開始。途中ビバークできそうな巨大な岩は御座石、このコースは急な下降路で、景色もなくウンザリするが、最近コース各所に道標が新設された。林道にでる手前にこのコース唯一の水場あり。青木鉱泉14:39帰着。車のヘッドランプをつけたまままでいたため、バッテリーダウン。 所要計7時間56分。

1020 会越国境/WC：室谷～御神楽岳, 駒形沢～駒形山

【期日】2010. 8. 14～17 【参加者】松本、上野、尾崎

2万5000 図を眺めたとき、その等高線の端麗さから、ぜひ登ってみたいと思った山が2つある。ひとつは海谷山塊の昼闇山北東尾根、他方は会越国境、駒形山だ。

下田、川内のエリアは自分にとって無知であり、それがまた魅惑である。駒形山は新潟県三条市、加茂市の東に広がる下田川内山塊の東にあり、会越県境からわずかに会津側に位置している。中ノ又山、裏ノ山、矢筈岳、御神楽岳など、周囲は多くの未知の山が並んでおり、ぜひ訪れてみたいと思っていた。

8/14 御神楽岳登山口 9:35～10:20 R 10:35～11:32 R ～水場 (テント設営) 12:20～13:20 R ～13:55 御神楽岳～15:00 幕営地

初日、磐越西線津川駅に降り立ったとき、天気は絶望的な大雨だった。常浪川はスラブ壁の発達した山々から流れる川であり、その名のとおり、そして予想に違わず激流と化していた。悩ましい協議の結果、常浪川支流から駒形山アタック後、室谷川本流をつめて中ノ又山に出る計画は変更する。初日は室谷からの登山道で御神楽岳に登り、天候回復を待って駒形山を狙うこととした。

登山口までタクシー出入り、不要な登攀具をデポして登りだす。道だけでなく斜面という斜面が水流で覆われている状況で、ある意味水場に困らない。道が沢を横切る地点でテントを張るが、すでにすべてが水浸し。

幾分雨が弱くなることもある中、御神楽岳を往復。稜線に出ると東面のスラブは見ものだろうが、この天気では何の展望もなく、泥にはまりずぶ濡れのヤブをかき分けるだけである。テン場では、タープを張ったのでまずまず快適。夜から朝にかけて再び大雨となる。日本海に停滞する前線の影響。



8/15 出発 5:40～6:29 R ～7:25 登山口～8:35 室谷集落より駒形山方面に入った所～9:45 右岸への橋～11:20 入谷地点～13:00 泳ぎ偵察～14:30 戻り幕営

翌日の天候も変わらず。とにかくまず登山道を下る。林道を歩いているうちに雨がやんできた。すでに4-5日山に入っていた気分。室谷川まで戻ってくるが、相変わらず激しい増水。天候回復を信じ行ってみることにする。里心つかぬよう、集落分岐はそそくさと通過する。室谷の一番奥の田んぼ脇にある洞窟を見物した。中で十分テントを張れる大きさがある。

林道を2時間半ほど歩くうちに不安定ながら晴れてきた。入渓点の川原は巨大堰堤を過ぎた林道屈曲点を下ったところ。水量は多めだが問題なく歩ける。増水後のせいか水が黄色みを帯びている。今日は深入りせずテン場を探しながら進む。ブルーシートを拾った。幕営用タープに使用することとした。地層が露出している所もあった。淵に出くわし釣りをしてみたが、とくに収穫なし。この淵手前で荷物を置き、泳ぎ渡って向こうを偵察する。まだゴルジュが百メートルほど続き、その奥に大釜を持つ8m滝があった。流れに身を任せて帰ってきた。

この日は淵手前の河岸段丘で泊まる。明日、空身で駒形沢アタックの方針。焚き火で料理。その上でぬれた靴下を乾かす。火を見ていて飽きることはない。快適だが、標高も低く焚き火をしているとむしろ暑い。

8/16 発 5:30~7:05 駒形沢~8:22 R ~9:50 スラブ滝下~11:35 R ~12:30 稜線~12:55 駒形山南峰~14:10 駒形沢左岸尾根への分岐~14:30 R 14:45~16:40 R ~17:05 R 17:15~17:30 ビバーク

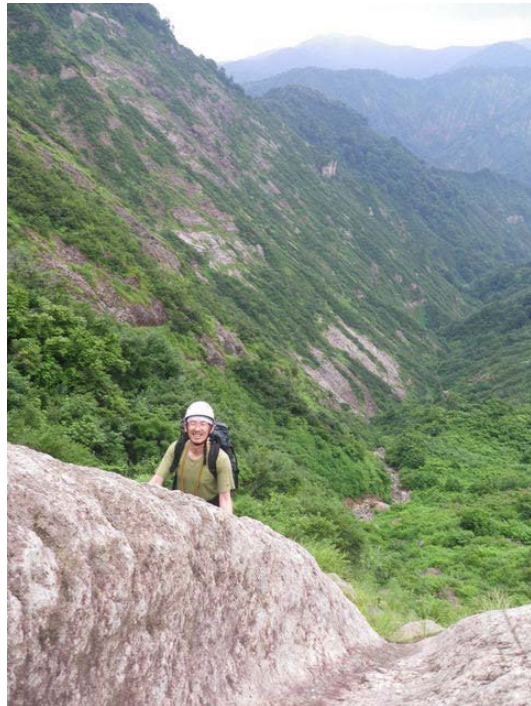
翌朝、松本さんトップに淵を渡る。水温低くない。釜をもつ8m滝は右岸のルンゼから巻き登る。曇っていて雨が少し降ってきた。まだ天気は不安定さが残っている。次の釜が現れたが右から巻くことができた。駒形沢に入り1時間ほど進むと、奥壁のスラブ帯が見えてきた。いよいよスラブ帯に突入すると、大岩くぐり、滑り台状スラブなど変化に富んでいる。左右対称で美しくも不思議な造形だ。この核心部滑り台状スラブは、フリクション頼りに右壁を登る。駒形山東面のスラブは全体に急であるがブッシュも多く、休憩場所は適宜得られる。

12時半、激ヤブの稜線にたどり着き、もうひと踏ん張り。13時前、駒形山南峰の1071.8mに立つ。一等三角点のピークだけあり、雲は多いが周囲の山を見渡すことができた。室谷川を囲む山はどれも巨大なスラブを擁している。駒形山北峰はうっそうとした樹林に被われている。

駒形山からの下りは、予想以上の激ヤブのルートファインディングを必要とした。駒形沢左岸尾根を忠実にたどろうとするが、その入り口からして難しい。地図上の距離感覚、所要時間の感覚、歩いた距離感覚、いずれもが合致しない。それでも3人の力を合わせ、尾根を外れることなく絶妙ほとんど完全なルーファイをする。14時を過ぎると夕立が頻発するようになって視界も悪化し、日のあるうちの帰幕は断念する。懸念したとおりであるものの、早めにタープを張ってビバーク体制とし、それもまた楽しく余裕があった。



釜をもつ8m滝



核心部といえる滑り台スラブ

8/17 発 5:23~6:25 コル~8:30 R~10:00 幕営地 11:30~12:30 入谷の川原~13:30 右岸から左岸へ渡る橋~15:05 室谷

天気の良い朝を迎える。歩き始め地点のヤブは昨日より薄いようにも思えたが、すぐにまた激化する。尾根末端の地形の分岐は難しい。ヤブ尾根下降最後の休憩ポイントは眺めよく気持ちいい。ここから左の窪へ入り、ようやくヤブ漕ぎから解放された。そして、室谷川本流がすぐ下に

見えるところで、2回の懸垂下降を行って、しっかりと幕営地点に戻ってきた。

安堵感が先に出て、まだテント撤収、下山が残っているのが、だるい感はある。室谷・常浪川の下りでは、大量発生した目白アブの餌食となるのも渋い充実感であり、再来の日のことにも思いをはせた。



激ヤブからようやく解放されて一服。

1022 南アルプス：黒戸尾根～甲斐駒ヶ岳

【期日】2010. 8. 24 【参加者】橋本

竹宇駒ヶ岳神社P 5:14 出発。殆ど雨が降っておらず、コースはカラカラである。笹ノ平分岐 6:44 着、黒戸神社碑 7:04 着。黒戸尾根の八丁登りにさしかかる。付近は見事なササ原とシラビソ林。刃渡り 7:58、ガスが徐々に切れてきた。刃利天狗 8:21 着、コースは黒戸山の北側を巻き、5合目小屋跡へは下降となる（小屋跡 9:04 着）。七丈小屋への登り、ハシゴ付近ではミヤマダイモンジソウが咲いており、ハンゴンソウやウスユキソウも多い。七丈小屋 9:51 着、水を補給。再度ガスがかかってきた。付近はリンドウ、イワシャジン、オトギリソウが咲いており、早くもナナカマドの実が赤くなってきた。甲斐駒ヶ岳（2967m）11:40 着、山頂でガスが晴れるのを待ったが好天せず、下山開始。8合目御来迎場付近で昼食。七丈小屋 13:05 着、五合目小屋跡 13:43、刃利天狗 14:14 着、軽食小休。刃渡りを通過中、一瞬ガスが切れ、韮崎市方面と北方の日向山が望見された。笹ノ平分岐 15:13、駒ヶ岳神社P 16:10 帰着。平日にもかかわらず、このコースを歩く人は結構多い。登り 6 時間 26 分、降り 4 時間 30 分、所要計 10 時間 56 分。

1024 西上州/WC：赤岩沢悪谷～大ナゲシ～赤岩峠

【期日】2010. 9. 11 【参加者】青谷、松本

秋川 5:40 発 高速藤岡より神流川沿いに赤岩沢出合 8:00、少し林道をたどり出合発 8:45。水量少ないが、小滝と大岩を越えていくと、チャートの岩盤を深く切れ込んだゴルジュとなり側壁が圧倒的。大滝 15m のみザイルを出す、ホールドが豊富で容易。苔むした庭園風の沢筋を忠実にたどれば、大ナゲシ西の肩にあたるコルに飛び出す 12:20。踏み跡をたどればしばらくで大ナゲシのピークに立つ。奥秩父～八ヶ岳～浅間山と大展望、両神山周辺の故森下さんとたどった山々の記憶がよみがえる。山頂で大休止のあと 14:00 発、出始めたキノコなどを観察しつつ、意外と悪い尾根をたどり、赤岩峠より出合に戻る 16:45。温泉に浸かり、恐竜の足跡化石などを見て、秩父経由一般道で帰る。急な変更だったが、まずまず楽しいゆったりした山行になった。

1025 南アルプス：田代入口～伝付峠

【期日】2010. 9. 13 【参加者】橋本

伝付峠や前回報告の策が岳方面などは白鳳南嶺と言われる地域だが、この山域は入山者が少なく、静かな山旅が楽しめる。バス停「田代入口」は県道 37 号線の小之島トンネル通過直後の右側にあり、見つけるのに苦労した。内河内川を広河原に向かったが、砂防堰堤工事のため、広河原では駐車できず、約 280m 下で駐車である。広河原 7:52 出発、舗装された急坂の林道を行き、堰堤工事脇の仮設登山道で高巻きして本来の登山コースに入る。コースは内河内沢沿いに保利沢小屋まで 70 か所以上の木製または鉄製の栈橋を歩く。一部が崩落しているが、特に危険箇所はない。栈橋 No. 17 で初めて右岸にでる (8:46)。またすぐに左岸に出、大滝 9:06 着。見事な滝である。この頃より雨が強くなってきた。10:11 東電保利沢小屋着。アザミ沢とヨモギ沢の出会い 11:06 着 (標識?)。ここからはジグザグの急坂となるが、東電関係者が利用しているのか道幅が広く、歩きやすい。見事なカラマツ林と林床の緑のササ。ここで、ケモノ道に迷い込み、20 分ロス。天気は回復したが、峠直下の緩斜面のササ原ではササの雨滴でズボンがびしょぬれになる。ササ原の途中で水場があり、ここにテント 1 張のスペースがある。伝付峠 (2020m) 12:28 着。少し先の展望台で昼食休憩。マンロー沢の頭はガスで見えず。峠付近はヤマトリカブトが満開、風が強くなってきたの早々に下山開始。13:57 保利沢小屋、14:31 大滝、15:28 広河原帰着。所要計 7 時間 36 分。

1026 北アルプス：クリヤ谷～笠ヶ岳～鏡平、他

【期日】2010. 9. 18～19 【参加者】尾崎

この3連休は何としてもどこか1人で行こうと考えて、頸城、笠、錫杖岳尾根道、白馬北方稜線など情報はあさっていた。だが直前まで行く行かないを迷っていた。金曜の20時前、好天の予報にもはや行くしかないと考える。帰りにGWのための南西尾根取り付きも確認できそうな、笠ヶ岳しかもクリヤ谷からのルートで決断を下す。松本まで夜行、新島々、中の湯、平湯と列車とバスの乗り継ぎが何度もあるが、遠くに来たという感じがよい。翌日朝8時半過ぎに槍見温泉登山口にたどり着くが、明るいうちに笠ヶ岳頂上までたどり着けるか不安もある。テントがあるので何とかなろう。

クリヤ谷を左岸に渡渉し右に回りこむあたりからは、錫杖岳の圧倒的な景観が見ものである。錫杖岳へ続く踏み跡を左に分けた所では、川原に3張りほどテントが見え、2人くらい人がいた。登山道すぐ上流の岩小屋下にも無人のテントが2張りあった。なだらかな登りの途中の水場で休憩。いよいよ急登となる所にも岩小屋があった。急登の途中でしっかりした水場がある。左に巻き込みながら主尾根に出る。右側の広サコ尾根最上部は、尾根筋が斜面に吸い込まれており確かに雪崩に注意な地形である。13時前と時間は順調であるので、ガスの中登高を続行する。長い登りであったが15時に登頂を果たす。ちょうどガスも晴れてきて、金木戸川上流カールや笠ヶ岳西面の各尾根が良く望まれる。

翌朝は槍穂高の展望に恵まれた稜線散歩となる。笠新道を下つてはもったいないので鏡平経由とし、ゆっくり出発する。さすがに3連休の百名山とあって、こちらメインルートは人が多い。歩くにつれてずんずん槍ヶ岳が大きくなる。黒部源流方面の山々は草紅葉となっている。弓折岳分岐までは思った以上にアップダウンが多かった。鏡平からの展望もすばらしい。今回鏡平経由にしたもうひとつの理由は、傾斜が緩く膝に負担が少ないからである。その分わさび平からの林道は少々飽きるが、14時ごろ新穂高温泉に帰着する。

ここからは次のステージだ。14時半の平湯温泉行きバスは中の湯経由で帰宅可能。しかし今回は途中の栃尾温泉で下車。15分ほど待って神岡行きに乗り継ぎ、「笠谷」という、存在理由すらわからない、何もない山間のバス停で下車する。きっとこのバス停は笠ヶ岳南西尾根のためにあるんだろう(?)。笠谷沿いにつけられた林道を10分ほどたどると、産業廃棄物処分場と思しき場所をヘアピンで通過していく。この辺に荷物を置き、少々行動食を腹に入れ、沢靴に履き替え林道をたどる。ほどなく現れる取水施設までは車が入っているようだが、その先に草の絡まっ

たちやちなゲートがある。その先も釣り人なのか、細い踏み跡が続いている。時折側面からの清水が道を通れるくらいで、道の崩壊などの問題もない。17時、林道が左に回りこみ、左方斜面が緩やかになる地点より、笠ヶ岳頂上が再び見えて「また次に来い」と言ってくれたのをきっかけに、引き返しを決める。緩い下り坂をジョグで戻る。

ここからの帰宅だが、新穂高方面はもう不可能。乗るのは18時すぎの次の神岡行きバスである。市街を抜けた終点のバス停は暗がりの消防署前。カドミウム鉱山の町である。旧洞口は近い。19時の闇には凄みがある。せつくなので道路粉塵を採取する。廃線になった神岡鉄道に代わるバスに乗り継いで、猪谷を経由して富山が21時過ぎ。2時間ほどの待ちにて再度の夜行・急行能登に乗る。秋山を楽しむだけでなく、偵察や試料採りなど欲張りを実現した充実感にまどろんで、明朝の上野へと帰ってきた。

1027 南アルプス：広河原～白鳳三山～奈良田

【期日】2010. 9. 26-27 【参加者】橋本

マイカー規制があり、奈良田よりバスで広河原に入る。9月26日（日）7:25 広河原着。朝食をとり、準備体操をして7:40 出発。快晴・無風、堂々とした北岳が望める。昨日までに多量の雨が降っており、コースは濡れている。大樺沢に入る。はじめは左岸、暫くして右岸にガレ場を登り、再度左岸に渡り、樹林帯を過ぎ、暫くすると二俣である（9:13 着）。ここにはチップトイレが設置されている。ここで右俣の急登コースに入り、御池小屋への分岐 10:31、小太郎尾根稜線 10:50 着。途中の南斜面では、リンドウが咲いており、ナナカマドの赤い実が鮮やか。北岳肩の小屋着 11:15、昼食休憩。北岳 12:03、八本歯のコルへの分岐 12:25、北岳山荘 12:54 着（泊）。午後は急速に天気が悪化し、夜間は雨が更に激しくなった。朝方は気温が零度近くになる予報である。明日は縦走を断念して大樺沢を下山しようか。

9月27日（月）、天気予報がはずれ、朝方は稜線の東側はガス、西側は晴れである。仙丈や鳳凰3山、甲斐駒ヶ岳が良く見える。縦走することにする。5:42 小屋出発。中白根山の登りに取り掛かる手前で、南アではめずらしいライチョウに出会う。風が出てきたが、天気は好転し、陽がさして来た。中白根山 6:09、間ノ岳 6:53 着、右手に急峻な農鳥沢を見ながら下降し、三国平への分岐点 7:32、農鳥小屋 7:40 着。西風が強まり、西農鳥岳がガスに隠れる。農鳥岳方面が左手

直角に曲がることを示している標識が西農鳥岳山頂である(8:21着)。農鳥岳8:57着。下降点は左方で、稜線を外れた、凹地状の場所を過ぎると大門沢下降点に着く(9:24着)。小休止、広河内岳往復を考えたが、この頃より天気は急速に悪化し、風も強くなってきたのと、大門沢の下降も厳しいので、この往復は断念した。大門沢の下降に入ると同時に雨脚が激しくなってきた。濡れたゴロゴロ石の積み重なる急下降のこのコースは滑りやすく、慎重に歩く。激しい水流の音がすると、大門沢最上部の急流である。沢の右岸を急下降の登山道が続く。大門沢小屋11:15着、昼食休憩。小屋から下の登山道は概して荒れている。沢や段差場所にかけてある木製のハシゴの横木等が脱落しているものがあり、更に材木が雨で滑りやすくなっているため、ことに、沢にかけてある橋では、立って歩行するのは危険であった。大コモリ沢、小コモリ沢とも、降雨のためか、増水していた。慎重に渡渉。3本のつり橋を過ぎてしばらくすると休憩所(13:04着)があり、奈良田13:44帰着。所要第1日目5時間14分、第2日目8時間02分。

1028 丹沢：畔ヶ丸

【期日】2010. 10. 18 【参加者】橋本

秋季は例年他用が多くなかなか山に入れない。今年も同様であったが、なんとか日程を設定して山に入る。友人4人と黄葉が始まったブナを見に行く。山頂(1293m)付近のブナは美しく黄葉していたが、思いのほか枯損しているブナが多く、その枯損しているブナに大量の巨大キノコが着生していた。

山に行く時にはなるべく新しいコースを選ぶようにしている。新しいコースという意味は、自分にとって未経験のコースである。新しいコースを登るときはいつも若干の躊躇を覚える。この躊躇は地図上ではわからないもろもろのコース上の心配ごと、殊に冬季の山行では恐怖心も入り混じる。

1029 信越：切明～岩菅山～志賀高原

【期日】 2010. 10. 23-24 【参加者】 尾崎

10/23

十日町＝津南＝和山入口 10:00 ～切明 11:00～12:12R～13:15 巻きの手前～15:30 テント適地～15:45 幕営

昨秋の野反湖から魚野川遡行をきっかけに、この山域の尾根に初めて足を踏み入れることにした。快晴の切明温泉は観光客にあふれている。しかし岩菅山への尾根の取り付きははっきりしない。笠法師山はその名のごとし。お菓子の甘食の形をした、深緑の端正な山容である。ゆえに遠くからでも良く目立ち、歩けどまったく近づかない。笹の切り株で歩きにくい道を、ようやくと笠法師を巻き越すころには、秋の日は傾いてきた。そろそろテン場が気になるが、道は狭いコルまで急下降となり、登り返してしばらく行くと黒木の森の中に適地がある。適地ではあるがだだっ広く適地すぎ。見晴らしも悪いのでパスしてしまう。少し行った大斜面の笹の中、斜めの道の上で幕営する。苗場山は草紅葉が西日に光る。夜更けは月夜で正面の烏帽子岳が黒い。

10/24

発 6:00～7:15 烏帽子岳～9:40 裏岩菅山付近～10:25 岩菅山～12:30 スキー場上部～13:15 高天原

予想よりは暖かい朝。烏帽子岳まで急登すれば、中腹の紅葉に支えられた渋色の山稜が一望できる。人気のない晩秋の稜線散歩である。裏岩菅山の頂上は、人臭くなくて良い。焼額山はスキーコースがバリカン状態でいただけでない。一転して岩菅山から奥志賀高原へのメインコースは人々。それを分けて縦走路を進むが、帰宅を考えると赤石山まで行くのは少し時間がきついで、東館のスキーコースを歩いて高天原へ下山する。路線バスで湯田中へ出る。

1030 富士山：吉田口登山道～8 合目

【期日】2010. 10. 27 【参加者】橋本

富士山を1合目から登ることにした。昨日は今秋初めての寒波である。登山口の吉田口馬返は朝3℃、晴れ、無風。今日は頂上を目指すのではなく、ふもとに広がる原生林の黄葉を楽しむことが目的である。馬返P6:57 出発、付近は素晴らしい黄葉である。1合目 7:08、2合目 7:31、3合目 7:45 着、ゆったりした登りで、旧箱根道と同様な石畳のコースの上に分厚く積もった落葉が気持ち良い。付近はコメツガ、ミズナラ、ケヤマハンノキ、ハクサンシャクナゲ、カラマツ、イタヤカエデ、ハウチワカエデ、ナナカマドなどがあり、緑、黄、赤のコントラストがすばらしい。4合目 8:07、5合目（井上小屋）8:16 着。5合目ゲートを過ぎて佐藤小屋 8:43 着。気温4℃だが少し霧が出てきた。少し上に経ヶ岳がある。6合目里見平・星観荘は新設小屋である。日の出館 9:57 着。天気は急速に好転し、陽がでてきて暖かくなる。服装・装備は不十分だが雪は全くなく、ルートも殆ど凍結していないため、継続して登ることにする。7合目トモエ館を過ぎるころからルートは溶岩となる。新設らしい瀟洒な山小屋東洋館 10:30 着。北方に八ヶ岳が見える。このあたりから強風が始まる。手元高度計は標高3000mを過ぎている。おそらく8合目付近であろう。しばらく登り、強風と気温の急速な低下が始まったので下山することにする。10:54 トモエ館、12:48 馬返帰着。多数の写真を撮った。

1033 安倍奥：梅尾根～十枚山

【期日】2010. 11. 29 【参加者】橋本

十枚山（1726m）は南ア安倍奥東山稜にあり、南ア南部を概観できるという。登山口は山梨県南部町成島地区を過ぎ舗装された林道をたどるが、最後1km位はダートで、車の走行は可能である。

朝7時半の気温1℃、快晴、無風。登山口に3.8kmと表示されているが、これは十枚山からの距離である。標高差は約1000mであり、コースの急登が予想される。案の定、コースは200mごとに標識がある急坂が連続する梅尾根を登る。登山口 7:44 出発、付近は植林されたスギ、ヒノキのほかにブナ、ミズナラが多い。2.4km 地点（梅尾根上の段付近）8:32、石小屋 9:03 着、木の間越しに双耳峰の策ヶ岳が見える。十枚峠 9:16 着、ここは山頂とともに、西側の井川方面からの直登コースもある。十枚山（上十枚山）9:37 着。西側の南ア最南部と富士山の素晴らしい眺めはあるが、以北の南ア高山は見えない。写真を撮り下十枚山に向かう。十枚峠 10:00、下十枚山 10:18 着。山頂からの富士山は素晴らしく、伊豆半島の天城や駿河湾も望める。十枚峠 10:40、登山口 11:31 帰着。登り2ピッチ1時間53分、降り1ピッチ1時間54分、所要合計3時間47分。

奥多摩：丹波～ミサカ尾根～前飛龍

【期日】2010. 12. 8 【参加者】橋本

今年は夏季は猛暑であったが、冬は駆け足でやってきた感がある。歳をとったせいもあるが、寒さが一段とこたえる。それでも登山靴をはき、登山口に立つと寒さを忘れる。

前飛龍(1954m)は、後山林道から三条の湯を經由して飛龍山に至るコースがあるが、今回は丹波山から入ることにする。朝7時の丹波山の気温1℃、快晴・無風。大丹波峠から見る奥秩父主脈は昨日降った雪で白い。車を丹波山道の駅Pに停める。P出発7:07、411号線を少し行くと右手にサオラ峠の道標がある。堰堤工事用の道路をたどり道路終点近くに続く急坂のトレールのついたルートに入り、100m位登ったが廃道らしい。その枝道もさぐったが途中で消滅。ここで約50分ロス。引き返し、工事用道路と別れる道路を直進してサオラ峠方面の道標を発見。

付近は野猿の姿が多い。シカよけ柵の扉を4ヶ所こえ、サオラ峠への登りが始まる。植林したスギ林の中の急坂を登る。スギ樹冠に残った昨日の雪が間断なくパラパラ落ちてくる。ルートは雪に被われる。サオラ(サオウラ)峠9:43着。積雪は約20cm、新雪で歩きにくいがここでアイゼン着用。サオラ峠は広い平坦なところでミズナラ、ブナなどがある。ここから熊倉山までは比較的なだらかなルートである。しばらくすると西方に南ア北岳、南に富士山が望まれる。熊倉山10:42着。引き続きミサカ尾根を登るが、この尾根は明るい馬の背状で、ミズナラ、ブナ、ツツジなどが豊富である。新緑の季節に再訪したい。いくつかの小ピークのアップダウンを繰り返し徐々に高度を上げ、露岩帯を超えると前飛龍である。

当初は飛龍山に行く予定であったが、ここで引き返すことにする。前飛龍着11:59。積雪約40cm。1954mの三角点は少し上である。ここからの南アや富士山の眺めは素晴らしい。軽食と写真を撮り、下山開始。雪道はスタミナを消耗する。熊倉山12:53、サオラ峠13:20、丹波山P14:32着。登り4ピッチ(ロス含め)4時間52分、下り1ピッチ2時間33分、合計所要7時間25分。下山途中、左手5m先で上部から落石あり、立ち木に激突、肝をつぶした。

丹沢：箒沢～檜洞丸

【期日】2010. 12. 19 【参加者】橋本

西丹沢は朝曇り、無風、気温2℃。久しぶりの休日登山である。西丹沢8:43出発。ゴウラ沢出会い手前のミツマタは蕾が膨らんでいた。今日のコースであるツツジ尾根コースは道標が全体に新調され、沢などにかけている木橋もすべて付け替えられ、コースの整備がなされた。ゴウラ沢出会い9:18、展望園地9:51着、雪はない。展望園地から急坂が始まるが、途中のクサリ場には鉄ハシゴがかけられた。石棚山稜分岐10:29着。急に風が強まる。檜洞丸(1601m)10:40着。

軽食をとり、山頂のブナにかかった美しい霧氷の写真を撮り下山開始。一瞬、雲が晴れ、富士山、南アの白い峰々が見える。展望園地11:27、ゴウラ沢出会い11:51、西丹沢12:23着。登り2ピッチ1時間57分、下り1ピッチ1時間43分、合計所要3時間40分。このコースは東沢から入る新しい初心者用ルートが作られた。

1035 中央アルプス/冬山合宿：伊奈川ダム～空木岳～池山尾根

【期日】2010. 12. 26-30 【参加者】松本、尾崎

12/26：須原＝伊奈川ダム 9:20～13:40 伊奈川避難小屋～1515 兎平～15:39 幕営

寡雪は一転クリスマス寒波の伊奈川ダム。灰色の空に小雪が舞う。第一歩からラッセルの林道だが、参加者は寂しく2人。最初は雪も軽いと思ったが、やがて足首を越えると歩程は大きくダウンした。夏なら3時間強のところ、7時間近くをかけ、兎平より登山道に入る。11月の腰痛の記憶は鮮明で、まだ回復は完璧でないのが不安である。そんなこともあり、かえって中途半端なところで幕営し、今宵は地面の陥没著しい。

12/27：発 7:45～8:41R～10:00 北沢 10:18～11:25R～12:40R～14:28R～15:40 2320m付近

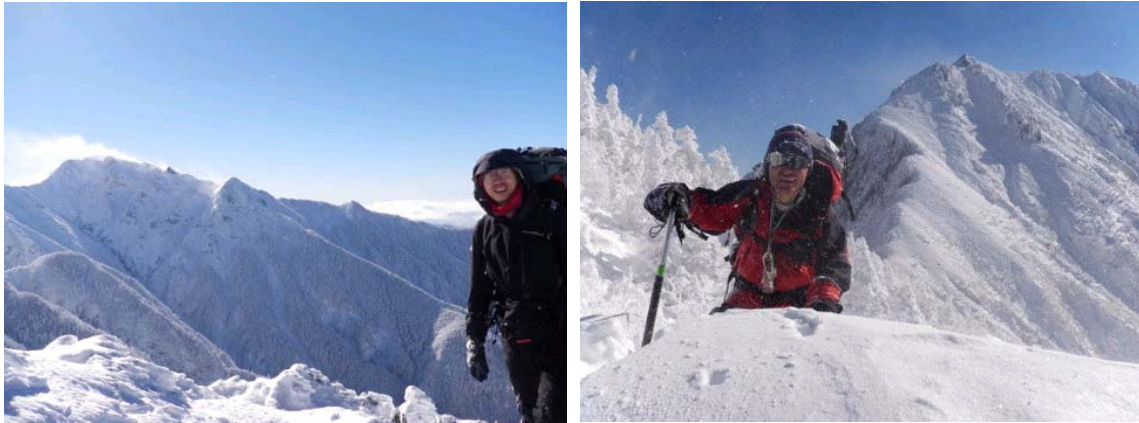
計画よりも大幅な遅延にかかわらず、さっそくの寝坊である。しかし歩き始めると同時に天候は回復してきた。気持ちだけは軽めに進み、北沢へ下って右岸を少し上流に行って橋を渡る。この時点で10時過ぎ。ここから本格的な登りだが、斜面は雪の堆積がない分ラッセルが楽である。2000mを越えると尾根が太くなり傾斜が少し緩む。逆に雪が増え夏道を見失う。2250m付近で見出した左斜面へのトラバース道を進み、右へ登り返して2360mピークを巻いたものと思込む。左側に風の避けられる適地を見つけ、整地は念入りにして幕営。転がり込んで即天気図を作成する。

12/28 発 7:00～8:42R～10:08R～10:50 東川岳～11:15 木曾殿越 11:40～13:15R～14:25 空木岳～14:45 駒峰ヒュッテ～16:16 空木平

昨夕の気象通報によれば、日本海に低気圧の入る今日は弱風快晴の登頂日和だが、明日は冬型に戻る。30日はいったん緩み、その後再び強い寒気が流れ込む。したがって年末年始は警戒が必要だとのことである。このラッセルでは残念だが空木岳登頂後、池山尾根下山が濃厚である。もはやこれを基本方針とせざるを得ず、一種の無念も感じるが、中アを甘く見ていたことも事実である。とはいえ、逆光の主稜線が見せる荘厳さは、来年こそと新たな目標を感じさせるのである。

夏道を失い小ピークが現れ、尾根は左折する。即ちそこは、まだ2360mであった。雪山のルート判断とは時に非常に難しい。東川岳への直登尾根をラッセルし、2590m付近でアイゼンに換える。木曾殿越の風は強いが小屋陰で長めに休憩。11時40分、快晴のもと空木へ向けて登高を開始した。しかし13時前くらい、クラゲ状の雲が稜線の風下上空に現れはじめ、夕刻には悪天かと考えている十数分のうち、急激にガスは濃くなり一気に吹雪状態となる。視界が悪く岩場のルートファインディングに難儀しながら、西面を巻く夏道のマークを見出す。登りついたピークはまだ偽ピークであり、雪下の夏道に視界も悪く、距離感覚も失ってくる。わずかの下りでも方位に気を使う。雪稜も現れ緊張を強いられる。空木岳頂上では吹雪の中、登頂写真だけ撮影して東面

に下る。頂上小屋まで少し下ると風も止み、冬季開放もあってやや後ろ髪を引かれるが、空木平まで下ることにする。結局、下りも深いラッセルで、空木平の小屋は凍りついた引き戸を開けられない。だが別棟のトイレだけはすぐ開いた。それはそれで悪くない。四方から受ける烈風のもと、条件の悪い幕営を強いられた。



12/29 発 7:20～8:20R～9:20 ごろ池山尾根～10:10 2415mピーク手前～11:00 2315m付近～迷い尾根～小地獄～13:05R 13:25～15:00R～15:17 マセナギ～16:15 池山小屋

当然、池山尾根へ登り返すべく、ルーファイとラッセルから始まる。無積雪期なら30分もしないだろう距離を、夏道よりやや上方をトラバース気味にラッセルし、2時間かけて尾根に戻る。雲間から時折薄日が射し、視界はあるのでルートは分かる。急下降を過ぎて2350m付近は再びラッセルが深い。小地獄手前は夏道は南面をトラバースするが、今回は尾根上を行き、2320mピークを越える。左（北）側は大ガレであり、2282mから右寄りに行く。よく観察すると古いマーキングが見られるが地図で見る以上に急下降であり、ルートファインディングに難儀する。夏道の迷い尾根乗り越し点からは、急斜面のラッセルトラバースが連続し、非常に悪い。雪は安定しているようで、所々雪面上に露出する夏道のロープや栈橋で判断できるが、横断にはそれなりの覚悟を要する。向こう側に大きな切れ込みが見えもう勘弁と思ったとき、右へ続く小尾根が、池山尾根下部へのルートであった。ようやくひと心地ついた瞬間であった。その後の駄目押しも甘くない長さであった。それでも、マセナギ1930mを越えたあたりで踏み跡が出てきて、その先にテントを発見！明日アタックの方向とのこと。ここからはしっかりしたトレースに助けられる。池山小屋まで小一時間の道のりだった。目の前に水もある池山小屋はまさに極楽である。中の温度はマイナス5度、なんと暖かいこと。すでに3-4パーティほどが入っており、明日以降登頂を目指すそうだ。夢のような時間はまさにそのまま夢となり、暖かい一夜は更けていた。

12/30 発 7:00～7:46R～8:58 駒ヶ根スキー場～9:10 菅の台バス停

山上の雲は黒い。まだ下界までは数時間みる必要がある。麓の町を見下ろしながら、のんびりと下山した。

1036 丹沢：戸沢山荘～塔ノ岳、丹沢山

【期日】2011. 1. 2 【参加者】橋本

このたびの東日本大震災は全国民を悲嘆のそこに突き落とした。被災者には一刻も早く精神的な立ち直り、また故郷の復興に期待したい。原発事故も、状況は予断を許さない深刻なものである。大地震発生後、気になっていることがある。当地神奈川県の水源地である丹沢山塊がどうなっているかである。

1月2日朝、戸沢山荘-1℃、晴れ、無風。7:17 発。本谷沢出会 7:57、セドノ沢出会 8:15、この沢を渡るとすぐに小さな沢が出る。この沢付近でややコースがわかりづらいが、この沢の右岸に沿って直登すると、徐々にコースが見えてくる。表尾根稜線 8:52 着。書策小屋は撤去されている。新大日小屋 9:06、木ノ又大日小屋 9:16 着。なお、登ってきた書策新道は現在閉鎖中だが、一部コースが崩落しており、修復中である。塔ノ岳 (1567m) 9:35 着。写真をとりすぐに北に向かう。コースは凍結した雪があるがアイゼン不要。丹沢山 10:28 着。軽食をとり下山開始。塔ノ岳 11:21、天神尾根経由で戸沢山荘 12:26 帰着。戸沢山荘直前で転倒し、顔面に裂傷。登り3ピッチ3時間11分、下り1ピッチ1時間58分、所要合計5時間09分。

1038 安倍奥：羽衣～七面山

【期日】2011. 1. 19 【参加者】橋本

登山口の羽衣の朝の天気は快晴無風、-5℃。7:49 出発。13丁目肝心坊 8:20、23丁目中適坊 8:40、26丁目晴雲坊 9:19 着。敬慎院の見晴台 9:52 着、アイゼン着用。七面山へのコースはシラビソとツガの樹林帯の中を通るが、ツガの落枝が激しい。直径10cm位の大きな枝が折れて落ちている。七面山 (1982m) 10:41 着。木々の間から聖岳方面が望める。敬慎院 11:41、羽衣 12:27 着。例年だが、肝心坊付近では野鳥が多い。登り3ピッチ2時間52分、下り1ピッチ1時間46分、合計所要4時間38分。

1040 丹沢：箒沢～檜洞丸

【期日】2011. 1. 31 【参加者】橋本

関東地方は今冬一番の冷え込み。西丹沢朝-4℃。8:21 出発。ゴーラ沢出会 8:58。途中、ミツマタの蕾はまだ固い。展望園地 9:35 着。アイゼン着用。石棚山稜手前の木ハシゴから見ると富士山が美しい。この登りはいつも風が強い。石棚山稜出会 10:25 着、檜洞丸 (1601m) 10:39 着。南アが白く光っており素晴らしい。小休後すぐに下山開始。展望園地 11:28、ゴーラ沢出会 11:54 着。ミツマタの群生地少し先から新しく作られた下山道を下降する。しかし、この道は本来の下山道ではないらしい。西丹沢 12:26 着。登り 2 ピッチ 2 時間 18 分、下り 1 ピッチ 1 時間 47 分、所要合計 4 時間 05 分。

1041 丹沢：用木沢～大室山

【期日】2011. 2. 8 【参加者】橋本

登山口の用木沢出会 2℃、曇り、微風。犬越方面はガス。低気圧が近づいている。7:34 出発。犬越路への登りは一部崩落が進んでいるが、道標は整備されつつある。犬越路 8:26 着。小コウゲ方面はガス。小雪が舞い始める。ここから約 100m の急坂を登りきると傾斜がやや緩やかになり、美しいブナ林となる。稜線 9:27 着、大室山 (1588m) 9:31 着。雪は少ない。風が出てきたのですぐに下山開始。破風口への下りルートもブナ林で、一部木道が整備されている。前大室 10:08、加入道山 10:17 着、軽食をとる。白石峠 10:34、用木沢出会 11:31 着。 所要 3 時間 57 分。

1042 八ヶ岳：御小屋尾根～阿弥陀岳

【期日】 2011. 2. 12-13 【参加者】 尾崎、島田

2/12 :

夜行着で未明の茅野駅で、コンコースに寝袋を広げて仮眠する。降りしきる雪に不安も覚える。バスで7時20分に美濃戸に着く。雪はさほどではなく、少々迷うが予定とおり御小屋尾根に向かう。8時半過ぎに別荘地上端から登山道に入る。八ヶ岳の新雪だからだろう、軽い雪でくるぶしを越えるラッセルも苦はない。天気も予想よりもずっとよく、無風で時折雲間から日が射してくる。昼前に御小屋山、13時半に幕営予定とした不動清水まで来てしまったので、まだ進むことにした。小一時間でだんだん幕営地も限られてきそうになってきた。立ち枯れ状の開けたところを越えた樹林内の雪を切り開いて平地を作り泊まり場とした。冬型になってきたのか夜半より風が強まり冷え込みも厳しい。

2/13 :

朝一番には晴れていたようだが、出発のころには再びガスに覆われる。ラッセルはさほどでない。アイゼンをはじめから装着する。思った以上にまだ樹林帯の登高が続く。前方に露岩が見えるころから徐々に疎林となり、空も青みを帯び、右側には広川原沢中央稜と思しきラインも見え隠れする。露岩を巻くところで休憩。西風は強いが急速に晴れわたった空に気合をもらう。アイゼンを利かせて高度を稼ぎ、広川原沢中央稜とのジャンクション手前の急登ラッセルもそのまま登りきる。距離は短いがここから中岳のコルまでが核心部である。摩利支天は右を通過。続く岩の乗り越しまでラッセル。岩場はあっけなく、鎖と梯子に助けられて通過してしまった。頂上は目と鼻の先となるがラッセルなのでじれったい。中年(?)夫婦パーティがちょうど追いついてきた。阿弥陀頂上に10時過ぎ到着。トレースなどまったくなく。風のよけられる赤岳側で小休止する。中岳のコルまでの下りもトレースがまったくなく、ルートもそう容易ではないことから、視界がないと確かに苦勞しそうである。天候の回復に感謝。数パーティが阿弥陀北稜を登って来た。

雪は安定していそうだが中岳沢を下っても下部でラッセルになりそうである。迷わず中岳に向かうが登り返しはラッセルである。見極めて深くないところを選ぶ。文三郎道までは非常に風が強い。時間的に赤岳へ登るのは厳しいだろうということから、あとはこのメインストリートを帰るだけとなる。八ッ西壁の眺めは荘厳であり、じゅうぶんに堪能して下山した。

1043 奥多摩：鴨沢～雲取山

【期日】2011. 2. 22 【参加者】橋本

鴨沢から入り、所畑から登る。快晴無風、気温-4℃。7:34 出発。堂所 8:14 着。付近に植林したヒノキが毎年大きくなり、暗くなってきた、間伐必要。ここでアイゼン着用。セツ石分岐 8:49、付近でキツツキが激しくドラミング。ブナダワ 9:18、コゲラが木を一心につついていて。奥多摩小屋付近からは富士山、丹沢、南アが白く輝き美しい。雲取山 (2017m) 10:28 着。頂上直下で若いシカ 1 頭。ブナダワ 11:27、堂所 12:06、所畑 12:49 着。登り 3 ピッチ 3 時間 15 分、下り 1 ピッチ 2 時間 21 分、合計所要 5 時間 36 分。

1044 丹沢：寄～檜岳・雨山

【期日】2011. 2. 23 【参加者】橋本

黒沢さんのお誘いで檜岳(1167m)付近のブナを見に行く。9:00 寄大橋出発、林業作業用のモノレール沿いに檜岳に向けほぼ直登する。12:03 檜岳着。昼食。雨山(1176m)付近の巨大ブナの写真を撮るよう黒沢さんから依頼され、雨山に向かう。黒沢さんはもと来たコースを引き返す。雨山 13:03 着。雨山山頂からの下りでコースを見失い、進行方向右寄りに急斜面を下降し、おそらく、寄沢最上部の枝沢と思われる所に降りたが、この沢を下ってしばらくして約 10m 位の滝にぶつかり、下降できず、仕方なく滝横の急斜面を登る。さらに 1 回枝沢を下降し、再度ガレ場を急登してやっと作業道を発見。釜場平 14:26 着、寄大橋 15:08 着。結局、雨山峠を経由せずに下山したことになる。

1045 道志：山伏～御正体山

【期日】2011. 3. 3 【参加者】橋本

北寄りの風、快晴、気温-6℃。山伏トンネル道志側出口より入山。7:46 出発。すぐにアイゼン着用。一昨日降った雨が急速な気温低下で氷片となって木々の枝に張り付いている。ルート上にこの氷片が多量に落ちている。山伏分岐 8:21、送電鉄塔 8:32 着。ここからの富士山、南アの眺

めは素晴らしい。北西の風が強い。前ノ岳を過ぎ、下降してから御正体山（1682m）への急登が始まる。しばらく登ると、やや斜面が緩やかになり、馬の背状の尾根になると一帯はブナの巨木林である。また、ツガ、モミ、ハリモミなどの巨木やミズナラも多い。御正体山 9:45 着。風が急におさまり、頂上は暖かい。軽食を取りすぐに下山開始、ブナ林で多数の写真を撮る。前ノ岳 10:13、中ノ岳 10:30、山伏分岐 10:58、山伏トンネル 11:22 着。登り 2 ピッチ 1 時間 59 分、下り 1 ピッチ 1 時間 37 分、合計所要 4 時間 36 分。

1046 堂津山塊：日道沢左岸尾根末端偵察

【期日】 2011. 3. 25 【参加者】 尾崎

堂津山塊は、もはやこの季節の課題山域となっている。現地天候も降雪であり、地震後の落ち着かない状況で躊躇もあったが、懸案ルートの取り付きだけ見てみることにする。南小谷駅から北へ 30 分ほど歩き、標高 490m の宮本橋を渡る。池の平、大久保への道は除雪されており、標高 680m の大久保までちゃんと住んでいる人がいた。そこからのラッセルは、湿った深雪で、ミニスキーでもかなり重い。林道は屈曲を繰り返すこともあり、地図の感じよりも遠い。積雪も増え、標高 850m からの急斜面は、無木立の法面で少し雪崩も懸念された。とりあえずの目標点とした標高 910m の林道分岐に昼ごろ。天候は吹雪。ここからは尾根上を行くことになり、地形的にもなだらかなになるので、少しだけ先を見て、引き返す。下りのスキーはショートカット部分で威力を発揮した。

1047 奥多摩：宮ヶ瀬～丹沢三峰～大倉

【期日】 2011. 3. 29 【参加者】 橋本

大震災直後の丹沢の状況を見に行く。関東大震災の時は、丹沢は地形が変わるほど斜面崩落や地滑りが発生し、森林破壊も広範囲に起こったと記録されている。登山口の宮ヶ瀬の三叉路 8:36 発。縦走路から少し外れた御殿森ノ頭 9:08 着。快晴で暖かく、震災のためか登山者が皆無で、野鳥が多い。高畑山 9:34、金冷し 9:59 着、近辺はガレ場の多いところだが、コースの整備がきちんとされており、また、地震による崩落など見られない。標高 1100m 位でアイゼン着用。徐々にアップダウンが始まり、下降の際はアイゼンなしでは危険。本間ノ頭 11:19、煩惱ノ頭（地図では無名ノ頭）を経て円山木ノ頭 11:40、太礼ノ頭 12:04 着、この付近で積雪 30cm 位。最後のピーク瀬戸沢ノ頭 12:16、丹沢山 12:48 着。特に斜面の崩落や枯損樹の倒木などはみあたらない。昼食休憩。晴れているが風が冷たい。塔ノ岳 14:03、大倉 15:45 着。

2011 年度

2011 年度役員

会長	松本 哲郎
チーフリーダー	上野 午良
サブリーダー	尾崎 宏和
	島田 悠彦
会計	上野 利之
記録・会報	尾崎 宏和
	灘吉 聡
	島田 悠彦
装備	灘吉 聡
西高係	山野 裕
	小澤 晃平
	保延 陽太
都岳連関係	上野 午良
ホームページ係	灘吉 聡
超OB係	林 武志

1102 上越/VR：銅倉尾根～下津川山～巻機山

【期日】2011. 5. 2～4 【参加者】尾崎、杉坂

5/2

天候の予測が難しく、山行日程の決定は少々難しかった。しかし、結果的にこの日程でほぼ正解だった。

前夜発のムーンライトで長岡折り返しの六日町下車により、始発の野中行きバスに乗る。終点野中バス停は12年前と変わらず懐かしい。だが空模様はけっこう怪しい。行く手には三国川ダムのロックフィルが高い。入山前の緊張が増す。30分くらいでダム築堤の登りに差し掛かると、地元の山の会に所属という工事のおじさんが、業務車両に乗せてくれる。冬季閉鎖のゲートを開けて中に入り、養魚場先の除雪終了地点まで入ってくれる。十字峡まであと少しだ。

十字峡付近の林道は、まだ数十 cm から 1m の雪に埋もれているが、山腹斜面はほとんどない。十字峡の小屋 2 階は広い。自炊泊は快適そうだ。三国川本流へ続く林道はやはりデブリに埋まり困難そうである。今回はさらに右のトンネルに回りこむ。そのトンネル入り口もデブリで半埋まり状態。中に入ったところのポストに計画書を提出した。

水力発電所のパイプ脇の階段が銅倉尾根の末端である。登りきると案外踏み跡は明瞭だった。900m くらいから、ブナの新緑の下で雪を踏むようになる。時折強風で寒く、稜線方面の雲は厚いが、雨が降っていないのがありがたい。1200m くらいから樹林が開けて完全に雪尾根となる。桑ノ木山山頂の東側に雪堤でうまく風がさえぎられる所があり、ネコブ山まではまだ距離も標高差もあることから、少し早い幕営とする。

5/3

2 日目は快晴の朝で、越後駒から巻機山まで一望である。ただ黄砂も多く飛んでいるようだ。ネコブへの登りは展望に助けられる。ネコブ山頂から下津川岳までが本コースの核心部である。ネコブから観察すると、鞍部からの登り返しで尾根は狭くなっており、数箇所、雪が切れた部分が望見される。だがそれらも主稜線への登りの一部にすぎず、結果的に問題なく通過できた。主稜線の単独トレースが見えてきたが、逆方向（巻機→越後沢山方面）で、あまり使えないことがわかってきた。

10 時 5 分、下津川山山頂。利根川源流・越後三山の一望は、新鮮かつ感慨がある。下津川の下りは奥利根のゆったりした稜線とは異なって、細い尾根の下降となる。だがその雪は落ちており、踏み跡も収斂するためはっきりしている。小沢山を大きく登り返す。次の核心といえるのが、巻機山へのルートファインディングである。三番手山手前の右分岐はガスされると非常に難しいだろう。幸い今日は高展望で、緩やかな下りに足を投げ出せばよいだけである。

森下さんが通ったと言われるジロト沢を擁する大兜山方面へ尾根が分かれる三ッ石山へ登り返す。ここから主稜線は直角に左折する。巻機山への大きな登り返しも迫ってくる。再びヤブがちのピークが連続し、一日の行動の疲れもあってつらいところである。巻機との最低鞍部よりひとつ手前の適地に幕営。15時過ぎに到着。夕方小雨が断続した。

5/4

懸念された天候もばっちり回復したかに見えた。5月の青空に助けられ、笹藪の登高もまずまずのペースである。登りきると、左側の雪庇を大きく巻き、さらにやさしい雪稜を登高する。十日町おだまき山岳会の5人とすれ違う。標高差も以降は小さく、トレースもはっきりするので余裕かに思えたが、ガスがにわか発生し、視界を遮ってしまう。風這いはその名のとおり強風地帯であることが小灌木から想像された。高松岳もガスによってはっきりせずに通過する。途中、5人パーティの宿泊跡が1813m鞍部にあった。晴天時は快適そうな場所だ。

その後、このトレースによって稜線南側に入り込んでしまう。柄沢山から入山したということは、巻機頂上はトラバースしたようであるが、不明確な地形的特徴のため現在地がわからない。右側の稜線へ登っても、登りつく場所に確信がもてないため、注意しながらトレースをたどってみる。ぼんやり見える向こうの地形や踏み跡の屈曲から、やはりトラバースであることに間違いないと判断する。小さな雪尾根を目印に、それを詰めることにした。そこから1-2分登ってからか、ほんの一瞬だけガスが晴れた。その推測は正しかった。巻機山と牛ヶ岳の鞍部付近に合流した。逆に、視界が悪いと巻機山の奥利根主稜線入り口も判断が難しいだろう。

牛ヶ岳往復の後、巻機本峰で小休憩。避難小屋の前で大休止する。下山はトレースばっちりの井戸尾根を下降するばかりだが、清水のバスには間に合わない。1時間半の道路歩きは覚悟したが、途中で山スキーのおじさんが沢口バス停まで乗せてくれた。行きも帰りも幸運だ。でも良いことが重なるといふことは、そのうちしっぺ返しもあるんじゃないかと思ってしまう。

1109 渋谷/FCT：宮下公園クライミングウォール

【期日】2011. 5.21 【参加者】山野、松本

渋谷の宮下公園が4月30日にリニューアルオープンしナイキが指定管理者になりました。色々批判はあったようですが、その中にクライミングウォールが出来ました。7.5mのロープクライミングと4mのボルダリングです。まだあまり知られてないようです。

https://www.city.shibuya.tokyo.jp/est/park_miyashita.html

ロープクライミングは審査があるようですが経験者はその場で行ってくれます。2人以上で行く必要があります。ボルダリングはいつでも出来ます。どちらも2時間350円。シューズやロープの貸し出しもあります。シューズ200円。(山野)

山野と松本さんとで行ってみました。取り合えずボルダリング2時間を行いました。10人まで場内に入れますが、今日の午前中は最大で10人でした。グレード8(簡単)からグレード2(難しい)まであり、8、7、6を主に登ってみました。5はやっと登れるか登れないかでした。2時間で健康疲れて後半は殆ど休んでいました。一度に2人か3人しか登れませんが皆さん休み休みでした。

2時間で350円、靴を借りたので200円で済みました。ロッカーとシャワーも使えます。ボルダリング終了後ロープクライミングの審査を受けましたが厳しく審査され2人とも失格でした。トップロープでカラビナにロープのかけ方や、ビレーヤーのビレーの仕方が安全でないとのことでした。登る人が低い位置のピンにロープをかけた時落ちた時に地面まで落ちる可能性があるとの事でした。低い姿勢で余り流れないように確保する必要があるようです。もう一度審査にチャレンジする予定です。日曜日と水曜日の2時間の講習会を受ければ良いようですが。

今回は、ボルダリングだけで、横の大きな壁はまったく登っていないので、しばらくいろいろ楽しめそうです。審査は、結構きびしく、普通の山のビレイとは少し違うのでポイントを整理します。

人口壁での一番の危険は、クライマーがフロアにぶつかることにあります。第一、第二ビレイをとったあたりの低い位置のときに、いかにザイルを出さずに止めようとしているかの意識が問われます。

- ①確保位置は、ビレイに近づくこと。できれば真下が望ましい。これは体が引っ張られてその分、ザイルが出てしまうことを防ぎます。
- ②ザイルをたるませない。
- ③確保側のザイルを常に確保器に対して角度をつけて保持する。落ちた時にザイルが流れることを防ぎます。

ランニングビレーのような考え方はまったく不要です。またセルフビレーもありません。ポイントがわかれば、合格はそれほど難しくないと思います。私はあと、逆クリップを一回指摘されました。壁は登っている人はまだあまりおらず、いつでも登れるようなので、今度ぜひ行きましょう。

今のところそんなに混雑してなく気楽に楽しめるようです。土日の午後や平日の夕方のボルダリングは混むかも知れないとの事でした。ロープクライミングはまだライセンスを持っている人が少なくいつも空いているようです。今日の午前中は誰も登っていませんでした。(松本)



1108 上越/ST：清水～巻機山

【期日】2011. 5. 21 【参加者】尾崎

清水バス停 7:30～桜坂～避難小屋～巻機山 12:30～清水～15:40 沢口

ゴールデンウィークの井戸尾根で、山スキーの楽しそうな人たちを見て、どうしても山スキーに行きたい。だが連休後半からは週末の悪天候のサイクルが続き、先週は見送った。今週はどうなるか？

麓から見上げる山肌は、もはやスキーというには望みはない。大半は担ぎ上げ担ぎ下ろしを覚悟である。2週間前は登山口まで雪があったのに。井戸の壁よりも上部でようやくシール登高が出来るようになった。一方沢筋は、たとえば米子沢なんかでも、ブリッジの崩壊部分が大きくなってはいるものの、あまり変化はないようだ。雪の状態をチェックしながら登っていくが、GWに通っているのでシュルンドの位置などほとんど勝手はわかっている。心配した天気も上々で、吹き上げの風が気持ちよい。

12時半前に頂上、すぐに滑降を開始する。小屋の手前から米子沢源頭へ滑り込むが、すぐに滑らなくなって中止。最後の二俣あたりから、スキーをザックで引きずって、ニセ巻機へ直登する。井戸尾根最上部を再び滑る。視界が良いので地形を確認すると、なるほどこの辺りはガスとひとつ左の尾根は入りやすいのが良くわかる。その下部で雪が途切れていったんスキーを脱ぐ。再び急斜面を滑降する。すぐに井戸の壁の上に来てしまう。もう少し続く雪に未練がましく滑ろうとするが、木立と洗濯板状態で自分にはまったく歯が立たない。最後には木に激突しそうになって穴に落ち、これは無理とあきらめた。例によって沢口まで歩く。スケールは小さかったが、計画達成で満足した。

1110 丹沢：西丹沢～石棚山稜～檜洞丸

【期日】2011. 6. 3 【参加者】橋本

東日本大震災は、思ってもみない範囲の人々へ甚大かつ過酷な影響を及ぼしており、心痛みます。殊に福島原発のもたらす放射能汚染の影響ははかり知れません。幾度か、山登りを自粛しようと考えましたが、自身の元気を取り戻すため、再開いたしました。

6月3日、丹沢檜洞丸(1601m)へ、友人たちとシロヤシオを見に行く。西丹沢県民の森 9:14 発、石棚山稜線着 11:20、期待通りの素晴らしいシロヤシオのプロムナード。ミツバツツジも咲いている。13:19 檜洞丸着、ツツジ尾根分岐 13:53、15:50 ゴーラ沢出合い着、東沢の水量が多く、渡渉に時間がかかる。16:35 西丹沢着。

1111 北アルプス/ST：猿倉～白馬岳～大雪渓

【期日】2011. 6. 4 【参加者】尾崎

猿倉 8:30～9:20 白馬尻～13:22 白馬頂上山荘～13:50 白馬岳～14:40 白馬尻～17 時ごろ八方

週末の悪天サイクルは、ついに脱出のようである。確かに巻機スキーは満足したが、明日の予報はばっちりであり、今年は残雪も多めの推移。思わぬチャンスが最後の最後にやってきた。白馬の雪渓は何度も滑ったことがあるだけに、落石さえ注意すれば安心感はあるといってよい。難しい技術は不要なのに、その風景やスケールはさすが北アの三大雪渓であり、何度滑っても良いところだと思っている。

ところが、猿倉までのバス便が、この時期あったはずが無くなっている。帰りは歩けば問題なく、レンタカーも高くしてメリットが感じられないので、行きはタクシーに乗ってしまう。自分は境問題を考えると、あまり車に頼りたくない。

8時半猿倉、9時20分白馬尻。雪渓が一望でき、今日は山スキーの入山者で賑わっている。シール登高と急斜面のツボ足で村営山荘直下まで来る。そこで3mほどスキーを脱ぐが、再び稜線までシールで登る。空身で白馬岳を往復し、白馬山荘のトイレに行って14時10分。滑降開始14時20分くらい。滑りはどんどん行ってしまう。15分ちょっと白馬尻もすぐそこに見え、20分ほどで雪の末端に到着してしまった。もったいない速さだが、スピードもスキーの楽しみの一つである。ここから猿倉まで1時間弱、さらに八方まで約2時間。誰か乗せてくれるかなと考えてしまう。八方の交差点手前で、車に乗せていただく。

結局、アプローチに8時間強、滑りは20分くらい。この時間差はまったく何だ！といたくなくったりもする。それもまた山スキーの醍醐味だろうか。



1112 那須：茶臼岳、朝日岳、三本槍

【期日】2011.6.4(土)～6.5(日) 【参加者】小川、松本、他3名

6/4 7:00 新宿発 10:32 峠の茶屋駐車場 11:45 峰の茶屋 13:30 茶臼岳 14:20 峰の茶屋
16:10 三斗小屋

視覚障害の方と山に登る六つ星山の会の個人山行で、小川さんが那須に行くという。前から話には聞いていたが、目の不自由な方がどのように山に登るのか興味があり参加することにした。

森谷さんは弱視で明るさの違い程度はわかるとのこと。同行したのは、六つ星の梅田さんと妹さんの高尾さん。高尾さんは、8月に24時間テレビの中で全盲の立木早絵さん(去年はトライアスロンに挑戦したらしい)がキリマンジャロに登るイベントのサポート役として参加するとのこと。小川さんも森谷さんもキリマンジャロ登頂の経験がある。

7時に新宿西口に集合して、小川さんの車で東北道に向かう。久しぶりの晴天の週末のせい、所々で渋滞がある。那須インターをおりてからも、つつじ見学の車などで渋滞があり、峠の茶屋駐車場についたのは、10時半を過ぎていた。駐車場はいっぱいだったが、隙間に一台分のスペースを見つけ、登りだす。

峠の茶屋でチーズフォンデュとしゃべり込む。ワインも出てきてすっかりいい気分で、茶臼岳往復。今日は天気がいいので、ハイカーがたくさん登っている。茶屋からゆっくり三斗小屋に向かい、到着は4時過ぎになってしまい、すぐに4時半からの夕食になった。露天風呂にもゆっくりとつかり、楽しい宴となった。

6/5 7:05 発 10:30 三本槍 12:55 朝日岳の肩 14:25 峰の茶屋 15:00 駐車場

翌日も朝は天気がよい。ゆっくりと三本槍に向かう。森谷さんは山にはかなり慣れておられ、普通の人のコースタイムの1.5倍程度で進むことができる。前の人ザックに手をかけて、その動きから足の位置を知って進むとのこと。試しに目をつぶって前の人に合わせてしばらく歩いてみたが、足元が怖くてなかなか前に足を出すことができない。

朝日岳からの下りは、切れていると所々雪渓のトラバースもあり、念のため、森谷さんの腰にシュリングを着けて万が一に備えるが、全く問題なく、降りることができた。天候も午後は崩れ、一時は激しい雨が降ってきたが、のんびりと下り駐車場に3時着。もうすでに他の車はほとんどなくなっていた。そのあと、湯本の8つの湯船で有名な鹿の湯(なんと46℃の湯船がある!)につかり、高尾さんの知り合いのおられる麓のビール園で簡単な食事をした後、帰京した。

1113 奥多摩：丹波～飛龍山

【期日】2011. 6. 8 (水) 【参加者】橋本

昨秋は前飛龍で引き返した。朝小雨 14℃無風。丹波山道の駅 P6:20 出発。サオラ峠までは標高差約 800m の急登である。ミズナラ、ハウチワカエデ、クヌギなどの新緑の中にヤマツツジが咲いている。7:58 サオラ峠着。熊倉山への登りではミツバツツジが美しい。熊倉山 8:36 着、前飛龍 9:29 着。ミツバツツジに加えて、急にアズマシャクナゲが群生して延々と飛龍山まで続く。イワカガミの開花あり。飛龍権現まで継続してアップダウンが続く。飛龍権現着 10:10、ここは雲取、笠取方面への十字路で、飛龍山へはここから直進、急登である。10:28 飛龍山着 (2069m)、山頂は朽ちかけた棒が立つのみで眺望はきかない、なだらかな広場である。マメザクラが 3 分咲きである。写真を取りすぐ下山開始。薄日がさしてきた。コース両側のアズマシャクナゲのトンネルは絶品である。これだけの規模は他に類例を見ない。前飛龍 11:09、熊倉山を過ぎたところで、コースの真ん中で飢餓のためかコジカがうずくまって身動きできないでいた。サオラ峠 12:07 着、丹波 13:11 着。登り 4 ピッチ 4 時間 08 分、降り 1 ピッチ 2 時間 43 分、所要 6 時間 51 分。

1114 奥秩父：大弛峠～北奥千丈岳・金峰山

【期日】2011. 6. 15 【参加者】橋本

このところ体調不十分である。年齢かも。朝のオオダルミは気温 7℃、曇り、微風で肌寒い。オオダルミ 6:51 発、バイカオウレンの白い 5 弁花が美しい。アズマシャクナゲはまだ新芽。7:22 北奥千丈岳着、ガスで視界なし。国師岳 7:32、オオダルミ 7:56 着。本日は平日だが入山者が多い。8:19 朝日岳、9:28 金峰山着。金峰山周辺の稜線ではシロバナのシャクナゲが美しい。10:19 朝日岳、11:01 オオダルミ着。オオダルミではマメザクラが開花。所要 4 時間 10 分。

1115 奥多摩/WC : 巳ノ戸谷～峰谷

【期日】2011. 6. 25 【参加者】尾崎, 島田, 中山, 保延, 杉坂

稜線にでたのが5時半ごろで下山連絡も遅くなりました。連絡先を上野先輩お忙しい中ありがとうございました。

今回は忌山の悪場ゴルジュ等ではめぼしい滝はすべて直登しました。5人パーティであることもありザイルを度々だしていると時間はかかりましたがまあ安定していたと思います。スタンスホールドが見た目よりたくさんあり、倒木は多いが美しく結構充実するお勧めの沢でした。私は眠いのと運動不足とで詰め急斜面での余裕がなかったのが反省です。詰めでのルーファイがイマイチで、南側の窪からコルに詰めるはずが、西に進みすぎ避難小屋のあるコルより標高で50m程度高い西の稜線にでました。まあ誤差の範囲内ですが。

入渓して間もないころ中山君がぬめった倒木上で滑って頭（ヘルメットの縁あたり）を打ちましたが、めげずにしっかり登っていたので安心しました。下りのトップありがとうございます。保延君はWVの4年で頻繁に沢入りしているだけあって動作が安定していてこれも安心できました。尾崎先輩と杉坂さんには大変お世話になりました。どうもありがとうございました。また行きましょう。（島田）

60期の保延(ぬかのぶ)陽太です。現在、早大ワングル部に所属しておりまして4年になります。

この度は、巳ノ戸谷山行に同行させて頂きありがとうございました。巳ノ戸谷自体、個人的に興味のあった沢なので今回遡行できて嬉しく思います。尾崎さんにリードしていただいた忌山の悪場の核心部の滝での登攀は緊張しました。それも含め、午前中は気持ちのよい青空も見え、滝もいろいろな要素があって楽しい山行でありました。

普段の部の山行とは異なり、新鮮な気分でしたし、いろいろと勉強になることが多くありました。尾崎さん、島田さん、中山さん、杉坂さん、お世話になりました。もし、未熟者ですがまた機会があれば、その時は宜しくお願い致します。（保延）

1118 奥秩父：西沢渓谷入口～甲武信ヶ岳

【期日】2011. 7. 6 【参加者】橋本

早朝の西沢Pは閑散。17℃、曇り、無風。6:19 発。浅緑のカラマツ林の急登が続き、近丸新道分岐 8:05 着、体が重い年齢のためか。サラサドウダンの花弁がルート上に多量に落ちている。9:28 稜線に出る。木賊山の急下降はシカの踏み跡を利用。シカは見事なルートファインディングする。木賊山ではキバナノコマノツメが満開。甲武信ヶ岳 10:02 着 (2475m)、一瞬ガスが晴れ、三宝山が望まれた。山頂付近のナナカマドは蕾。軽食をとりすぐ下山開始。10:36 木賊山、11:33 近丸新道分岐、12:48 西沢P 帰着。登り 3 P3 時間 43 分、降り 2 P2 時間 46 分、所要 6 時間 29 分。

1120/1123 富士山：須走口・吉田口

【期日】2011. 7. 8 および 25 【参加者】橋本、他

7月8日(金)、中高年友人数人と日帰りで可能な範囲で須走口新5合目から登る。7合目太陽館まで登りひき返す。バッコヤナギは開花中、フジハタザオ、ベニバナイチヤクソウも美しかった。

7月25日(月)、単独で吉田口から登る。馬返しからのルートは広葉落葉樹林帯が美しい。馬返し 7:25 発、1合目 7:35、3合目 7:56 着、コウチワカエデとシモツケが開花中。4合目は茶屋はなくなっている。修験者たちが法螺を高らかに鳴らしている。5合目 8:52、林道をぬけ佐藤小屋 9:05 着、ガスが発生し暑さが緩和される。ハクサンシャクナゲの花が残っている。6合目付近は登山者多数でウンザリ。ガスは晴れないが絶好の登山日和。8合目太子館 11:00 着。軽食をとり下山開始。6合目 11:57、3合目 12:42 着。3合目付近では花色が異なる2種のオダマキあり。このコースは盛夏でも入山者は少ないが根強い人気コースのようである。13:10 馬返し帰着。予期に反して馬返しで冷たい麦茶が無料サービス。近くで花が終わっていたがクモキリソウの小群落を発見。

1125 北アルプス：上高地～蝶ヶ岳

【期日】2011. 8. 3 【参加者】橋本

今年は、甚大な東日本大震災と夏場の台風被害があり、あらためて日本の国土はいつ何時、自然災害に遭遇するかも知れないという状況にあることが痛感される。

ほぼ半世紀ぶりに上高地に入る。 徳澤 5:00 出発、横尾 6:02 着、槍見台 6:40 着（昼食）。視界が悪く急登が続く。 2625m 地点の稜線 9:31 着。10:02 蝶ヶ岳ヒュッテ着。暖かいココアを注文する。10:38 蝶ヶ岳着。ガスがかかっているので、引き続き長堀尾根を下山開始。妖精の池近くで昼食。 蝶ヶ岳から長堀山に至る急な下降ルートは素晴らしいお花畑の連続である。ハクサンフウロ、シナノキンバイ、クルマユリが開花し、ナナカマドも多い。 12:01 長堀山（2565m）付近からの下降ルートはクマザサにシラビソ、コメツガ林が続く。 14:39 徳澤帰着。途中、明神への眺望はガスにさえぎられた。 所要 9 時間 39 分。

1126 インドヒマラヤ：ストックカンリ

【期日】2011年8月6日～11日 【参加者】小川ほか6名

インド・カシミール地方にあるストックカンリ峰(6,153m)の最大の魅力は、ヒマラヤやアンデスの人気の6,000m峰に比べ短い日数で登れる点です。登山核心部の日程は

第1日 レー(インド西北部の中心地。海拔3,500m)から車でストック村へ。ストック村(登山開始地点。3,600m) → C1(4,300m)

第2日 C1にて高度順応

第3日 C1(4,300m) → C2(5,000m)

第4日 C2にて高度順応

第5日 C2(5,000m)よりストックカンリ山頂(6,153m) 往復

第6日 C2(5,000m) → スtock村(3,600m)

です。紙面の関係で上記第5日目の頂上アタックの記録を中心に書きます。

第5日 C2(5,000m) → スtockカンリ山頂(6,153m) → C2(5,000m)

8月9日深夜、短い睡眠のあと23時に起床、おかゆで腹こしらえをする。ここまで順調に高度順化してきたので、体調は万全。満点の星空、天候も我々の登頂日を待っていたかのように好転した。23時50分発、まずは明瞭な登山道を歩き尾根を2本越えストック氷河のモレーンへ向かう。深夜で冷え切っているのであちこちに氷が張り、足元には注意だ。5,300m地点あたりから本格的な氷河となり、アイゼンをつける。アイゼンをつけての雪の斜面の直登は自分好みの歩幅がとれるので歩きやすく、快調に高度を稼ぐ。といっても高度5,500m、必死の呼吸が続く。気温は次第に低下し、キルティングの上にゴアテックスのウインドブレーカーを着る。

夜明けが近づいたころ雪の斜面が終わり、ひと休み。寒い。テルモスの紅茶と持ってきたカーボショットを胃に流し込む。目指す南稜までザレ場に行く。石はどれも不安定で足元を見ながらの一步一步は結構しんどかった。眠気も多少感じ、ここが踏ん張りどころだ。

午前6時、すっかり明るくなった南稜のコルに到着。頂上まで高度差にして200m位だろうか。体はかなりバテ気味だが、「ここまで来たら、やるっきゃない」と気持ちは高ぶる。

本来南稜は雪と岩とのミックス状態で、アイゼンをつけての慎重な登行となると聞いていたが、幸い雪は全く消え、アイゼン着用の必要なし。数日前は腐った雪で悩まされた話を外国人パーティから聞いていただけに、幸運を喜ぶ。西側はスッパッと切れ落ちているため、ミックス状態だったらザイルを必要とするが、確保場所もままならずかえって不安を増したであろう。なるべく稜線に沿って岩の斜面を登る。

コルを最後尾で出発したが、いつの間にかトップを歩くことになる。私も何度も立ち止まった

が、以前のウフルピークへの道や、アンデスの 6,000mでの歩きにくらべたら余裕がでた感じがする。コルから登ること約 2 時間、目の前には風にたなびくチベット仏教の 5 色の旗タルチョに「頂上まであとひとふんばりだな」と気合を入れたとき、前に行くガイドが「ここが頂上だよ」。やや拍子抜けして雪に蔽われた 6,153mの山頂に立つ。後続部隊が遅れていることもあり、頂上を一人占めし、ピッケル片手にポーズを作り、ガイドに写真を撮ってもらう。頂上からはインドヒマラヤ、カラコルム、地元ザンスカール山塊の山々が見渡せた。晴れていれば K2 やカエラス山が見えるとのことだったが、あいにく遠くには雲がわき始めており、確認出来なかった。やがて全員あいついで登頂、喜びを分かち合う。しばらくすると別パーティが到着したこともあり、下山開始。下を見るとかなり切れ落ちた斜面だが、高度障害で脳が弱ってきたのか、それほど恐怖感はわかなかった。暑さを感じ始める頃に南稜のコルに戻った。

この頃からメンバーに異変が生じ始める。登頂はしたものの、意外にも下山とともに高度障害が顕著になったようだ。結局我々 3 名と調子を悪くした 4 名の 2 グループに分かれて下山することになった。我々の下山はのんきなものだった。頂上を幾度も見返しながら猛暑のテントにもどったのは 13 時半でした。

体調を悪くした 4 名は頭痛、嘔吐、めまいなど典型的な高山病の症状を呈したようでした。なかには同行したサポーターに一時負ぶわれた人もいたとのこと。登頂さえ出来れば問題なし、というわけではないことを改めて知りました。幸い天気も崩れることなく、暗くまる前には全員無事に下山し、思い出多い登頂を語り合いました。



レーの町から見たストックカンリ峰

以上が登頂日のあらましです。帰路は、予定していたレーへの迎えの飛行機が悪天候のため来れず、結果的にインドで 3 日間の延泊を余儀なくされました。でもこの”不運”のため、予定外のタージマハール観光が出来る幸運にめぐり合いました。

1127 トルコ：アララト山

【期日】2011. 8. 7~11 【参加者】岡田、他1

先月は、半年以上前から計画していた掲題の旅行に出かけ、無事登頂にも成功しました。同行者には以前西朋祭にもゲスト参加したことがある片平さんが加わってくれて、楽しい旅行ができました。詳しい報告はいずれ私のホームページにまとめたいと思います。ここでは概要を紹介させていただきます。

インスタンブール観光1 (8/5-6)

昨年のピレネーの時と同じロンドン経由でイスタンブール着は23時過ぎ、ホテルシャトルを頼むことができ、深夜旧市街のホテルでひとあし先に到着していた片平さんと合流。まだ近所に開いているバーレストランがあったので、到着祝いに生ビールで乾杯。

次の日は旧市街のアヤソフィア博物館やトプカプ宮殿を見学。長年の栄華を物語る広大な空間、広い敷地、多数の建造物を見て回る。午後はガラタ橋からグランドバザールにかけて歩いて回る。人ごみと暑さで疲れ気味、しかしからっとした風が吹いて汗だくになることは無い。夕方ボスポラス海峡を渡ってアジア側のレストランに入る。こちらへ来たらケバブではなく魚料理である。私はトルコの地酒ラクも試してみるが、このかなり強いクセは好きにはなれないだろう。

アララト山(5137m)登山(8/7-8/11)

国内線でトルコ東部ワン湖のほとりのワン空港へ。ここで Ararat Sunrise のトルコ人ガイド、サフェットが迎えに来てくれた。登山には入山許可申請とツアーへの参加が義務付けられている。ネットで調査して、値段が安く旅行代理店のような堅苦しさが無い感じなので選んだが、日本人の客は初めてということ。

ベースとなるドウバヤズットの町まで3時間、途中4000m級のスファン山も望め、町が近付くと山頂に雲がかかっているアララト山が姿を現す。

翌日から4日間の登頂プラン、ロシア人3人とチェコの学生3人と一緒にツアーだった。初日はベースキャンプ(3300m)までのトレッキング。荷物は馬で運ぶので我々は大名登山である。移動テントで遊牧生活している村々に立ち寄ってチャイやヨーグルト、パンなどをご御馳走になる。登山のコック・ガイド・馬による運搬などもこれらの村人が行っているのだった。広いベースキャンプエリアのあちこちに多数のテントが貼られて入山者が多いことがわかる。

2日目は高度順化のため同じベースキャンプに滞在、アタックキャンプ(4100m)を往復。霧が出たり晴れ間が出たりで、山頂は見え隠れする天候。アタックキャンプまで馬での荷物運搬が可能、狭いエリアにテントや馬や人がひしめいて混雑し、これではここに2泊することはままならない

模様。アタック日に備えて体調を整える休養日だった。



3日目はアタックキャンプへ移動、深夜出発に備えて早く寝るが、高度の影響で眠りは浅い。最終日、12時起床、1時過ぎに出発。先頭の出発であったが太ったロシア人が不調のためペースは遅く片平さんも遅れ気味。途中で後発のパーティーに追い抜かれた。山頂で Sunrise というわけにはいかなかった。影富士ならぬ影アララットを見る。天気は快晴であるが風が強くて寒いので持っている防寒具は全部着た。標高 4900m 付近からはアイゼンを付けて雪面を歩く。山頂を目の前にすると皆ペースも上がり、7時過ぎに山頂着、20人ほどの先着者でにぎわっていた。隣の小アララットを始め周囲の展望はばっちり。風が強くて寒かった。



この日のうちに一気に下山。高度と疲労の影響で下りもゆっくりペース。アタックキャンプでは昼寝タイムがあり、村々で顔見知りにはサフェットが油を売っていくこともあって、迎えのバスのところに下り着いたのはすっかり暗くなった夜8時過ぎであった。

カッパドキア観光(8/12-8/14)

ドウバヤズットの町に別れを告げ、車で1時間ほどのアグリ空港から国内線でトルコの首都アンカラへ。市中心へ向かうバスでオトガル（バスターミナル）へ。カッパドキアのホテルを予約したギョレメまでバスで5時間近くもかかるのだが、バス大国トルコの長距離バスはサービスも良く、一度は乗ってみるのも悪くない。

ホテルはここでは上等の部類に入る丘の上の眺めが良いスイートの3人部屋、でも2人で泊まれば値段はそれほど高くも無い。キノコ岩・妖精の煙突が林立する景観を眺めながらテラスでの朝食は贅沢だ。1日目はバスツアーに参加して、ウフララ溪谷ハイキング、デリンクユの地下都市、展望台からの絶景などを楽しむ。2日目は早朝4時半起きで人気の気球飛行に参加。快晴で絶好の飛行日和に恵まれ、複雑な谷が何本も入りくんだ地形やエルジェス山(3916m)などの絶景を堪能。パイロットの腕にも感心、前後左右に沢山の気球が浮かんで風景が一変する。その後夕方まで、洞窟教会の壁画が見られる野外博物館と、サンセットバレーからパシャバーのキノコ岩まで平坦な農道のような道をハイキング。タクシーとバスで先の景観も見に行きたかったが、片平さんは飛行機の時間もあるので同じ道を歩いて戻るといので、ほぼ同じ道を歩いて戻った。岩場という岩場には昔の人の手による洞窟や穴が掘られており、自分の足でじっくり歩いて肌で触れるのが一番と思うが、エリアは広大で岩場の険しい箇所もあり、それには一週間あっても足りないだろう。

イスタンブール観光2(8/15-16)

国内線でカイセリ空港から夜遅くイスタンブールへ戻る。最後の1日、はじめはイスタンブールの新市街を主に見てまわろうと思った。月曜日は博物館など休みが多くて思ったようにあちこち見て回ることができず、レトロ市電が走るイスティクラール通りの繁華街を散策し、ガラタ塔からボスポラス海峡と金角湾で分割された市街地を一望できたのが良かった。

片平さんはひと足先に帰り、残りの時間は旧市街へ戻り、ブルーモスクと地下宮殿を見てから、サバサンドとバクラフを食べたり、買い物などで過ごした。翌朝の便で、再びロンドン経由で無事予定通り帰国。

1128 北アルプス：田ノ原～木曾御嶽山

【期日】2011. 8.10 【参加者】橋本

早朝に家を出、登山口の田ノ原に11:00少し前に到着。天気曇り、ほとんど無風。出発時刻は遅いが11:08登山開始。金剛童子11:45着。ここから幾分急登が始まるが、前を歩いている若者のパーティを追い越した際に軽く転倒、このとき、左足首の下が岩溝にはまりこみ、足首を保護しようとして左膝をひねってしまい、激痛が走った。しばらく休息したら痛みも取れてきたので、歩行開始。王滝(2936m)12:48着、13:10剣ヶ峰着、ガスが晴れ、山頂神社の裏手にまわると、御嶽山の噴火口の全貌が望め、青色の二ノ池が美しい。軽食をとり下山開始。14:33田ノ原帰着。オンタデとゴゼンタチバナが開花中。所要4時間25分。

1129 中央アルプス：須原～福島Bコース～木曾駒ヶ岳

【期日】2011. 8.11 【参加者】橋本

本日古希を迎える。高校生の時には、この歳まで山に登っていることなど想像もしていなかった。須原の宿で朝起きると、昨日ひねった左膝が痛み、本日の歩行が危ぶまれる。歩いてみよう。木曾駒高原をぬけ、福島Bコースの登山口に向かう。伊那側とは違い、木曾側からのこのコースは長大で標高差もありかなりの体力を要す。ヒルトップP7:52出発。林道終点8:27着、幸ノ川を渡り約100mの急登で4合目、さらに100mの登りで4合目半の力水である(9:05着)。今年は水が少ない。カニコウモリが多い。5合目9:33、6合目9:56、急登の連続である。6合目から少しの登りで露岩帯が続く、やや傾斜が緩やかになり見晴台を過ぎると7合目避難小屋である(10:31着)。ここからは傾斜が緩やかになり、アップダウンを繰り返し、山姥岩などの露岩帯を通過し11:388合目水場に到着。付近は高山植物が多い。膝の痛みは消えている。ここで水を補給、昨年より水量が少ない。ここから、木曾駒の北西にのびる大カールに登るが、毎年多数の高山植物が咲き乱れる。多数写真におさめる。ヨツバシオガマ、シナノキンバイ、ハクサンフウロ、カニコウモリ、クルマユリ、ゴゼンタチバナ、イワギキョウ……。ダケカンバとナナカマドの樹林帯をぬけて最後の急坂を登りきると稜線で9合目玉ノ窪山荘である(12:15着)。木曾駒ヶ岳12:42着、付近にはコマクサが咲いているが、毎年株数が増えているようである。山頂はガス、軽食をとりすぐに下山開始、玉ノ窪山荘13:12、8合目13:48、7合目14:37、6合目15:00、6合目辺りから雷雨、急下降のルートは雨で滑りやすく、歩行に難儀する。5合目15:14、力水15:28、4合目15:42、林道終点15:51、左膝痛み始める。ヒルトップP16:18帰着。登り4P4時間50分、降り2P3時間36分、所要8時間26分。

1130 上越：清津川本流～白砂山～獵師ノ沢～黒渋沢

【期日】2011年8月11日～14日 【参加者】上野、尾崎

ここ数年、合宿形式の山行は（その他山行もそうだが・・・）人数が少なく、実施が危ぶまれる状況であったが、なんとか2名の都合が付き、比較的小おやかな夏の沢の遡下降ということで、清津川から上信の奥に鎮座する白砂山に登り、西面の白砂川を下降するプランとした。

8/11(木)

元橋バス停 9:10-林道ゲート 10:50-鷹ノ巣峠 12:05-赤湯 13:00-セバト沢手前 14:25 (幕)

朝一の新幹線で越後湯沢に行き、路線バスで元橋まで入る。高曇りで雨の心配はなさそうだ。バス停から大汗をかいて浅貝川との境の小尾根を乗越し、サッカー部合宿の横を通り過ぎ、赤湯への林道をひたすら歩く。丁度昼過ぎに赤湯に着き、ここで泊として温泉に浸かる誘惑を振り払って前進する。高曇りで雨も降ってきそうな感じでもあったがなんとか持ちこたえている。本流の流れは滔々としており、右へ左へと渡渉して進んでいく。14時半頃に右岸に丁度いい幕場があったので、ここで泊とする。セバト沢出合手前の1050m地点付近。夜は恒例の焚火で調理を行った。

8/12(金)

発 6:10-西ノ沢出合 8:05-自然湖 10:40-左俣出合 12:55-1600m地点 14:10 (幕)

今日も高曇りだが予報ではなんとか天気は持ちそうだ。渡渉の繰り返しで順調に前進していく。西ノ沢、カンバノ沢出合を過ぎて、沢筋が荒れたような様相になってくる。赤土居沢の一つ先の左岸から流入する枝沢を過ぎて、流木が積上げられたような2m程の高みを登ると、何と先が巨大な湖となっていた。自然湖である。一昨年の朝日の夏合宿でも自然湖に遭遇し、その時は長々と右岸をへつり気味に巻いて最後の10数m泳いで通過したが、今回はさほど距離もなく（50mくらいか?）、尾崎君が先陣切って突破を試みてくれた。首～胸まで浸かって自然湖の直径ルートを通り、泳ぎとも歩きともつかないような歩みで突破した。こんな所で自然湖に出くわすとは思っても見なかった。東ノ沢を過ぎて、今度は遙か前方の沢の



流れの真ん中に黒い塊が動いている物体が見えた。カモシカだ。こちらを凝視しており近づいていっても微動だにしない。逆にこっちに向かって突進してくるのではと怖くなりかけた途端、すばやい動きで左岸の急斜面を駆け上がっていった。左俣を過ぎ、時間的にはまだ早い、この先源流となっていくので、いい幕場を探しながら遡上していく。1600m 地点の二股の左岸になんとか幕を張れるように整地して、今日も焚火で疲れを癒した。

8/13(土)

発 7:05—最奥の二股 8:05—稜線 9:24—白砂山 10:40～11:20—猟師の沢 1760m 地点 12:15—白砂川本流 15:00—1150m 地点 15:30 (幕)

天気は上々。今日は白砂山越えで気合が入る。流れも小さくなってきて、枝沢を右、左、右と分けて、最後は白砂山の東に派生する稜線 2080m 付近に出た。そこから山頂までは指呼の距離だが、道はなく背の低い藪漕ぎで1時間ほどで山頂に到着した。少しモヤがかかっているが、360度の展望が見渡せる。程なくして、登山道を女性数名が登ってきた。まさに山ガールのいでたちで、下半身泥まみれ、ヘルメットと汗で髪の毛ペたんこの我々とは当然のことながら挨拶もなく、我々はそそくさと山頂を後にしたのでした…。山頂から数10m下った所から左側の猟師の沢の枝沢めがけて急斜面を藪をかき分けて降りていく。1時間後によく猟師の沢の本流沢筋にでることができた。ここは右岸から大規模な土砂が沢筋を覆っている所だ。猟師の沢も大きな滝はなく、順調に下っていける。途中、1550m 付近の左岸で、大きな動物と思われる物体を見た。熊?カモシカ?…。15時によく白砂川本流と合わせ、その先の右岸台地にうってつけの幕場があり、ここで泊とした。幕を張っているところでポツポツ雨が降り出したが、それもほどなくして止んで、3日間すべて焚火を敢行することができた。満足満足…



このような滝もあります…



白砂山頂



3泊目の幕場

8/14(日)

発 6:00—林道末端 7:00—黒渋沢 1670m 地点 10:25—八間山 12:00～13:10—野反峠 14:00

最終日、このまま白砂川を下降して林道歩きで野反湖にも行けるが、その林道が極端に遠回りしており、右岸の沢を遡行して八間山に突き上げて登山道を野反湖へ降りる方が早いとの予測から、黒渋沢を遡行して八間山に突き上げるプランとした。白砂川本流の過去の記録では下降の途中で喉と呼ばれる所があり、流れが極端に細くなっている際どいへつりで通過する箇所があるとのことだったが、それとおぼしきところを何ということもなく通過できた。1時間ほどで広い土場になっている林道終点に着いた。このまま林道を下って行きたいが、この林道は大きく迂回しており数時間の林道歩きを強いられるのは確実である。疲れた体に鞭打って、黒渋沢出合まで5分ほど上流に戻る。黒渋沢に入ると、本流に比べ水流が急に少なくなり、日光が透明な流れに反射して、キラキラ輝いている。適度な滝をいくつか越えて、15mの大滝を右側から越える。その後も数mの小滝を越えて源頭に至る。詰めは背丈ほどの藪を20分程漕いで八間山北西の登山道に出た。そこから数分で山頂。北側に見える野反湖が眩しい。山頂は入れ替わり立ち替わり湖畔の駐車場からのハイカーが沢山登ってきていた。一息入れた後に、野反峠の駐車場に向かって駆け下った。折りしも、下降中に雨が降り出し、峠の茶屋に着いた時には土砂降りになっていた。バスの時間までの小1時間ほど茶屋で雨宿りをして、途中の道の駅で温泉に入って帰途についた。帰路の吾妻線は雷雨と落雷であり、その後運休を余儀なくされたようであったが、我々の乗った列車は間一髪で高崎まで行くことができ、無事に東京までたどり着けた。

山深く感じる沢ではなかったが、自然湖に遭遇するというインパクトがあり、ゆっくりとした流れの中で自然浴を感じながらリフレッシュできる沢旅でした。ザイルの出番もなく、危険な箇所などもないので、お勧めです！ 清津川も白砂川も魚影を見ることはなく、清津川は特に上流部は川床が赤茶けて、両岸から金属鉍物のような成分が流入している箇所があり、その影響で魚は生息していないのではないかと思います。(上野)

1131 北アルプス：一ノ沢～常念岳

【期日】2011年8月14日【参加者】玉田

8/14（日）、一ノ沢から往復で常念岳へ行ってきました。

一ノ沢→常念乗越（常念小屋）：

胸突八丁までは沢沿いに気持ち良くぐんぐん歩く。胸突八丁から段差のある階段がしばし続いて脚が疲れる。最後の水場の水がおいしくてゴクゴク。稜線まで地道に登り、乗越に出た途端、目の前の槍～キレットの景色に思わず（歳を忘れて・・・）叫ぶ・・・。ここまでは思いのほか余裕。

常念乗越→山頂：

きつかったです・・・途中で休んでしまいました。山頂では、雲も多かったけれど、槍穂を眼前に至福の時を過ごしました。

山頂→常念乗越：

常念小屋に泊まって帰るつもりでいたけれど、計画より早く歩いてしまったので、このまま止まらずに下りちゃおうかなあ・・・と悩みながらひたすら下る。常念小屋でソフトクリームを買って、槍を眺めながら食べる。たまたまに幸せなひと時★ 乗越から3時間もあれば一ノ沢へ下りられるようなので、天気もくずれそうになし、帰ることにする。

常念乗越→一ノ沢：

下る、下る、下る。後半はだらだらと下り、横尾から上高地への道を思い出しました。最後は惰性で脚を動かさず感じで、温泉への思いだけで足を運んでました。温泉は安曇野の公共の施設「ほりで一ゆー四季」というところに入り、帰ってきました。さすがに日帰りはハードでとても久しぶりに筋肉痛（？）になりました。

1135 南アルプス：青木鉱泉～鳳凰三山

【期日】2011. 8. 29 【参加者】橋本

青木鉱泉 7:17 発。ドンドコ沢ルートをとる。近くの堰堤付近工事のため、まき道に入る。南精進滝 8:30、鳳凰の滝 8:56 着。昨日までに大量の雨が降り、ドンドコ沢とその支流が増水している。ここから白糸の滝に向かう急坂で、明瞭な踏み跡をたどったが、結局ケモノ道に迷い込み復帰するのに難儀した。これまでの大量の雨でルート崩落があり、そのまき道がつけられていると勘違いしたのだ。白糸の滝下部 9:45、上部 10:11、五色の滝下部 10:20、上部 10:35、鳳凰小屋 11:11 着。小屋の周辺にはタカネビランジ、キタザワブシ、コゴメグサなどが満開である。水を補給、小休。サイの河原 12:01 着、ガスで地蔵岳は見え隠れ。タカネビランジ、コゴメグサが美しく、早くもナナカマドの実が赤みをつけていた。赤抜沢の頭には立ち寄らず、先を急ぐ。観音岳 (2840m) 13:18、稜線ではハウオウシャジン、タイツリオウギ、タカネビランジ、コゴメグサが咲き乱れていた。薬師岳 (2780m) 13:38。ここから中道を一気に標高差 1680m 降る。御座石 14:15、青木鉱泉 16:06 着。このコースは急下降の連続で眺望も悪くウナザリするが、途中標高 2000m 付近に展開する広大なササ原は見事で、さらに最近ではシラビソ林の伐採が進み、樹林帯がやや明るくなったところもある。所要 8 時間 49 分。

1137 南アルプス：黒戸尾根～甲斐駒ヶ岳

【期日】2011. 9. 22 【参加者】橋本

黒戸尾根の登山口の竹宇駒ヶ岳神社・白須 P で朝食。6:02 出発。笹の平分岐まで標高差 740m の急登が続く。付近はクマザサの原。分岐点 7:37 着。ここから 530m の八丁登りが続く。刃渡り 8:48 着。しばらくハシゴ、クサリ場があり刃利天狗 9:01 着。ガスが晴れてきた。黒戸山の北側の淡々としたまき道をたどり、下降が始まると 5 合目小屋跡 (9:45 着) である。引き続きクサリ、ハシゴが続き、七丈小屋 10:35 着。水を補給。甲斐駒ヶ岳 12:21 着。刃利天狗から標高差約 920m。8 合目御来迎場付近から短時間だが鳳凰 3 山と北岳が見えた。山頂で軽食をとり、写真をとってすぐに下山開始、8 合目付近のやや小さい広場で昼食、付近はナナカマドの赤い実。七丈小屋 13:52 着、水補給、5 合目小屋跡 14:34、ここから約 120m の登りはきつい。刃利天狗 15:06。刃渡りからは八ヶ岳、茅野・葦崎・甲府方面が一望でき素晴らしい。笹の平分岐 16:05、8 月にひねった左膝が痛み始める。出発点白須 P 17:15 帰着。登り 6 P 6 時間 11 分、降り 3 P 4 時間 54 分、所要 11 時間 05 分。後記：下山中の 5 合目小屋跡から、駒ヶ岳方向に向かって左前方に落差の大きな滝が遠望される。篠沢の最上部の滝と思われるが地図に記載がない。

1138 中央アルプス/WC：与田切川～奥念丈岳～空木岳

【期日】2011. 9. 23～25 【参加者】尾崎, 中山

9月23日：飯島 8:33=9:20 ゲート 9:40～10:30 中小小屋 11:35～12:30 1540m～14:45 1700m 15:00～15:55 1780m

1、2日目大快晴、3日目もわずかにガスの程度の非常に好天に恵まれました。紅葉には早かったですが、ばっちりの秋山でした。

10 数年前に訪れた中小小屋は、今は畳敷きの非常に快適な小屋になっており驚いた。眠いので30分ほど寝ていく。越百山登山道が本流を左岸に渡るところで入渓を予定したが、高低差がある上、与田切川は増水著しい。もう少し林道を行き、最初の屈曲点から左に分かれる砂防工事跡らしきところから支流へ降り、それを下って本流へ入る。増水しているので渡渉に苦勞する。しかしこの沢は、兩岸の地形が緩やかなので何とかなるはずである。

いったん右岸に渡ったところで古い赤マークを発見。歩きやすいところを行けば自動的に次のマークが見出され、右岸の支流を分けたところで左岸に渡ると、その後かなり明瞭な踏み跡に新しいピンクのマーキングが続いている。何度か川原に出るがこの道は基本的に一段上についている。水際の草の倒れ方からして、一昨日の台風の凄まじさが想像された。増水状態にこの道はありがたい。結局標高 1580m? 付近で道がなくなるまでたどる。この付近で単独の釣り師に会う。水量は通常の2倍ぐらいか? とのこと。この沢に釣り屋がどのくらい入っているかは不明だそうだ。

花崗岩の明るい川歩きになる。水量も減ってきて遡行はだいぶ楽になってきた。左岸から支沢を数本入れ、右岸に崩壊地を見る。その後左岸一段上に笹原がある。そこも候補地と思ったが、次の左岸が開けており、16時ごろ幕営地に決定。偶然にも焚き火跡があり釣り屋だろうか先行者もここで泊まっているようだ。台風通過後のため焚き火できるか不安だったが、木は比較的乾いており、夕朝ともにしっかり焚き火を楽しめた。

9月24日：発 6:12～7:30 2020m～9:15 与田切乗越付近 9:26～10:22 奥念丈岳 10:40～11:45 ガレ上 11:45～13:02 南越百山 13:25～14:33 仙涯嶺手前～16:28 南駒ヶ岳 16:35～17:25 摺鉢窪

谷の冷気は侮るなかれ。もう夏は終わっていた。こんな寒いのに出発かよと言いながら、6時に行動を開始。1時間ほどで2俣を左に入り、本流はS字を描く。ルートファインディング練習になる地形だ。源流の広場に達する。左に念丈岳、右奥に奥念丈岳から越百山に至る稜線に囲まれた平原は、笹原に白樺が明るく、真ん中を川原が横切り細い流れが続いている。笹藪に入り与田切乗越を目指す。明瞭な沢筋を追って登ったが、土混じりのルンゼになり鞍部よりも右へ出てしまう。奥念丈岳までかすかな踏み跡を追って笹をこぎ、10時半に登頂する。

今日もすこぶる快晴で、木曾の山々から北アルプスまではっきり見渡せ、そして逆光の南アルプスは重量感でいっぱいである。主稜線の踏み跡がもっとあって楽になるかと思いきや、確かに踏み跡はあるものの、むしろ越百山が大きく迫ってきて、ヤブ登高は時間を要する。

13時過ぎに南越百山に到着。まだ今日越えるべき仙涯嶺、南駒ヶ岳が大きい。以前の記憶をたどり、途中のスペースで幕営することも考える。尾崎は水筒から水漏れが生じており、その場合渴水が懸念されるが。。越百山本峰との間の伊那側に、冬に風をよけられそうなスペースを見る。

そこからの縦走路は基本的には順調であった。しかし仙涯嶺の登りはなかなかきつい。このあたりは冬山偵察も兼ねている。仙涯嶺ピークは木曾側を巻き、その北ピークで休憩。そこは、冬季の幕営は吹きさらし覚悟なら可能だろうと思われるがスペース有り。その下りは木曾側の草つきを巻く。見た目ほどの傾斜は無い。この辺りから見る南駒ヶ岳南面は、稜線伝いは急な岩稜となっている。コルから伊那側のトラバース状登高になり、東南に伸びる枝尾根より南駒南峰に至る。仙涯嶺からここまでは、冬季も夏道沿いが良いと思われ、仙涯嶺北側は大きな問題は無さそうである。一方、南駒の南側は、伊那側のトラバースで多量に雪がある場合、状況が懸念される。12月末から正月であれば、天候推移によってはさほど雪は多くないかもしれない。多雪でなければ大丈夫だろう。南駒ヶ岳北峰（本峰）南東側にも、岩陰に西風の直撃を遮ることのできる幕営場所がある。

すでに16時半を回っているが、摺鉢窪は真下に見える。小屋の外に数人が散歩しており、テントも一張り張ってある。摺鉢窪に着いてみれば、小屋のタンクに天水があり、ここまでがんばって正解。17時半に幕営。別天地だが湧き水がないのが玉に瑕か。外においていた水筒の口が、ほどなくして凍ってしまう。

9月25日：発7:02～7:45 赤薙岳 8:01～9:05 空木岳 9:25～10:20 空来平分岐 10:33～11:11 冬道 2310m 11:20～12:17 小地獄下～13:20 池山小屋～15:15

今朝も冷えた。テントの中からモルゲンロートを楽しむ。出発前に大崩壊地を見てくる。常に小石が崩落していて、小屋もやがて飲まれてしまいそうだ。水もすぐ下で湧いていたが、取りに行くのは難しいか。7時半に出発。

赤薙岳から見る空木岳は貫禄がある。頂上南東側にも幕営履歴ありと思われる場所がある。冬はブロックを積みば大丈夫か、それともそれほどの雪があるか。

頂上付近ではガスに巻かれてしまった。下山にかかると下から続々と登ってきた。池山尾根は今回も迷い尾根上部の旧道に赤布をつけながらダイレクトに下ってみた。冬よりも比較的踏み跡はわかりやすい。大地獄はやはり冬は懸念であり、それを回避すべく直下降するには、2282m ピークとのコルでなく、ピークを越してからほぼ真東からわずかに北寄りに懸垂を含めて下ることになりそうだ。

池山小屋からさらにひとがんばりで、駒ヶ根スキー場に下山した。

1139 丹沢：寄～雨山・檜岳

【期日】2011. 9. 30 【参加者】橋本、他

イワシャジン・シラヒゲソウ・ブナを見に行く。 寄大橋 8:30 出発、雨山峠 10:47、雨山峠の手前でハンカイシオガマ、アキノキリンソウ、シラヤマギクも咲いていた。稜線は北からの風がやや強く、雨滴交じりのガス。11:35 雨山着、昼食、12:31 檜岳。稜線や針葉樹林帯は台風が強風のため、倒木のほかにも落葉・楽枝が多く、一部はルートが隠れるほどである。中沢橋に下山、寄大橋 14:25 帰着。

1140 頸城：金山～焼山～火打山～妙高山

【期日】2011. 10.9-10 【参加者】尾崎

10/9 :

小谷駅 7:30=8:05 雨飾高原 8:15~9:30 登山口~10:40 水場~12:06 1880m~14:10 金山~15:10
富士見峠

頸城の金山から妙高をつなぐというルートは、この山域におけるかねてからの課題のひとつであり、好天の期待される中ある意味満を持して行われた感はある。しかし、だからだろうか、あっさりと済んでしまった感覚のほうが強い。本当は、数泊しながら西海谷山稜を經由し雨飾往復後シゲクラ尾根からつなぐ方がより正統とも言える。まあ、金山以西海谷駒ヶ岳まではすでに晩秋2度に分けて踏破済みであるし、金山から昼間山へは残雪を利してつながっており、烏帽子岳東稜も3月末に済んでいる。鉢山主稜が残るものの、さほど食指がはたらかない。したがって、これをもって頸城・海谷はほぼ完となる。とにかくこのあっさりとした印象は、火打岳に妙高山という百名山二峰をルート上に含む（雨飾から来れば三峰も）超メジャー級に体育の日の三連休というこてこての組み合わせであったこと、焼山解禁に伴う金山～火打山間の縦走路整備が進んだことにありそうだ。

南小谷からのバスを降りた人はみんな雨飾に向かうようだが、自分は乙見山峠への林道へ向けて歩く。林道途中の沢で水をくむ。だが天狗原山と金山の鞍部で右の窪を下ってみたら容易に水が得られた。金山には14時着。数パーティが休んでおり、頂上で幕営の人もいるようだ。高山性の草地の上では張らないでもらえると良いのだが。そこからは、少々ネマガリタケの切り株がわずらわしいが、アップダウンは少ない。秋の深い空に焼山と火打山がどンドン迫ってくる。右手に見下ろす裏金山谷や地獄谷もさほど悪そうには見えない。次の課題は大海川大倉谷から先ほどの鞍部へと抜け、反対側となるこれらの谷を巡ることだろうか。一人では気力的に無理である。15時、富士見峠の適地にて幕。ここでも金山方面へ少し下った所で水が得られた。宿題があるので1時間ほどお勉強の時間をもつ。

10/10 :

発 6:10~7:45 焼山~8:27 焼沢のコル 8:40~9:37 R 9:56~10:50 火打山~高谷池~12:32 黒沢池
12:42~13:02 大倉乗越~14:07 妙高山腹 14:20~14:50 妙高山~15:30 八合目 2120m~17:05 燕温泉

翌朝は、泊岩の避難小屋を経て焼山までは案外時間を要した。焼山頂上付近は冠雪している。頂上カルデラの池付近より、東面の噴気孔が活発である。火打山までのアップダウンは大きい。よく見ると先行者が1-2名いる。昨夜泊岩避難小屋泊か。火打山から妙高山外輪山を越えた長助

池分岐までは人が多い。その後は時間が間に合うか少し心配だったが予定通り進み、妙高山頂上はさすがに15時とあって誰もいない。光善寺池までと、称名滝の急下降には驚く。そして称名滝は硫黄で岩が乳白色なのも印象的だ。右岸の道が整備されているようで、時間優先でこちらを行く。バスには十分間に合って、無料の露天風呂に入って18時のバスで関山駅に出る。

1141 吉田口～富士山

【期日】2011. 10. 11 【参加者】橋本

東日本の津波被害も重大な被害であったが、それとともに東電福島第1原発事故はその被害の甚大さ、広範囲に及ぼす物質的、精神的被害は計り知れない。さらにその被害はおそらく何十年にもわたって継続されるであろう。科学技術の進歩とその成果を過信することがいかに危険であるか、今見直す時期に来ている。

登山口の馬返し、朝7℃、晴れ、微風。やや涼しいが歩くには絶好の条件。6:55 出発。1 合目 7:05、ハウチワカエデ、イタヤカエデが紅葉。トリカブトの紫が鮮やか。2 合目 7:27、3 合目 7:43、4 合目 8:04、井上小屋（4,5 合目）8:15、5 合目（ゲート）8:46、5.5 合目砂振り 9:11、7 合目トモエ館 10:02、少し風が出てきたが雲が切れ、やや暖かくなる。体が重いが登ることにする。登山者はほとんどいない。東洋館 10:29、8 合目太子館 10:40、7月の時はここまでであったが、今日は思ったより疲労感なく、風が強くなり始めたが、先をめざす。蓬莱館 11:00、本8合目白雲荘(3200m)11:18 着。気温が急激に下がってきたので、ここで下山することにする。下降はブルトーザのジグザグ下山道をとる。ジグザグのターンのところに環境省は見やすい道標を設置した。道標 No. 42 に避難所（石室）あり、7 合目トイレ 12:05、3ツ目の落石シェルターわきで昼食。佐藤小屋 13:01、3 合目 13:37、馬返し 14:09、所要7時間14分。吉田口はルートがかなり整備された。しかし、この時期は山小屋がすべて閉鎖し、小屋の名前がわからず、現在地がわかりにくい。下山道に設置された道標も風雪被害防止のためか、カバーがかけられ、せっかくの設置が残念である。

1142 南八ヶ岳：県界尾根

【期日】2011. 10. 20 【参加者】玉田

会社休みだったので、八ヶ岳県界尾根へ紅葉ハイキングに行きました。朝、家族を送り出してから、夕方の子供のお迎えまでの限られた時間だったので、目的は登頂じゃなくて、紅葉ハイキングということで。地図を見て、赤岳を眺めながら紅葉も楽しめそうな県界尾根を選び、12時まで歩いてUターンと決めて向かいました。

大正解でした～(^)

青空は少なかったけれど、雲が高かったので赤岳も富士山もよく見えて、紅葉がきれいで、木曜のせいか人がいなくて、秋の1日を満喫できました♥

手元にあった地図では小天狗まで2時間くらいとあったので、そこを目指していきましたが、1時間で着いてしまったので前進。大天狗まではさらに1時間半弱となっていたので「途中でおしまいかな、まあ、行けるとこまで・・・」と歩を進めたら、あっけなく1時間弱で着いてしまいました。大天狗まで来ると展望荘も頂上山荘もくっきり見えて、つい欲が出そうになりましたが、理性が働き(^_^)富士山を眺めながらおにぎりを食べて引き返しました。

県界尾根に出るまでの30分はちょっと急だったけれど、尾根に出たしまえばルンルン歩いてよい道でした。大天狗からはいよいよ梯子や鎖場も出てきて大変なんだろうけど・・・『来年はこの道をとっぺんまで歩こう♪』と思いながら帰ってきました。東京に住んでいたときは赤岳といえば中央本線で美濃戸口からしか考えなかったけれど、東側の道がかなり魅力的なことを発見(?)できてよかったです。真教寺尾根もきっといいんだろうなあ。ご存知の方、コメントお願いします。

この前、ドライブがてら夜叉神峠へ行ったときは雲で白峰三山がよく見えず残念でしたが、昨日は本当にとっても大満足でした。(玉田)

1143 奥秩父：里宮平～金峰山

【期日】2011. 10. 25 (火) 【参加者】尾崎

登山口の増富・里宮平の天気は晴れ、無風、9℃。Pで朝食をとり、6:39 出発。ミズナラ、カラマツの落葉が多い。富士見平小屋（営業中）7:11、大日小屋 7:48、木の間越しに大日岩が望める。8:15 大日岩の丁字路、ここから砂払いの頭まではコメツガの林を過ぎたあたりより長い急登が続く。前方が開けたところが砂払いの頭である 8:59。ナナカマドの赤い実越しに小川山が見える。金峰山 9:46。オオダルミの川上牧丘林道は閉鎖されているため、登山者はいない。山頂はシンと静まり返っている。富士山は強風にも関わらず山頂付近にレンズ雲。西寄りの強風が一時的に止んだ。暖かい。八ヶ岳方面は見えない。軽食をとり下山開始。10:38 砂払いの頭、11:11 大日岩、11:34 大日小屋、富士見小屋 12:05。カラマツの葉が音もなく降りかかってくる。急下降のルートでは落葉で滑りやすく、細心の注意が必要。里宮平 12:29 着。登り 3 P3 時間 07 分、降り 2 P2 時間 43 分、所要合計 5 時間 50 分。

1145 御殿場口～富士山

【期日】2011. 11. 8 【参加者】橋本

御殿場口新 5 合目(1440m)朝の気温 8℃、微風、濃霧。6:28 出発。植物など楽しみにしていたが濃霧で不明。フジアザミのみ枯れ残り株あり。バッコヤナギとカラマツの落葉がすこしあり。次郎坊 7:29、コースは単調な砂の海。風がなく濃霧のため全くの静寂の世界である。旧 4 合目ブル交差点 8:26、旧 6 合目小屋跡 9:53、このころより雲海の上に出たようで陽の光がさし暖くなる。フジアザミの枯損株。7 合目 10:27、日の出館のはずだが確認できない。わらじ館 10:42、砂走り館 10:46、測候所 11:05、赤岩 8 合館 (3300m) 11:15 着。ルート上は雪が凍結している。山頂まで行く予定ではないので、ここで引き返す。7 合目太陽館 11:40、下山道に入る。走り 6 合 (宝永山への分岐) 11:54、須山口下山道との分岐 12:17。濃霧が氷雨交じりになり付近はかなり暗い。下山ルートを示す白いロープが海底ケーブルのようだ。ロープが支柱などに結び付けられているが、ルート標識などなく、暗いなかの大砂走り下降はやや心細い。しかし、砂走り自体は、須走口の場合と違い、傾斜が緩やかで下山は楽である。雨が激しくなりだしたころ新 5 合目帰着 12:45。登り 4 P4 時間 47 分、降り 1 P1 時間 30 分、所要合計 6 時間 17 分。

1148 下田：八木鼻～粟ヶ岳～水源池

【期日】2011. 11. 26～27 【参加者】尾崎

11/26

八木鼻 9:05～10:50 薬師の水場～11:05 栗薬師～12:10 六合目～13:11 860m～15:35 幕営

東三条駅からのバスで、同じく粟ヶ岳を目指す登山者と乗り合わせ、歩き始めはしばらくその人と行く。麓からすでに雪が見られる。雲間に見え隠れする頂上はかなり白い。2人とも、思った以上の雪に考えが甘かったことを早々認める。登山口の集落の売店で登山者名簿へ記帳するよ
うにと案内板がある。地元で親しまれている山のような。その方は慣れていてペースは速く、先に行ってもらおう。標高500mくらいまでは足首程度の雪であったが、栗薬師付近から急に雪が多くなる。その方はスパッツを持ってきていないとのことで栗薬師避難小屋で引き返された。この避難小屋は簡素だがフライパンなども備えてありいつか泊まってみたい。

両側の灌木が雪をかぶって道を隠し、ルートがわからなくなることが多くなる。時間の経過は早いのに、背後の景色は変わらない。地図を見ても時間の感覚と地形の感覚が合わなくなり、進んでいないという訳だ。足を前に出す→重心移動せず踏みつける→その足に体重を移す、という3拍子歩行ができるようになってようやくスローリズムに乗る。一足ごとに休む歩き方とすることで、立ち止まることを減らすことができ、結果的にはかどっている。14時過ぎごろから本格的に晴れてきた。気持ちも軽やかになって、15時半まで歩くことを目指しがんばる。

おおむね時間は見込みどおり、頂上肩からさらに手前の平坦地にたどり着き、整地して幕営。積雪は30cm強か。雪を溶かして水を作るのも快適なくらいの無風快晴だ。粟ヶ岳山肌の刻々と変わる色合いはみごとであった。

11/27

発 6:32～7:40 1185m 8:00～8:48 粟ヶ岳 9:05～9:40 分岐ピーク～10:25 粟ヶ岳ヒュッテ 10:45～11:00 六合目～12:47 水源池バス停

1時間と少しで頂上肩に着くと、反対側には下田・川内の山並みがうねる。右手遠くの守門岳がそれと確信もてる以外、いずれの山も同定ならず、幾重もの逆光が未知への憧れをかきたてる。そのどこかは昨夏の駒形山であるはずだ。頂上に立てば飯豊、その向こうに朝日と思しき山脈も見通せるが、当初もくろんだ越後白山までの距離は長く、単独ラッセルで今日中の下山は不可能と改心する。

北峰を越え次の小さな盛り上がりを過ぎたところが白山へ分岐であり、左下方に粟ヶ岳避難小屋が見下ろせる。ちょうどその盛り上がりのところへ下からラッセルしてきた登山者が現れ、言葉交わす。昨夜の避難小屋泊まりは非常に寒かったが、毛布もあって快適であったとのこと。避難小屋まで下ると、次から次へと、地元っぽい登山者が登ってきた。長靴の人も少なくなく、

親しまれている山であることがよくわかる。でもみんな自分でラッセルしろよ。とにかく、今までの静寂の山が信じられない。

下降は、こんなに登ったのかなと思うほど急な部分がしばらく続き、穏やかになると雪もほとんどなくなって、水源池脇に降り立つ。林道を急いで、13時前の加茂行きバスにちょうど間に合う。2日目はあっさり済んだが、積雪期の単独で、準備段階から含めて精神的に結構消耗してしまった。

1149 丹沢：箒沢～檜洞丸

【期日】2011. 11. 29 【参加者】橋本

西丹沢の朝6℃、曇り、微風。自然教室7:57出発。東沢は黄葉が残っている。ゴウラ沢出合い8:35、展望園地9:14、付近は標高約1100mでブナらしき木が散見されるが、巨木はない。カエデ類、クヌギ、ミズナラなどが落葉し、正面に檜洞丸の稜線が見える。右側の石棚山稜の北面に大崩落がある。石棚山稜との分岐10:01、ここから檜洞丸山頂にかけてブナの巨木が多い。このうち、何本かは倒木している。檜洞丸10:14、カマツカの実だろうか赤い実が美しい。天気は曇りだが富士山が冠雪しているのが望める。軽食と写真を撮り下山開始。石棚分岐10:34、展望園地11:03、ゴウラ沢出合い11:26、自然教室11:55。登り2P半2時間17分、降り1P1時間41分、所要合計3時間58分。

1150 丹沢：用木沢出会～大室山

【期日】2011. 12. 13 【参加者】橋本

年末11、12月はブナの観察ができる山に登った。丹沢や道志の山々には立派なブナが生育している場所がある。これらのブナが最近、枯損が目立ってきているように思える。

登山口の用木沢出会の気温2℃、快晴・微風。7:17 出発。先日降った雪が用木沢を覆っている。体がやや重い。しばらくはアイゼンをつけない。犬越路(1060m)8:13 着。ここから約100m 登り、1169m ピーク付近からの富士山が美しい。ブナが散見されるが大樹はない。稜線分岐点 9:23 着。付近は積雪数 cm。9:29 大室山着。すぐに引き返す。破風口までの下降路にもブナがあるが大きいものはなく、また、枯損樹が目につく。破風口 10:07、前大室 10:19、加入道山 10:30 着。北西面のルートは凍結しており下降は危険。このルートは以前よりも整備が進み、木橋、道標が新設された。白石峠(1307m)10:41 着。ここから急下降だがルートは南面し雪はない。30分位下降してから始まる大小ガラガラ石のある狭い涸沢は不安定な石の上に着雪があり歩きにくい。用木沢出会 11:47 帰着。 所要4時間30分。

1151 道志：山伏トンネル～御正体山

【期日】2011. 12. 27 【参加者】橋本

朝の山伏トンネル都留側で気温-8℃、快晴、無風。道志村側の登山口 6:46 出発。雪はほとんどない。7:18 石割山分岐着。北寄りの風がやや強い。奥ノ岳(1371m)7:24、送電鉄塔 7:28 着。ここは展望が開け、富士山と南アが見事である。毎回ここで写真を撮るが、今回はデジカメのバッテリー不足で不可。低温のためだったか。中ノ岳(1411m)7:52、前方に前ノ岳が立ちのぼる。右手奥に相模湾がキラキラ光っている。前ノ岳(1471m)8:13 着、山頂らしくない平坦な場所。一度下降し、御正体山の登りにかかる。御正体山 8:42 着。雪はほとんどない。小休後下山開始。御正体山西面はブナの巨木が多いが、ここも枯損樹が目立ち始めた。アカゲラらしき鳥（黒い頭、黒白のシマ模様の体、ヒヨドリ大）がしきりに木の幹をつついていて。前ノ岳 9:06、中ノ岳 9:23、送電鉄塔 9:43、奥ノ岳付近からは前方に山中湖。石割山分岐 9:53、山伏峠 10:15 着。予定より早く山伏峠に着いたので、ここから南下して、西丹沢の大棚の頭(1268m)に行くことにする。大棚の頭へのコースはこれまでの御正体山のコースでは殆ど見られなかったヒメシヤラが生育していた。また、ブナもかなり多い。大棚の頭は菰釣山～高指山縦走路から少し北へ登ったところにある。10:34 着。 山頂はミズナラ、クヌギ、ブナなどに覆われている。山伏峠 10:46、登山口 10:51 着。

1152 中央アルプス：小八郎岳～池平山～奥念丈岳

【期日】2011. 12. 30～2012. 1. 1 【参加者】尾崎

年末の山は他の人と予定が合わず、一人となってしまったことから、比較的降雪が少なく、悪天候時も大荒れするほどでなく、過去に経験があってルートもまずまずわかりやすいが、メジャー過ぎない所ということで選定した。3日間とも快晴に恵まれ、まずい場面もなく、奥念丈岳まで登ることができた。マイナーピークだが3度目の登頂。2011年では2度目。

麓から見た池ノ平山、念丈岳方面は深い森の色で、雪などほとんど無さそうに見えた。上片桐から鳩打峠への林道は忍の歩き。峠には昼前となる。そこから1時間ほど登った所で、やはり奥念丈めざしたという単独の人が、セキナギあたりであきらめたと言って降りてきた。一方で非常に軽装で、烏帽子山まで日帰りするという人が抜かして行った。明日は宝剣だと言っていた。このあたりを知り尽くした、地元のベテランなのだろう。確かにセキナギまでも予想以上に時間を要した。1日目は烏帽子山直下で泊まる。

翌日も好天だ。だが池ノ平山から見渡す尾根は大きく下って登り返しがあり、雪も増えてきた。足首上くらいまでのラッセルはあり、荷も重いので単独ではそれなりに厳しさを感じた。本来の予定は奥念丈岳まで行くか、または念丈岳からそのまま南へ周回し、大島山、本高森山と歩くつもりだった。もちろんできれば奥念丈岳往復後、念丈岳から南下しても良いと思っていた。だが、積雪期に1人で山に入るのは、とくに入山前には相当な精神的負荷があり、入山してからも安全側で動くというか、少々思い切ったことには躊躇がある。結局、念丈岳まであと1時間というあたりで、重荷に耐えかねアタック装備に切り替えて、往復としてしまう。まったくをもって情けない。だが荷が軽くなると信じられないほど楽になった。本高森山方面は今後の目標とする。念丈岳からは大きく下ってヤブを登り返すので、覚悟して歩を進める。結果はその分予想以上に楽に進め、与田切乗越を経て奥念丈岳の登りをこなした。帰りは与田切乗越の笹原で、無風で暖かいので少し昼寝してしまう。途中で荷物を回収して、東日本大震災からの復興が大きな話題となる年末のラジオ番組を聴きながら、池ノ平山まで登り返して幕営。何だかんだ昨日も今日も16時半くらいまでのフル行動となる。

2012年元旦、何も感慨無く、行動食とも朝飯とも区別ないものをつまんでテントを出る。初日の出は一応確認した。烏帽子岳まで戻ってくると、奥念丈往復の間にここまで往復の人がいたようで、トレースが増えている。地元の方の正月登山であるようで、烏帽子山の下りで2名に会い、さらに小八郎岳には5-6名の登山者がいた。そのまま往路を駅まで歩いた。雪の時期一人で山に入るのは、入山前の重圧に耐えられるかが一つの分岐点だろう、限界の存在を実感する。

1153 丹沢：戸沢山荘～蛭ヶ岳

【期日】2012年1月2日（月） 【参加者】橋本

登山口戸沢山荘前の朝3℃、曇り、無風。例年は書策新道を登っていたが、今年は政次郎尾根を登ることにする（7:08 出発）。ほぼ直登で標高差約630mを一気に丹沢主脈稜線に向かう。行者岳の手前を回って政次郎の頭（稜線）に8:19、新大日8:36着、時々陽がさすが小雪交じりである。塔ノ岳9:06。尊仏山荘北側の下降路は凍結している。竜ヶ馬場9:45、丹沢山10:03着。小雪。丹沢山北側下降路は凍結しており、このコースだけアイゼン着用。ここから不動の峰への長い登りが続く。雪が激しく降りだす。不動の峰10:45着。近くに休憩所がある。このあと、笹原の明るい広い稜線を通過して棚沢の頭10:53着、鬼ヶ岩（11:07）の岩場には着雪はほとんどなく、問題ない。蛭ヶ岳11:28着。晴れているが小雪が舞う。軽食をとり写真をとって下山開始。山頂からは宮ヶ瀬湖、その先に横浜、左手奥に東京の高層ビル群が見える。鬼ヶ岩11:53、棚沢の頭12:06着。この頃より風と雪が激しくなり、辺りは真っ暗になる。弱い前線の通過中らしい。短時間でルートが雪に覆われる。不動の峰12:14。さらに雪が激しくなる。丹沢山への登りが終わりになる頃やっと小雪になる。丹沢山12:45、竜ヶ馬場13:00、半昼食をとる。日高13:14、塔ノ岳13:35、金冷し13:47、天神尾根分岐14:10。天神尾根は少しづつ手入れがなされ、スギ・ヒノキの間伐とシカ柵が設置されている。戸沢山荘14:54着。登り4時間20分、降り3時間26分、合計所要7時間46分。今年も天神尾根を行き来するボッカに出会った。

1154 奥秩父：鴨沢～雲取山

【期日】2012年1月18日（水） 【参加者】橋本

鴨沢の上、所畑まで車で入る。所畑の朝、気温-5℃、快晴、無風。東京地方は34日間乾燥注意報で、ルート上には雪が殆どない。6:40 出発。すぐに数羽のアカハラが迎えてくれた。堂所7:38着。ルート右にあるヒノキがここ数年で大きくなり、辺りが暗い。七ツ石分岐8:10、ブナ坂8:39、ルートは凍結しているが雪はなく歩きやすい。雲取山9:40着。写真とスケッチをして下山開始。飛龍山の右手に南アの甲斐駒、北、塩見、左に赤石、聖、光まで見える。富士山は山頂付近にレンズ雲、南方に蛭ヶ岳・檜洞丸が見える。ブナ坂10:36、七ツ石分岐10:58、堂所11:17着。最近この石尾根にも道標が増えてきた。堂所から少し下ったところで、コゲラらしき鳥がすぐ近くのミズナラの幹を激しくつついていた。所畑12:02着。登り3ピッチ3時間、下り1ピッチ2時間22分、合計所要5時間22分。ここでも、堂所近くで若いボッカに出会う。

1155 丹沢：箒沢～檜洞丸

【期日】2012年1月25日（水） 【参加者】橋本

朝の西丹沢気温-4℃、快晴、無風。自然教室前のPは数cmの積雪。7:34 出発。林道から登山路に入るところでアイゼン着用。数日前に降った雪が一部凍結している。トレールはある。ゴラ沢出会い8:26。ここから展望園地までは急傾斜になるが、積雪は20～40cm。まだトレールははっきりしているが、雪でササや木の枝などがコースをふさぎ、歩きにくいところがある。9:22 展望園地着。この上部には木のハシゴなどがあるが、今回はこれらが完全に雪に埋もれている。石棚尾根にでる直前の200m手前から最後の急登になるが、ここからはトレールがなく、ラッセルである。木のハシゴのある場所から外れると、腰まで沈む。ここをなんとかクリアしたが、予想以上に時間がかかり、体力も消耗した。石棚尾根分岐 10:44 着。ここからは傾斜が緩やかになり、木道が続くが、この木道が雪に埋もれて見えない。わずかな木道の痕跡をみつけながら約15分登ったが、木道から外れると、腰まで沈む。2本ある木道の他の1本を見つけ、山頂直下の太陽光発電設備のあるところまで到達したが、この上部は積雪がさらに深そうである。ここからさらなるラッセルは遠慮しておく。下山開始。11:19 石棚尾根分岐、12:01 展望園地、12:28 ゴラ沢出会い、13:05 西丹沢帰着。

1156 奥安倍：羽衣～七面山

【期日】2012年1月31日（火） 【参加者】橋本

登山口の羽衣の朝の気温-5℃、快晴、無風。7:48 出発。13丁目肝心坊 8:21 着。付近でドラムをたたくような大きな音で木をつつく鳥2羽（姿不明）。16丁目付近でアイゼン着用。七面山のこの表参道コースは急登の連続で、山頂までは標高差は約1500mである。36丁目晴雲坊 9:35、展望台 10:26 着。目の前に富士山、北東方面に雲取山から金峰山まで奥秩父連山が見える。展望台からは積雪は30～50cmとなるが、トレールははっきりしている。七面山 11:09 着。ここからさらに南下するコースはシカの足跡のみでトレールはない。軽食をとり下山開始。11:39 展望台、今回は敬慎院境内に入る。桃山時代形式の立派な本殿があり、信者用の参籠宿泊設備もある。48丁目が鐘楼、46丁目が山門。12:01 晴雲坊、12:33 肝心坊、登山口 12:54 着。登り3ピッチ3時間21分、降り1ピッチ1時間45分、合計所要5時間06分。

1158 越後：美佐島～坂戸山～583m峰

【期日】2012. 2. 4～2. 5 【参加者】尾崎、保延、杉坂



2月4日(土) 曇り/雪 朝9時ごろ、六日町駅に集合。身支度を整え、出発。一行、向かうは坂戸山である。前日までにかなりの降雪があり、当初予定していた五頭山を諦め、この山に変更となった。標高633mほどの山であり、正直なところはじめて聞く名前であった。待合室で出会ったおばあさんの話によれば、地元のひとにとっては馴染み深い山のようなのである。この時点では、あっさりとした山行となるのではと思っていた。

美佐島橋を渡り入山地点到着。トンネル入口際へ移動し、準備を行う。ここから、ワカン登高を開始する。意外と傾斜があり、樹林もところどころない。ワカンを履いての山行をまともに経験したことのない私は、この先どうなることかと急に不安になった。なかなかしんどいものだ。取り付きは樹林帯の中を行くも、すぐに疎林帯へと移り変わる。いきなりの急登をジグザグに進んでいこうとするが、直登するよう、尾崎さんから指摘を受ける。目の前の壁を切り崩し、切り崩し全身で登っていく様は、ハードな藪こぎを連想させた。なかなかうまくいかない。いろいろとアドバイスを頂きつつ、次第に慣れていくも、進みは相当遅々としたものであった。

二、三回休憩を挟み、適当なところで幕営とする。尾崎さんの提案により、雪洞をつくることに。雪質が柔らかいので、子一時間ほどでそれなりのものが完成した。雪洞泊ははじめてだったが、意外と快適だった。(水作りがしやすい!)尾崎さん差し入れの餃子、杉坂さん自家製の梅酒などをご馳走になる。わりと疲れていたもので、すぐ眠りにつく。

2月5日(日) 晴れ 朝、天井がだいぶ下がってきていて、驚いて起きる。どうやら降雪があったようだ。棒ラーメンを食べ、7時頃出発。なだらかな稜線上は昨日に比べだいぶ歩きやすい。とはいっても、私は昨日の疲れが影響して調子が出ず、何回か尾崎さんと杉坂さんにトップを交代して頂いた。ところどころ小ピークを巻くのには手こずるも、9時頃には坂戸山に到着。山頂にはお社があった。目の前には金城山が立派に見える。この先のルートを確認して、出発。途中で急な斜面(山頂からも確認できた)があったが、問題なく降りることができた。583m地点まで調子がよかったので、627m地点のすぐ南のピークから西側に伸びる尾根を辿り下山することに。下山はワカンだとわりと楽で、あっという間に集落に到着した。お昼過ぎ、日差しもかなり出ていて汗ばむ程であった。

低山とはいえ、積雪も豊富にあり、なかなか濃い内容の山行でした。行動中の天候条件も悪くなかったこともあり、順調に行程をすすめることができたのもよかったです。今回はワカンでの山行は初めてでしたが、冬山登山のキツさも面白さも両方わかった気がしました。(保延)

1159 吉田口～富士山5合目

【期日】2012年2月13日(月) 【参加者】橋本

歳をとっているが、他事多く、夏場以外は2～3日の宿泊を伴う山行ができない。必然的に日帰りのコースを選ぶことになる。車で早朝に自宅を出れば、丹沢、奥秩父、富士山、南ア近辺、八ヶ岳などの山々は歩ける範囲である。

登山口の馬返し(1440m)は気温-8℃、晴れ・無風。7:36 出発。登山道は積雪はあるが、固く凍結しており、アイゼンをつければ歩きやすい。トレールははっきりしている。1合目 7:46、2合目 8:11、野鳥の声のみで静寂である。3合目 8:30、少し風が出てきた。山頂から吹きさがってくるようだ。4合目大黒天 8:50、5合目佐藤小屋(2230m) 9:27。富士山特有の強風である。佐藤小屋から少し登ったが、体が浮き上がるほどの強風である。風に向かうと歩けない。下山開始とする。3合目 9:59、馬返し 10:31 着。このコースは冬季でも登山者があり、危険の少ないルートで、雪山歩きの良いゲレンデである。

1160 奥秩父：広瀬～雁坂峠

【期日】2012年2月22日(水) 【参加者】橋本

広瀬の朝気温-3℃、快晴・無風。広瀬湖は全面結氷している。広瀬 6:54 出発。沓切沢橋 7:50、アイゼン着用。ここから登山道になるがトレールはある。しかし、5分位登ったところにナメラ沢への下降点があるが、トレールはここまでで、以降はシカの足跡のみ。井戸沢の徒渉点 9:05、シカの足跡もなくなる。ラッセルである。雁坂峠への最後の急坂は場所によりヒザ上位のラッセル。西からの強風がきつい。雁坂峠 10:01 着。予定では雁坂嶺までであったが、ラッセルで体力消耗と強風のためここで下山とする。峠から山頂まで標高差は 200m だが、意気地がなくなった。峠からは南ア、富士山が美しい。井戸沢 10:32、ナメラ沢下降点 11:09、沓切沢橋 11:16、広瀬 12:05 着。途中この山域では珍しいシカに遭遇。登り 3 P3 時間 07 分、降り 1 P2 時間 04 分、所要計 5 時間 11 分

1162 奥秩父：瑞牆山荘～金峰山

【期日】2012. 2. 25～2. 26 【参加者】小川、山野、松本

2/25 横浜発 8:50 13:10 瑞牆山荘 14:35 富士見小屋

きっかけは21期山田さんの弟さんの山田哲哉さんが書いた「奥秩父～山、谷、峠そして人」だった。秩父の山は近いのにほとんど行ったことがない。昨年5月の岩トレで痛めた五十肩も直ってきたし、新しく購入した山靴のお試しも兼ねて山野さん、小川さんと雪の金峰山に初めて登ることにした。

朝、土砂降りの雨で少し出発を遅らせ9時に横浜を出発。途中、高井戸で小川さんを拾って渋滞もなく西へ向かう。増富温泉につくころには雨はほとんど止んで、少し先で林道は通行止めの表示があるのを横をすりぬけてそのままあがっていく。ただ、その先は除雪をしておらず、溶けた雪が凍ってアイスバーンになっているので、すぐにチェーンを着けた。瑞牆山荘へは塩川側からの道は除雪されており、瑞牆湖経由であれば、チェーンなしでも上がったようだ。

13時過ぎに瑞牆山荘に到着し、昨日からの雪が残る山道をゆっくりと登る。一時間弱で富士見小屋到着。予定では大日小屋までの予定だったが、水場も凍って使えないし、トイレもこっこのほうがきれいでもいいよという小屋番の勧めで富士見小屋の横にテントを張ることにする。テントはあと2つ、小屋にも数人の宿泊客がいる程度で静かな夜だった。

2/26 発 6:30 11:35 金峰山 14:35 富士見小屋 15:50 瑞牆山荘

26日、明るくなりだした6時半に出発。下が凍っているのですぐにアイゼンを着ける。大日小屋には数人のパーティが止まっていて、聞くと朝早くに砂払いの頭まで往復してきたという。ラッセルが結構大変で頂上はあきらめて引き返してきたとのこと。まだ時間は早いのにあきらめが早いことと思ったが、おかげでラッセルはせずに助かった。膝下程度の積雪だが、それでも踏み跡がなければ結構大変だ。

大日小屋を過ぎると、右に大きな大日岩がでてくる。結構大きな岩で山田哲哉さんの本にも若い頃に登った話を書いてあるが、僕らにもちょうど面白いかもしれない。八ヶ岳がきれいに見える。稜線に出てからは、南アルプス、富士山などの展望も楽しみながらゆっくりと登る。天気は高曇りで山はよく見える。昨日は南風の吹雪だったようで、岩や木の南側にはエビのシッポが綺麗についている。

頂上から、小川さんが三浦等さんに携帯で電話をかける。八ヶ岳の麓の別荘に滞在中で、金峰山もよく見えるとのことで、大きく手を振ってみれば、高精度の望遠鏡なら見えるかもしれないねなどと話をしていました。天気は少し下り坂でよく見えていた八ヶ岳も上から次第に雲がかか

ってきたのでゆっくりと下ることにする。

富士見小屋でテントをたたみ、下山する小屋番と前後して瑞牆山荘まで下った。帰りは渋滞もあり、温泉は残念ながらパスして東京に向かった。



1163 丹沢：箒沢～檜洞丸

【期日】2012. 2. 28 (火) 【参加者】橋本

朝の西沢は小雪、微風、気温-2℃。自然教室 8:00 出発。ゴーラ沢までの緩い登りのコースは先月と異なり雪がなくなり歩きやすい。ゴーラ沢出合い 8:39 着、ここからやや急坂となるが、20分位登ったところでアイゼン着用。展望園地 9:26、檜洞丸山頂付近は雪雲。コースは積雪数 10cm だがトレールははっきりしておりラッセル不要。石棚尾根分岐 10:23、檜洞丸 10:38。途中樹木に付着した霧氷が美しい。山頂で写真をとりすぐ下山開始。石棚尾根分岐 10:52、展望園地 11:21、ゴーラ沢出合い 1:48。寒さが続いているためか、ミツマタの開花が遅れている。西丹沢 12:20 着。登り 3 P2 時間 38 分、降り 1 P1 時間 42 分、所要計 4 時間 20 分

1164 安達太良山スキーツアー

【期日】2012年3月4日（日） 【参加者】山田

ゴンドラ山頂駅 1035=1130 安達太良山 1150=1210 ゴンドラ山頂駅

ここ数年、会社の友人と年に一度温泉に行くようになり、昨年2月には奥日光加仁湯に出かけた。そのときの印象が良くて、やはり雪見温泉が最高で、お湯が白濁していればなお良いということで今年は福島の新野地温泉を訪ねることとなった。いつものように、ただ飲んで帰ってくるだけでも味気ないと思っていたが、地図を見ると安達太良山が近い。さらに、調べると安達太良山は高校の沢登り以来だが、スキー場がかなり延びてゴンドラトップから1時間半もあれば登れるようである。これならば山に登らない同行者にも岳温泉に浸かってもらえば迷惑もかからないということでスキーツアーを計画する。

前日の軽い二日酔いを抱えながら10時過ぎにスキー場に到着、温泉に向かう同行者と別れてゴンドラに乗り込む。今日はアルペンスキーの大会が開催されているようだが、それでもゴンドラは1箱1人で待つこともない。

ゴンドラ山頂駅で計画書を提出し、スキーを履いて歩き出す。久々のシール登山だ。天気も上々で、乳頭山とも呼ばれる山容が青空に輝いている。流石に百名山だけあって、冬だということにかなりの登山者で、登る人も多いが、すでに登頂して下山してくる人とも数多くすれ違う。風も弱く暑いくらいで、汗を流すこと1時間程で山頂着。磐梯山から飯豊、吾妻の山々が一望できる。昨年末に家族で行ったグランデコのスキー場も意外なほど近くに見える。こちらも西吾妻山に一投足の距離までスキー場が伸びている。

後は滑りを楽しむだけと滑降を開始するが、これがなんとも滑るには最低の雪である。1 昨日の晩に積もった雪が今日の晴天で溶けて重い雪となり、滑った跡がレールのように全く横滑りが効かない。こんなはずではと、だましまし滑ること20分でようやくスキー場に到着した。合計2時間弱のなんともお手軽な山スキーでした。

1165 奥秩父：瑞牆山荘～瑞牆山

【期日】2012年3月7日（水） 【参加者】橋本

瑞牆山荘P朝の気温2℃、晴れ・無風。一昨日来の春雨で雪がだいぶ溶けたようだ。登山口7:25発、里宮平のゆるい登りはややぬかるみ歩きにくい。富士見平手前でアイゼン着用。富士見平小屋8:02着。ここから少し登り、すぐに天鳥川への下りになるが、この急下降のコースは氷に滑り台である。天鳥川は全面凍結だが水量が多いため氷の下は水が流れている。徒渉点8:23、付近はアズマシャクナゲが多い。緩い登りがあり2つのハシゴを越えると急登が始まる。9:35瑞牆山着。山頂からは浅間山、八ヶ岳、御嶽山、南ア、富士山、金峰山がみえる。写真をとり下山開始。天鳥川徒渉点10:30、富士見平10:51、瑞牆山荘登山口11:10。登り2P2時間10分、降り1P1時間35分、所要計3時間45分。

1166 天子山塊：麓～毛無山

【期日】2012年3月16日（金） 【参加者】橋本

朝の麓の気温-3℃、快晴・無風。麓P6:52出発。動物が斃れているのか、付近には強烈な腐臭が漂う。4合目と5合目の中間にレスキュー（ヘリ）Pができた。6合目の少し上でアイゼン着用。ルートははっきりしている。8合目上部に富士山展望台の標識があるが、展望はよくない。8～9合目の傾斜はきつい。9合目の急登を過ぎると稜線分岐にでる（8:52）。稜線では木の間越しに南アの白い姿。9:01毛無山着。東面のみ開け、富士山が大きい。写真を撮り、軽食休憩して下山開始、稜線分岐9:13、5合目9:48、不動の滝は全貌がみえる。麓P10:32着。シカは麓集落に2頭、1合目付近に1頭。登り2P2時間09分、下り1P1時間31分、所要計3時間40分。

1167 五頭山地：山葵山～松平山～五頭山

【期日】2012. 3. 19～20 【参加者】尾崎、杉坂

3/19 水原駅 8:05=8:30 出湯温泉～9:13 少年自然の家 9:40～10:20 R 10:30～11:40 R ～13:10
山葵山～13:24 R～14:59 R 15:12～15:45 松平山（偵察より帰着 16:50 ごろ）

最新の情報は当初の週間予報よりシビアな予測となっている。水原駅を市営の100円バスで出発する頃は西から晴れ間が広がってきたが、明日再び冬型が強まるらしい。したがって今日の行動の進み具合で明日の展望がどうなるか、といったところである。

出湯温泉で降りて少年自然の家まで車道を歩き、沢右岸から裏手の尾根へ取り付く。冬季はやはりこのルートが取られているようで、うっすらトレースが残っていた。それ以上に雪は締まっているので、順調に進む。一時的にガスが濃くなるが、また晴れたり曇ったりくらいの天気となり、気持ちよい。休憩の時、手に持っていた地図を飛ばされ回収に行く。今後気をつけたい。山葵山手前付近では尾根が急な斜面に吸収される。雪崩に気をつけルートを選ぶ。山葵山から先も地形が複雑で、明日もしも撤退となった場合降ってガスればルーファイが難しそうである。数ヶ所赤布をつけておく。

松平山はその名のごとく広い山頂で、地形は入り組み風も少々強いため、幕営地点の選定に気を使う。最終的に最高地点と思われる場所の北側、雪堤の2-3m下を選んで整地して、幕営後即気象通報となる。日が長くなってきたことも実感した。

松平山からの下りは紛らわしいニセ尾根が3本もある。そこで気象通報の後、下降地点の確認に出る。テン場から200-300mの場所だが、尾根筋が幾本も派生するので少し移動すると見える景色はだいぶ違う。ガスれば本当に下降地点の見出しが難しそうだ。その下降点は雪庇段差が大きいため、その手前10mほどの場所に弱点を見つけ、トラバース気味に正規の尾根に乗れることを確認した。下降点に赤旗を立ててテントに戻る。振り返れば風になびく赤旗は“旗つつみ”ができそうだ。冬山のお気に入り風景の一つ。降り始めた雪はやむ気配なく、撤退するにも難しいだろうと少々不安な夜となる。

3/20 発 6:07～7:09 904m 分岐～7:20 883m 手前～ルート失～10:07 R 10:19～10:56 五頭山～12:37
避難小屋 12:44～13:21 R 13:35～14:25 どんぐりキャンプ場～15:14 村杉温泉

朝から風が強く雪も降り続けているが、幸いラッセルはさほどでない。山頂からの下降と正規の尾根には、昨日の偵察の効果で順調に進む。吹雪時々雪といった天候だが、ラッセルは懸念したほど深くなく、主稜線とあってか時折古いトレースを見かける。904m ピーク南の分岐も難なく通過した。主稜線はピークごとにS字を描くため、数えながら進んで行く。だが、ラッセル交代などしているうちに誤認したようである。だっ広い下りの場所に出た。地図以上に広いように

思われた。これは本当は 862m の手前であったのだが、883m の下りだと考えていた。そして登り返して右折して、そのまま進むと地形と地図が符合しなくなってきた。本当は 862m を過ぎ、主稜線を外れて次の 860m まで来ていたが、それがわからず行き詰る。変わらず雪は降っており、視界も 200m くらいなので、北に尾根が下っており、直進方向の地形ははっきりしない、ということくらいしかわからない。10 数メートル移動して再度地図を見ても打開できず、しばらく検討したが引き返すことにする。そのうち、もともと要注意と考えていた 862m を南に曲がらず西へ直進し



てしまったのではとわかってきて、戻ってまた地図を見た。幸い 862m から正規の南方向にわずかの間視界が利いたため、今度は確信をもって進みなおせた。左の方でウサギが走った。同じ方向に消えて行った。科学的ではないけれど、以前も道に迷った時、ライチョウの歩く方向がルートだったり、同じくウサギが現れたこともあった。良い兆候だ。本当に山の神様というのは居るのではないかと、彼らはその化身なのではと思う瞬間だ。

緩やかな尾根から再び 60m ほど登り返し、五頭山の肩に着く。五頭山頂ははっきりとはわからなかったが適当に休みを入れ、下降点を目指す。先ほどより雪は深い。下降点はポールが立っていた。ここから下りのルート判断が難しかった。これまで以上に視界は悪い。真西に下り始めるが、左へ、そして小ピークを数個越えつつ右に曲がって下るあたりが、非常に気を使う。登り返して夏は小屋のあるピークに至る。柵が作ってあり、それは小屋の入口が掘ってある段差であった。しかし小屋に入るには、さらにドア分の深さを掘る必要があった。下りも難しかろうと早々に歩き始める。ガスと吹雪状の視界のなか、右 2-3m に亀裂があるのが見える。注意して踏み込まないようにしていたが、何とそれはトレースだった。まったく予想と違って、少し笑ってしまう。やがて下から数パーティが登ってきて、ラッセルとルーファイが終了した。キャンプ場に 14 時半前、村杉に 15 時 15 分ごろ到着した。例の 100 円バス待ちの間に、下山口から数百メートルのところにあった公共温泉 250 円に入る。

本山行の核心は途中の道迷いと五頭山の下りだったが、テン場の位置と天気図取り後の偵察も、この山行を決定付けたと思う。すでに 3 月下旬の 1000m 未満の山であったが、積雪多く、山は甘くない、を痛切に感じた諸々学ぶところの多い山行だった。

1168 御坂：天下茶屋～黒岳

【期日】2012. 3. 22 【参加者】橋本

登山口の天下茶屋の気温 6℃、薄曇り・無風。8:25 出発。稜線まで急な登りで稜線に出たところが御坂峠である (8:39)。左折し小さなピークをいくつかアップダウンしながら徐々に高度をあげる。途中は見事なミズナラとブナの樹林。またこの山域は野鳥が多い。御坂山 9:07 着、山頂はやや広いが展望はよくない。アズマシャクナゲが数本。山頂からは緩い下降になるが、一帯はブナの巨木が多い。下降が急になると旧御坂峠である (9:30)。ここからはしばらく緩い登りだがややヤセ尾根になるに従い急登となる。この急登が黒岳への登りであり、アイゼン着用。10:22 黒岳着。すぐ先の展望台に向かう。展望台からは南ア、大きな富士山、河口湖・山中湖、金時山が見える。すぐに下山開始。旧御坂峠 11:03、御坂山 11:27、御坂峠 11:50、天下茶屋 11:58 着。このコースは標高差が約 500m だが、途中アップダウンが多く、予想以上にタフなコースである。登り 2 P1 時間 57 分、降り 1 P1 時間 36 分、所要計 3 時間 33 分。

1169 吉田口～富士山 6 合目

【期日】2012. 3. 28 (金) 【参加者】橋本

馬返し朝の気温 3℃、快晴だが強風。5 合目上の状態が思いやられる。7:51 出発。すぐにアイゼン着用。1 合目 8:01、2 合目 8:22、3 合目 8:38 着。2 月の時より野鳥の声が多い。井上小屋 (4 合目) 9:02、依然として風が強い。5 合目 (佐藤小屋) 9:30、強風のままだが、2 月の時より弱い。佐藤小屋上部には多少のブッシュがあり風を和らげてくれる。ブッシュ帯が終わり、左にカーブして経ヶ岳上部に出たが、トレールが消えており、引き返す。左にカーブした地点から直登のトレールがあった。この直登コースは周囲にさえぎるものがなく、強風が吹きつける。容赦なく氷片が飛んできて体中にぶつかる。6 合目 (5 合 5 勺) の安全指導センター前の急坂をアイゼンを軋ませながらゆっくり登る。砂振り 9:59 着。強風のため、すぐに下山開始。5 合目 10:12、4 合目 10:36、3 合目 10:50、2 合目 11:00、1 合目 11:13、馬返し 11:19 着。到着後、小雪が降り始める。登り 2 P2 時間 08 分、降り 1 P1 時間 20 分、所要計 3 時間 28 分。

四半期山歩き

玉田

こんにちは。3月もあと1週間でおしまいですね。。。人事異動で業務が少々変わることになりました。そのため、4月から10月までは勉強のために毎週土曜日は講習受講。山に行ける時間が限られてしまうけれど、有休を上手に使ってがんばります！これまでは秘書&総務人事でしたが4月以降は秘書&メンタルケア業務へ。メンタル不全者ゼロへ向け職場環境改善、施策仕掛けなどに携わります。そういったお仕事の方いらっしゃったら是非情報交換お願いします。

今年は毎月山に行くぞ！と思いスタート

○1月 埼玉 破風山

こちら長野は雪がたっぷり、いきなり雪山は厳しいので、関東平野に繰り出そう！ということに。一緒に行く人の膝の具合がよくなくリハビリ、トレーニング中なので軽く行ける山、長野からのアクセスが楽なところ、景色がよい山、を探して破風山に。武甲山が目の前に構えて、秩父の町が見下ろせて、よかったです（でも行程的にちょっと物足りなかった(^;)）

○2月 埼玉 丸山

雪の上を歩きたいなあ、景色もよいところがよいなあ、と探して芦ヶ久保から丸山。山頂一帯は「県民の森」として整備されキャンプ場や広場があり、雪がなくなれば山頂直下まで車で行けるようなので夏はにぎわいそうですが、冬は静かに雪遊びができました。頂上にあるコンクリートの展望台の望遠鏡からは赤岳の頂上小屋、展望荘までよく見えました。

○3月その1 長野上田 太郎山

地元 上田市民に愛される里山「太郎山」へ。頂上下5分くらい 軽アイゼン（上野さん、以前譲っていただいたもの使ってます！ありがとうございます～！）でサクサクと。頂上からは眼下に上田市街地、千曲川、遠くには穂高から鹿島槍までくっきり、きれ～いに見えて満足(^)v

○3月その2 群馬 物語山

名前がずっと気になっていました。静かな山で誰にも会いませんでした。登山道を歩くというよりも、斜面を登るという感じでした（アキレス腱がよく伸びました・・・）。浅間、妙義、谷川などがよく見えました。山らしい山でよかったです（昨年夏に行ったテーマパーク状態の谷川岳の記憶が強烈で・・・）

付録：

「岳人」2009年12月号（通巻 No. 750）への掲載記録

0924 朝日連峰/WC：西大鳥川枳形川～東大鳥川西ノ俣沢 B 沢右俣下降～水上沢～東甚六沢下降～泡滝ダム 【期日】2009. 8. 12-17 【参加者】松本，上野，尾崎



自然湖末端で。この後の巻きに苦勞する

12日（雨のち曇り）西大鳥ダムから枳形川左岸の林道に入り、終点からしっかりとしたゼンマイ道をたどる。釣り人の往来も多いのだろう。マイキングに従い下方へ分岐し、30分ほどで枳形川の屈曲部へ下り立つ。岩魚沢出合から3回の泳ぎ、西俣沢出合下のハンク滝を右に巻き（残置ロープあり）、出合上流の河原で幕営。夕方にはアブ、朝にはヤブ蚊の襲来がものすごい。

*西大鳥9:15↓西大鳥ダム10:20↓10:30↓林道終点ゼンマイ道へ11:15↓11:28↓沢へ下りつく11:53↓12:30↓小滝大釜13:42↓14:50↓岩魚沢出合16:35↓幕営地16:50

再登情報 朝日連峰・西大鳥川枳形川～東大鳥川西ノ俣沢B沢右俣下降～水上沢～東甚六沢下降～泡滝ダム
8月12日～17日 松本哲郎、上野午良、尾崎宏和、西朋登高会

13日（曇り後大雨）約1時間溯行すると標高480m地点で右岸に山抜けを見る。水流は滝を成し右から越すと巨大な自然湖にぶち当たる。右岸沿いに水に入るとメタン発酵の不快な臭いに襲われ岸へ。1時間半強のトラバースの後、最後の右屈曲は岩壁に阻まれ15分ほど泳ぐ。湖上に達するころより雨が降り出す。フスベ沢を分けるが3段18m滝は増水で勢いすさまじい。左岸のスラブを3ピッチ100m弱登り、トラバースしてヤブに沿って下降する。大雨はさらにひどい。次の滝は左を巻きそのまま行くと、幸運にも沢床より15分ほどのところに平地を発見。大雨で先が見えないため、まだ13時半だがここで幕営する。

*出発6:10↓山抜け巨大湖末端6:55↓7:40↓湖上8:35↓3段18m滝下9:10↓滝上12:15↓右岸小平地幕営地13:28

14日（雨後晴れ）雨は弱まり、沢も水は多めながら溯行に支障はない。奥の河原を経て枳形川本流を詰めるが、距離は長く時間を要する。1150m地点の滝は右岸のルンゼから高巻くが、悪い泥壁でその後の巻き

登山クロニクル



左岸を巻き終って下りた時の沢の様子。この滝を右岸から巻き進むと平地を発見した

もルートファインディングに注意を要する。右下の沢筋は滝上で左岸より窪が入っており、懸垂で下りて左俣を詰める。このころようやく晴れてくる。柵形山北方の尾根乗越点に15時半着。残念だが柵形山はカット。反対側へほんのわずかで西大島川西ノ俣沢B沢右俣源頭部の明確な窪に出る。4回ほどの懸垂下降を交えて下ると、右のカーブに大きな雪渓が残り、白い冷気が沢沿いに下りている。11000でこれを合わせさらに下り、左岸より小沢を合わせる10800地点に17時半。

15日(快晴) 連続する滝をロープ2本をつないで懸垂下降してゆく。穏やかな河原を過ぎると、標高8900よりゴルジュとなり、念のためロープをつけて泳ぎ下る。幅20mのゴルジュ内で泳ぎを繰り返す。水温は低く体が冷える。B沢左俣を合わせすぐに西ノ俣沢本流の水上沢。意を決し釜に浸かって進んでいく。ここまでで時間を取ったため、化穴山はカットし水上沢右岸の沢(2万5千箇の「水」と「上」の間に入る沢)から東基六沢へ入るショートカットルートをとる。スノーブリッジをくぐりその沢に入る。下部は逆層の滝が続き、直登や巻きに時間を要する。この日最後は深そうなきに逆層の滝であり、右壁泥壁の巻きは悪い。戻って巻くべきだった。穏やか

16日(快晴) 沢の分岐に気をつけて進む。12ほどの階段状の滝に続く二俣を右に入ると、本流は左から滝となって合流する。直登は難しいので正面のルンゼから高巻き、その上に続く滝を一気に巻く。化穴山北稜線の乗り越し点13750に9時10分着。ここから反対側の草付急斜面を下る。草付内部で懸垂2回、大滝の懸垂2回で崩壊堆積地上部に出る。さらに面状への25の懸垂下降を行い、源太沢出合の好適地で最後の

*出発6:46 ↓三俣沢7:30 ↓奥の河原直前8:15 ↓7700に9:48 ↓11500に滝上14:30 ↓柵形山北乗越15:30 ↓15:45 ↓B沢右俣10800地点 点幕営17:30

17日(快晴) 大島池からの本流に出、上流の吊り橋脇から登山道を経て、泡滝ダムに下山する。

夜を迎える。
*出発6:12 ↓12650に7:38 ↓化穴山北稜線乗越8:58 ↓9:20 ↓12800に11:00 ↓11:22 ↓源太沢出合 ↓源太沢出合幕営15:24

17日(快晴) 大島池からの本流に出、上流の吊り橋脇から登山道を経て、泡滝ダムに下山する。

*出発6:06 ↓橋6:30 ↓冷水沢7:00 ↓泡滝ダム8:50

(記 尾崎宏和)

投稿要領

【原稿】特に字数の制限はありませんが、登山の内容を伝える簡潔な記述をお願いします。難読地名にはルビを付けて下さい。メンバーの名前はフルネームで、年齢・所属を明記して下さい。原稿の内容は誌面の都合上、編集部で手を加えることがあります。

【ルート図】市販の地図のコピーに朱書きなどで分かりやすく記入するか、自作して添付して下さい。

【写真】登山内容を伝える写真を同封下さい。

【その他】採用不採用にかかわらず、原稿・写真などは基本的に返却致しません。返却希望の場合はその旨明記して、返却用封筒を同封して下さい。投稿はメールでも構いません。アドレスは巻末にあります。他誌との二重投稿はご遠慮下さい。※お送りいただいた名前・住所などの個人情報は、法令を遵守し、小誌編集の目的以外に使用することはありません。

西朋登高会

「西朋」29号
A4判 1126 ページ



都立西高校山岳部（のちにWV部）のOBで構成される西朋登高会の会報。かつて沢登りで活躍した故・森下道夫さんが歴代主将で名を連ねる。

今回は2004年から3年間の足跡集。20代から30代の若手と、年配組がそろって、沢、雪山、山スキー、クライミングなど、多方面に、本気で取り組んでいる。2004年夏は和賀・堀内沢八

「岳人」2008年10月号
(通巻 No. 736)
西朋29号の紹介記事

滝沢と和賀岳と大鷲倉沢。冬は赤石岳東尾根。2005年冬は農鳥岳北東稜と白峰三山。冬季南アの雪稜はひとつの目標のようだ。高齢になったOBからもういねいな山行報告が入り、半世紀を越えるつながりは連綿と続いていることがうかがえる。

〒274-0813 千葉県船橋市南三咲1-10-48 遠藤彰方

西朋登高会

「西朋」30号
A4判 1134 ページ



「岳人」2010年4月号 (通巻 No. 754)
西朋30号の紹介記事

ここ数年で会報復活も果たし、20代から60代まで幅広いメンバーの意欲的な活動が報告される。今回は2007年4月から08年3月までの足跡、さらに2人の先輩の追悼もまとめられる。

巻頭は安藤英彌さん、上遠野清さんの追悼。若手とともに山行をともにしていた人たちがらしく、多くの仲間からその活動がしのばれている。

山行は雪山、沢登り、縦走までオールラウンド。あまり人の入らないルートも多く、山行記としても面白い。08年5月は増毛・雄冬山と浜益山と群別岳と暑業別岳。春の飯豊・二王子岳と赤津山と門内岳縦走。夏の中ア・伊那川本谷と三ノ沢岳と滑川二ノ沢。新庄神室・土内川銀次郎沢と根ノ先沢左

俣右沢と西ノ又川赤岩沢。秋の尾柳沢川右俣から錫ヶ岳と国境平も渋い縦走だ。年末年始は聖岳東尾根から上河内岳と畑薙ダム。

巻末には正月の那須・朝日岳東南稜に向かう途中で、他パーティーの事故救助にあたった報告。二重遭難への防御、救助の経過があり、現場でのベストな方法の選択の難しさが語られている。

〒225-0021 横浜市青葉区すすき野2-5-10-402
松本哲郎方



聖岳東尾根

総会・西朋祭スタッフ

2009年度 西朋総会
(2009.4.18 荻窪地域区民センター)



2010年度 西朋総会
(2010.4.10 荻窪地域区民センター)



2011年度 西朋総会 (2011.4.9 荻窪地域区民センター)



総会



新京での懇親会



2008年度 西朋祭 (2008.8.23-24 氷川キャンプ場)

小雨がパラつく中での開催でしたが、世代を越えたOBの方々にお集まりいただきました



田中11 遠藤26 三浦18 中村21 松本28 杉坂G
 渡辺21 山野19 黒澤10 松田9 島田53 青谷28 尾崎47
 通徳さんお子さん
 敬称略 数字は期

都岳連遭難対策委員の杉坂さんをゲストにお招きして、テーピング講習会も実施しました!!



2011年度 西朋祭 (2011.8.27-28 氷川キャンプ場)

超OBの方々の声かけにより、6-14期のメンバーが集結しました



小川12 宇佐美28 黒澤10 吉田13 田中11 川田12 板垣14 青谷28
 関谷11 松田9 佐藤先生 米野6 飯塚6 松本28 尾崎47
 敬称略 数字は期



山野さん19期



渡辺さん 21期



近況報告に皆、聞き入ってます...



林さん 6期



小田さん 6期

西高ワンダーフォーゲル部の記録

【2009年度】

山行名	期日	行先	備考
新入生歓迎山行	5月9日	高川山	
6月山行	6月13-14日	大菩薩嶺	雨天中止
7月山行	7月4-5日	八ヶ岳:権現岳	
夏山合宿	8月17-21日	北アルプス:穂高岳	
10月山行	10月10-11日	阿弥陀岳・赤岳・硫黄岳	6月山行の代替
12月山行	12月23日	甲州高尾山	
春山山行	3月26日	箱根・明神ヶ岳	

【2010年度】

山行名	期日	行先	参加者
新入生歓迎山行	5月8日	奥多摩:本仁田山	林, 蓼沼, 伊豆, 小海, 堀口, 小池, 岩崎, 菰田, 佐藤 佐藤, 井上, 平野, 横田, 村上, 小川, 松本, 古垣
6月山行	6月12-13日	大菩薩嶺	林, 蓼沼, 伊豆, 小海, 堀口, 岩崎, 菰田, 佐藤, 佐藤 井上, 横田, 村上, 小川, 松本, 古垣, 龍見
7月山行	7月3-4日	八ヶ岳:天狗岳	林, 伊豆, 小海, 堀口, 菰田, 佐藤, 佐藤, 井上, 村上 小川, 龍見
夏山合宿	8月2-6日	北アルプス:常念山脈縦走	林, 蓼沼, 伊豆, 小海, 堀口, 岩崎, 菰田, 佐藤, 井上 村上, 小川, 松本, 龍見
秋山山行	12月18日	丹沢:鍋割山	小海, 堀口, 磯野, 菰田, 佐藤, 佐藤, 井上, 横田, 村上, 小川, 松本, 古垣
春山山行	3月	幕山	中止

【2011年度】

山行名	期日	行先	参加者
新入生歓迎山行	5月	奥多摩:御前山	小海, 堀口, 菰田, 佐藤, 佐藤, 井上, 村上, 小川, 松本, 古垣, 龍見, 宮原, 原, 丸山, 上野
6月山行	6月	大菩薩嶺	小海, 堀口, 菰田, 佐藤, 佐藤, 井上, 古垣, 龍見, 宮原, 上野
7月山行	7月	八ヶ岳:権現岳	小海, 堀口, 佐藤, 佐藤, 井上, 村上, 小川, 松本, 宮原, 原, 上野
夏山合宿	8月	北アルプス:穂高岳	堀口, 菰田, 佐藤, 佐藤, 村上, 小川, 松本, 宮原, 丸山, 上野
秋山山行	12月	奥多摩:日の出山	菰田, 佐藤, 佐藤, 井上, 村上, 小川, 龍見, 宮原, 原, 丸山, 上野
春山山行	3月	奥多摩:棒ノ折山	林, 蓼沼, 伊豆, 小海, 堀口, 磯野, 佐藤, 井上, 横田, 小川, 龍見, 上野

西朋登高会 会則

1986年9月1日制定

2001年4月23日改定

第1章 名称・目的

第1条 本会は「西朋登高会」と称する。

第2条 本会はスポーツ精神を遵守し、会員相互の登山活動を協力して実践すると共に、西高ワンダーフォーゲル部の指導にあたる。

第3条 本会の事務局は、毎年、総会において定める。

第2章 組織・会員

第4条 本会の会員は、西高ワンダーフォーゲル部に在籍したもの、または有志で、総会で承認を受けたものにより構成する。

第5条 本会は次の役員をおく。

1. 会長……………会を代表し、事務局をおく。
2. チーフリーダー……………山行全体を掌握する。
3. 学生リーダー……………学生を中心とした山行を掌握する。
4. 会計……………財政を管理する。
5. 装備……………共同装備を管理する。
6. 記録……………山行記録をまとめ、会報および西朋通信を発行する。
7. 西高係……………西高ワンダーフォーゲル部を指導する。
8. ホームページ係……………西朋登高会ホームページを管理する。
9. 超OB係……………現役を引退したベテラン会員対象の山行を企画実施する。

第6条 前条の役員のうち、会長は総会にて選出し、他の役員は会長が指名する。

第7条 本会は4月に、会長が召集して総会を開く。

第8条 総会では、次のことを議事とする。

1. 前年度活動報告
2. 前年度会計報告
3. 新年度役員選出
4. 新年度活動計画
5. 新年度予算案
6. 新会員承認
7. 会の運営に必要な事項

第9条 本会は原則として毎月1会、チーフリーダーが召集して例会を開く。

第10条 例会では、次のことを議事とする。

1. 山行報告
2. 山行計画
3. 会の運営に必要な事項

第11条 本会は年1回、会員相互の親睦を図るため、西朋祭を行う。

第12条 本会には次の会員を置く。

1. 特別会員…西高ワンダーフォーゲル部の顧問を務め、本会に大いに言献した先生。
2. 一般会員（現役会員）…会の活動に関心を持ち、合宿山行や総会、例会及び西朋祭などに参加する会員。
(会報、西朋通信などを事務局より送付する)
3. OB会員…現在は会の活動から遠ざかっているが、総会や西朋祭に参加でき得る会員。
(総会などの連絡・会報・西朋通信のみ事務局より送付する)
4. 超OB会員…現在は会の活動から遠ざかっているが、総会や西朋祭に参加できる会員。
(総会などの連絡・会報・西朋通信等、連絡不要の会員)

第13条 前条のOB会員及び超OB会員について、次の場合一般会員（現役会員）より移行する。

1. 本人の希望による。
2. 5年以上連絡がない人は、総会での協議により、OB会員とする。後に本人の希望により、一般会員に戻ることができる。

第3章 会費・会計

第14条 本会の運営のため、次のとおり会費を徴収する。

1. 一般会員（現役会員） : 年額 4000 円
2. OB会員 : 年額 1000 円（数年分前納できる）
3. 特別会員・超OB会員 : 会費なし

第15条 一般会員のうち、合宿山行などに積極的に参加する会員からは、装備費を別途徴収する。

第16条 会計年度は、4月から翌年3月までとする。

第17条 会計は、普通会計と特別会計に分ける。

第18条 普通会計は、会費収入をあて、装備・会報発行・通信事務などに使う。

第19条 特別会計は、西高ワンダーフォーゲル部指導謝礼金および会費収入よりの積立

金および寄付金をあて、遭難対策基金とする。

第4章 山行

第20条 本会は、次の合宿山行を持つ。

1. 新人合宿
2. 夏山合宿
3. 冬山合宿

第21条 会員は合宿山行の他に、各人の目的に応じて、個人山行を行う。

第22条 山行に前もって、計画をチーフリーダーに知らせる。

第23条 山行計画には、次のことを明記する。

1. 行程
2. 同行者
3. 最終下山予定日
4. 緊急連絡先
5. その他

第24条 山行後、山行報告を記録係に提出する。

第5章 西高ワンダーフォーゲル部の指導

第25条 本会は、西高ワンダーフォーゲル部が安全かつ意欲的な活動を実践できるよう、部の顧問教諭と協力して指導にあたる。

第26条 西高係は、顧問教諭およびワンダーフォーゲル部員と密接な連絡をとる。

第6章 装備

第27条 本会は共同装備を持ち、会員はこれを利用できる。

第28条 装備係は共同装備を管理する。

第29条 個人装備は各個人が負担する。

第7章 遭難対策

第30条 会員が遭難したときには、一致協力して救助に努力する。

第31条 積極的に山行している会員は、山岳保険に加入する。

第32条 山岳保険金の使途に関する権限は、本会が有する。

第33条 遭難が起きたときには、会に遭難対策本部を設置し、会長は必要な係を任命する。

第34条 遭難救助に要した経費は、山岳保険金をあて、不足分は当事者が負担する。

第35条 会の遭難救助基金は、当座必要な費用の立替に使う。

第8章 会則の修正・改正

第36条 この会則の修正や改正は、総会で議決する。

第9章 施行

第37条 この会則は、2002年度の総会后より施行する。

西朋 31 編集後記

火と水と雲は、ずっと見ていて飽きないと思う。炎の揺らぎ、沢のせせらぎ、湧き行く雲、夏の雄大な沢登りにいずれも欠かせない要素だろう。何といても仲間との沢登りで焚き火は楽しい。

夏によく行く東北は、昔はアイヌのエリアだったことは知られている。これまで繰り返し登ってきた、和賀や神室でみられる「ナイ」地名はその痕跡だという。アイヌ語で、「火」は「フィ」、「水」は「ワッカ」であるらしい。ある本で、これらは英語でも「Fire」、「Water」と、人の営みの根源にかかわるものは、言葉も似ていると書いていた。なるほど「雲」は「Cloud」だ。アイヌ語では何というのか調べてみたい。

沢登りなど、あれだけ泥ぐちゃになる山行は、以前はどちらかといえば苦手な部類だった。でも今では、目標の山域を、線でなくて面として、縦横無尽に登ることを可能とする、好きなスタイルのひとつとなった。無論、「和賀」の語源は「ワッカ」だという。

2012年5月13日 47期 尾崎 宏和

西朋登高会ホームページ <http://www.seihou.cside.com>

本会報に掲載・非掲載のカラー写真、「西朋」、「彷徨」のバックナンバーを閲覧できます。会員専用ページから掲示板・アルバム編集ページ・備品リスト・Web名簿などが利用できます。

西朋 31

2012年6月発行

発行者 西朋登高会（会長 松本 哲郎）

発行所 横浜市青葉区すすき野 2-5-10-402

松本 哲郎 付 西朋登高会

編集者 尾崎 宏和

印刷所 石川特殊特急製本(株)